

C2  
1113  
5302

現行  
改訂  
山梨縣令達全書  
卷三

02  
1113  
53-02



第九類 社 寺

甲第百八十三號

明治十年  
十月十九日

正改 郵村社規則  
明治七年甲第十四號及ヒ全年甲第五十一號布達郵村社規則別紙之通改正候條此旨布達候事



第一條 郵村社規則 兼務セシメ該區村社祠掌ヲ兼シムヘシ其社  
領取并營繕 掃除等ハ祠官氏子協議方法ヲ設テ區戶長ノ承認ヲ得テ施行スヘシ

第二條 祠官ノ職務ハ祠官氏子協議方法ヲ設テ區戶長ノ承認ヲ得テ施行スヘシ

第三條 祭典ハ舊例ヲ追ヒ執行スヘシ

第四條 郵村社營繕費并ニ祭典料ハ氏子又ハ信仰者ノ寄附金等ニテ支辨スヘシ

第五條 神器其外寶什物ハ每歲一度祠官區戶長氏子總代立會目錄ニ照シ調査ノ上相違ナキニ於テハ封  
印シ從前ノ手續ヲ以テ庫倉ニ納ムルカ又ハ區戶長役場ヘ預ケ置クヘシ

第六條 賽物ハ一社限リ祠官區戶長氏子總代立會日々取繼メ祭典其他一切ノ社費ニ充ツヘシ

第七條 神官轉免新任ノ節ハ任免ノ當日ヨリ十日間ニ新舊神官氏子總代區戶長立會神器其他目錄ニ照  
シ受渡シテナシ其旨届出ツヘシ

第八條 神官ノ職務ハ兼テ公布ノ神官奉務規則ニ依遵シ其他時々布達ノ通相心得ヘシ

第九條 各郵村社ハ氏子中ノ氏子ナキモ相應ノ財產ヲ有シ衆望ノ歸スル者ヨリ惣代人三名以上相撰ニ其  
第九類 社 寺

町村役所へ届出置今後該社ノ願届等ハ渾テ連署ヲ以テ差出スヘシ又社收入財產田畑山林ノ所得ハ勿  
ノ受納セシ其共有ニ屬スヘキモノト神官ニ付スルモノトノ豫約適宜相定メ置平素混亂セサル様取調  
方致スヘシ

但雜社モ本條ニ準ス且惣代人ハ該社氏子又ハ信徒一同ニテ公撰スヘキモノトス

(二) 祠官給料渡方ノ件 明治十二年 二月廿八日

甲第六十一號

明治十年甲第二百八十三號布達郷村社規則第二條祠官給料收入并ニ渡方ノ義ハ自今町村戸長及ヒ氏子  
總代協議年番ヲ定メ其順番町村戸長ニ於テ負擔候様可致此旨布達候事

(三) 社寺創立再興復舊出願方 明治十三年 十二月廿七日

乙第八十七號

郡町村役所

自今社寺ノ創立再興復舊等都テ員數ノ増加ニ係ル事件ヲ出願候者有之節ハ左記ノ件々詳細明細書相添  
願書正副四通爲差出候様可取計此旨相達候事

一 社寺創立再興復舊等ヲ要スル理由及建設後施行ノ目的

但再興復舊ハ當初廢絶合併ノ年月并次第共

一 社殿堂宇諸建物坪數繪圖面並目論見仕様ノ事

一 永續資本ノ財產動産不動産等ノ細目並發願者即爾後該社寺一切ノ總人員

一 境内地坪數及社寺名受若クハ人民共有名受ノ別

(四) 神社寺院等創立再興復舊建設方 明治十五年 十一月廿二日

告第百三十五號

神社寺院等創立再興復舊許可ノ分ハ今後滿二年以内ニ建設スヘシ其建物巨大ニシテ工事數年ニ渉ル可

キ者ハ更ニ狀ヲ具シ伺出許可ヲ受ルモノトス且其他在來ノ社寺ニシテ變災ニ遭ヒ建物悉皆烏有ニ歸ス  
ル者ハ滿五年ニ再建シ何レモ其時々當應ヘ届出ヘシ若シ右期限ヲ過キ建設セサル者ハ一面ハ許可ヲ停  
メ一面ハ社寺明細帳ヲ削除候條此旨告示候事

(五) 僧尼公認ノ件 明治九年 十二月十九日

甲第三百九拾三號

僧尼公認之儀左之通公布相成候條此旨布達候事

僧尼ト公認シル者ハ諸宗教導職試補以上ニ限リ候條此旨布告候事

(六) 祠官住職進退其他出願ノ場合與書方 明治十年 九月十五日

乙第百拾八號

區長  
戶長

神社祠官并寺院住職進退及社寺什物處分ニ關スル願伺等神社ハ氏子惣代貳名以上寺院ハ檀家惣代貳名  
以上及ヒ法類連署本寺觸頭與書ノ上可爲差出此旨布達候事

但他管轄ニ有之本寺ハ與書ニ不及候條其旨記載可爲致事

(七) 氏子換届出方 明治十五年 五月十二日

甲第六十二號

各町村鎮座氏神之義ハ其土地ニ就キ從來一定ノ區域有之義ニ付各自ノ信否ニ任セ猥ニ去就スヘキ筈ハ  
無之候得共若シ町村分合等ニヨリ不得已場合有之甲社ノ氏子一部落舉テ乙社ノ氏子ト相成節ハ甲乙社

神官氏子協議ノ上双方連署届出ヘシ

右布達候事

(八) 寺院總代人撰定方 明治十四年 八月三日

第九類 社 寺

甲第百拾五號

寺院總代人ノ義檀家中ノハ信徒相應ノ財産ヲ有シ衆望ノ歸スルモノ三名以上相撰ニ其町村役所へ届出置今後該寺院ノ願肩等ハ渾テ連署ヲ以テ差出スヘシ又該寺院收入財産田畑山林ノ所得ハ勿論賽物祈ヲ云其共有ニ屬スヘキモノト住職ニ付スルモノトノ豫約適宜相定メ置平素混亂セサル様取調方致スヘシ此旨布達候事

但庵堂ノ類モ本文ニ準スヘシ且該總代人ハ檀家又ハ信徒一同ニテ公撰スヘシ

(九) 教法部類ニ非サルモノ結集方 明治十五年十二月十九日 告第百四十九號

縣社以下神社附屬ノ講社ニシテ教法部類ニ非サルモノ今後新ニ結集スル者ハ其方法場所等詳具シ當廳へ届出認可ヲ受ヘシ此旨告示候事

(十) 社寺守札及神佛號書像方 明治十五年十二月廿五日 告示第百五十四號

神社寺院之守札ト認ムヘキモノ及神佛號ヲ記載セシ書像ハ其神社寺院之外出板不相成冒内務省ヨリ達有之候條此旨告示候事

但從前届濟之分ニテ右ニ抵觸スルモノハ伺出指揮ヲ受ヘシ

(十一) 社寺境内建物修築又ハ樹木伐採出願方ノ件 明治十六年八月十四日 乙第百拾八號

郡 町 村 役 所

明治十一年乙第四十七號達ニ依リ出願聽許ヲ受タル社寺有ノ境内及ヒ從來民有ニ屬スル社寺境内ト雖モ建物修築又ハ樹木伐採等ハ出願許可ヲ受タルニ非サレハ着手不相成管ニ候條心得違無之様豫テ夫々へ諭示可致置爲念此旨相達候事

(十二) 社寺境内貸渡料ノ件 明治十九年六月廿八日 乙第百六十四號

郡 役 所

自今官有ニ係ル社寺境内地貸渡料ノ儀ハ其社寺修繕費トシテ下渡スヘシ候條貸渡料上納候ハ、直チニ其社寺へ交附シ社ハ神官并氏子惣代寺ハ住職及ヒ檀家惣代連署ノ受領証取立差出スヘシ此旨相達候事

(十三) 祠官祠堂寺院住職旅行等ノ節代理人取定ノ方 明治十四年十月六日 甲第百五拾號

本年甲第百三十四號ヲ以テ郡長へ委任條件第一項改正候ニ付テハ自今縣社以下祠官祠堂及ヒ寺院住職旅行又ハ事故休暇候節ハ必ス代理人ヲ定メ本人並ニ氏子又ハ檀家惣代三名以上連署其村役所へ届出ヘシ此旨布達候事

(十四) 神官撰舉出願ノ節証書添付ノ件 明治十五年九月十一日 告示第百五號

今般皇典講究所設置ニ付府縣社以下神官撰舉之節該所ノ卒業証書無之者ハ皇典講究所本分所ノ試験ヲ受サセ試験済ノ証書相渡候管之旨内務省ヨリ達ノ趣モ有之候條今後撰舉出願ノ向ハ該所卒業証書寫若シハ試験済ノ証書ヲ副へ届出ヘシ此旨告示候事

(十五) 祠官祠堂撰舉注意ノ件 明治二十四年一月四日 告諭第一號

祠官祠堂ノ職タルヤ執務左迄煩繁ト云フニアラサルモ其任スル所極ノテ重シ其由ハ元來國家ノ宗祠タル上ハ盛徳大業ノ皇祖皇宗下ハ國家ニ功勳アル忠臣義士又ハ土神氏祖等ヲ奉崇シ報本反始ノ大禮ヲ盡シ功勳表彰ノ節義ヲ致ス是即チ國民タリ子孫タルモノ必ス欠クヘカラサル義務ヨリ起ルモノニシテ府縣社以下ト雖トモ

第九類 社 寺

又之ニ外ナラス然リ而シテ祠官掌ノ如キハ之ニ奉事シテ即其一部團體ノ民人ニ代リ衆庶ノ義務ヲ統合  
 シ以テ追遠ノ實義ヲ盡スヘキ職任ナレハ其實實ニ輕シトセス然則其人ヲ撰ムヤ誠實ニシテ且德望アリ  
 一部國中ノ長者ヲ以テ之ニ舉ク其撰ニ當ルモノハ之ヲ名譽トシ宜ク衆庶ノ實義ヲ代表スヘキモノナル  
 ハ固ヨリ言ヲ俟タサルナリ然ルニ輒近當職選舉ノ情況ヲ視ルニ中ニハ撰者ハ之ヲ雇人視レ被撰者亦之  
 ナ怪シマサルカ如キモノナリトセス蓋シ其人ヲ得サルヤ弊害尙茲ニ止マラス終ニ祭事ノ重ニスヘキ即  
 祖宗ノ鴻恩ヲ忘却シ國家ニ忠義ヲ失スルニ至ランモ圖ラレヌ臣民タルモノハ  
 皇祖皇宗ノ鴻恩ヲ奉戴シ功勳節義ノ士ヲ追慕シ之ニ報ルニ祭事ノ重ニスヘキ當職ノ輕カラサルヲ辨シ  
 其撰擧ヲ丁重ニ當撰其人ヲ得テ以テ祭祀ノ全キヲ得ノコトヲ怠ラサル様注意スヘシ  
 (十六) 佛像他管持出開帳出願方 明治十七年 四月七日  
 丙第二號

各宗事務代理頭

今般内務省ヨリ達之趣モ有之候ニ付明治九年丙三十六號達應止候條自今寺院佛像他管持出開帳之義ハ  
 該寺住職檀家惣代無檀家寺院及本寺法類連署ノ上木山添書ヲ以テ甲乙丙管應へ出願候様各寺院へ通達  
 可致此旨相達候事  
 但寶物持出之義ハ不相成義ト心得ヘシ  
 (十七) 宗旨檀寺記載及ハサル件 明治十七年 十一月十四日  
 乙第百拾六號

郡役所 戶長役場

自今戶籍帳簿及送籍証へ宗旨檀寺ヲ記載スルニ及ハス候條此旨相達候事  
 (十八) 社寺所有地名義ノ件 明治廿三年 十二月廿二日

達甲第四十一號

社寺境内及其所有地 田畑山ニシテ其名受一己人ノ名義ヲ以テスルモノアリ右ハ他日混亂ヲ生スルノ恐  
 レ少カラス候間總テ社寺名義ニ書改メ更ニ其届出サシムヘシ  
 (十九) 社寺所有品書質入ノ節何出方 明治十九年 一月十五日  
 甲第貳號  
 社寺所藏ノ寶物古文書若シハ別段ノ由緒アル地所建物ハ抵當ト爲スヘカラサル等ニ付自今社寺ニ於テ  
 所有ノ物品地所建物ヲ質書入セントスルトキハ其物件ノ成立ヲ詳記シ當應へ伺出認可ヲ受クヘシ  
 右布達候事  
 (二十) 文明十八年以前創立ノ社寺出願方 明治十一年 五月二十日  
 乙第四十七號

區長 戶長

官國幣社式社及ヒ文明十八年以前創立ニ係ル社寺并公園地區畫中ノ社寺ヲ除ク外官有地ニ在ル社寺  
 ニテ境内區畫決定ノ分ニ限リ該社寺於テ請願候ハ、無代價下渡民有地第一種ニ可組替旨内務省達ノ趣  
 モ有之候請願ノ向ハ創立年號并社寺格及反別等詳記可願出願社寺へ通達可致此段相達候事  
 (廿一) 府縣鄉村社神官奉務規則 明治二十四年 七月二十日  
 達甲第廿一號

第九類 社 寺

郡役所

八  
市役所  
村役場  
縣鄉村社神官

今般府縣鄉村社神官奉務規則左之通改正セラレ候條此旨相心得ヘシ

府縣鄉村社神官奉務規則

第一條 神官ハ神明ニ對シ尊崇悃誠ヲ主トシ典例ニ從ヒ各其本務ヲ盡スヘシ  
第二條 神官ハ祭祀ノ典則舊來ノ儀式ヲ遵守シ決シテ紛亂スヘカラス其社ノ例祭民俗因襲ノ神賑等ハ適宜行フコトヲ得

但臨時祭ヲ行ハントスルトキハ所轄警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ

第三條 神官ハ人民ノ請求ニ應ジ神符神像等ヲ授クルハ妨ケナシト雖モ尙モ貪汚ノ所爲アルヘカラス

第四條 神官ハ社殿及其境内ヲ清潔ニシ修造取締等常ニ意ヲ注キ舊觀ヲ失墜セス汚穢破損ニ至ラシムヘカラス

第五條 神官ハ神社所藏ノ什器及古文書類ヲ監護シテ散逸セシムヘカラス如何ナル場合ト雖モ賣却讓與又ハ質入書入スヘカラス

第六條 神官ハ神社所有ノ財産ヲ管理シ金穀ヲ出納スヘシ

第七條 神官ハ其管理不動産積立金穀ヲ濫リニ賣却讓與又ハ質入書入スヘカラス若シ不得已必要アルトキハ氏子又ハ信徒ノ協議ヲ經テ地方廳ノ許可ヲ受クヘシ

第八條 神社ニ委託山林アルトキハ其栽植伐採其他山林ノ保護ニ注意シ損害ヲ來スカ如キコトナカラシムヲ要ス

(廿二) 官有地社寺境内使用并竹木伐採出願手續  
明治廿四年 十月十二日  
甲第二十三號

郡役所  
市役所  
村役場  
神社  
寺  
(國幣社除ク)

官有地社寺境内使用并竹木伐採出願手續左之通り相定ム

官有地社寺境内使用并竹木伐採出願手續

第一項 官有地社寺境内ヲ使用セシメントスルトキハ其事由ヲ詳記シタル願書(氏子又ハ檀家總代人ノ信託總代人)ニ圖面相添市ハ市役所郡ハ村役場及郡役所ヲ經テ當廳ノ認可ヲ請フヘシ但祭典等ニ際シ一時ノ使用ハ其社寺限リ承諾スルコトヲ得

第二項 官有地社寺境内ノ竹木枯損木障礙木ヲ伐採セントスルトキハ願書ニ左ノ調書相添前項ノ手續ニ依リ當廳ヘ願出ヘシ

一 伐採スヘキ竹木及枯損木障礙(一本毎ニ目通り及長)調書

一 境内總竹木(目通り及長寸尺記)調書  
(載方前項ニ全シ)但枯損木伐採願ニハ本書ヲ要セス

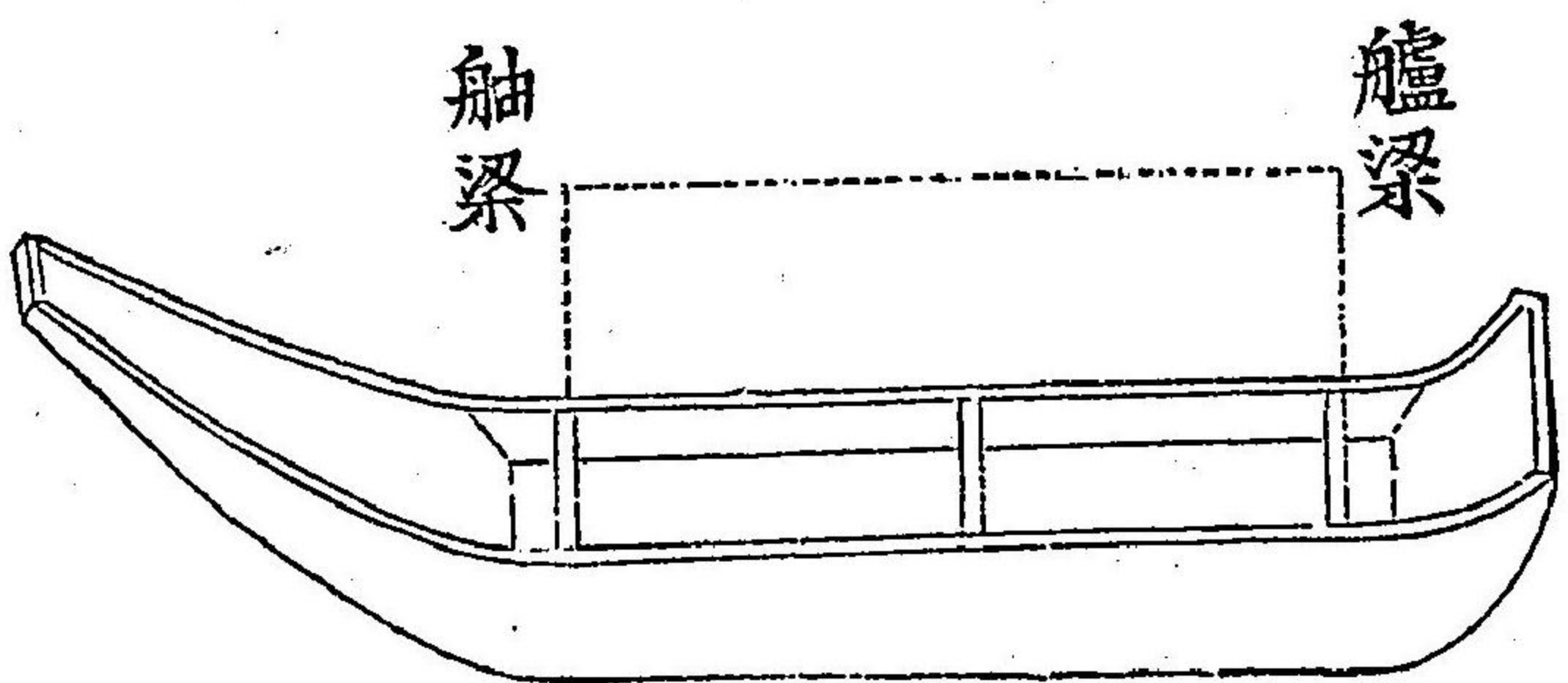
一 圖面

第三項 社寺境内ノ使用料并ニ其他ノ收益ハ其社寺ノ收入ニ屬ス

第十類 回漕運輸

(一) 解漁船小廻船船體梁定メ方 明治十四年 七月五日  
乙第五拾六號

人民所有之解漁船小廻船等ノ類自今左之圖面ノ梁ヲ以船體梁ト定メ其内法長間ヲ量リ船稅徵收候義ト可相心得此旨相達候事



十

(二) 富士川通船營業取締規則 明治廿四年 八月十日  
縣令第六十號

富士川通船營業取締規則左之通改正ス

富士川通船營業取締規則

- 第一條 富士川通船水夫營業ヲナサントズル者ハ所轄警察官署へ届出鑑札ヲ受クヘシ但伴乗ハ滿十五年以上小船頭ハ滿十二年以上ノ者トス
- 第二條 轉居改氏名又ハ鑑札檢査証等ヲ遺失毀損シタルトキハ速カニ所轄警察官署ニ届出書換ヲ請ヒ廢業シタルトキハ届出ヘシ
- 第三條 營業ニ關スル願届書ニハ取締人ノ加印ヲ受ケ差出スヘシ
- 第四條 營業用ノ船艇(屬具トモ)ハ使用前持主ヨリ所轄警察官署へ申出檢査ヲ受クヘシ
- 第五條 營業用ノ船艇ハ滿一ケ年毎ニ更ニ檢査ヲ受クヘシ但警察官ハ臨時ニ檢査スルコトアルヘシ
- 第六條 檢査証ハ船内見易キ所ニ釘付スヘシ
- 第七條 船艇一艘ノ水夫ハ四人以上トス若シ伴乗リ及小船頭ヲ乘船セシメントセハ各一人ヲ限乘船セシムヘシ
- 第八條 鑑札ハ營業中必ス携帯スヘシ且他ニ貸借讓與スルヲ許サス
- 第九條 白痴瘋癲人ハ水夫タルヲ得ス
- 第十條 船艇一艘ノ積量ハ乗客十五人貨物ハ三百貫目ヲ超過スヘカラス但七歳以上十二歳未滿ハ二人ヲ一人ト看做シ七歳未滿ハ定員外トス
- 第十一條 乗客ト貨物ヲ併載セントスルトキハ釐人ニ付貳十貫目ノ割合ヲ以テ貨物ノ量ヲ扣除スヘシ
- 第十二條 乗客ノ手荷物合量貳十貫目以上ニ及フトキハ前條ニ準シ乗載スヘシ
- 第十三條 下リ船ハ歙澤南部岩淵巡査派出所又ハ駐在所ニ上リ船ハ岩淵南部歙澤巡査派出所又ハ駐在所ニ上リ船ハ回漕運輸

十一

- 所ニ乗客員數及貨物送狀ヲ差出シ積荷ノ檢査ヲ受クヘシ
- 第十四條 夜間又ハ出水其他危險ノ虞アルトキハ出船スヘカラス又常水ノ時ト雖モ乗客ニ於テ危險ト認メ上陸回避センコトヲ望ムルトキハ速ニ之ニ應スヘシ
- 第十五條 通船互ニ行途ヲトキハ堅シ慣習ヲ守リ衝突ノ危難ヲ避クルヲ勉ムヘシ又航運中他人ノ危難ヲ認メタルトキハ速ニ協力救助スヘシ
- 第十六條 航運中故ナシ停船シ又ハ強テ乗船ヲ勸メ若シハ名義ノ何タルヲ問ハズ定額外ノ金錢ヲ求ムヘカラス
- 第十七條 乗客ハ都テ叮嚀ニ取扱ヒ苟モ侮慢ノ所爲アルヘカラス就中發病者アリタルトキハ懇切ニ取扱ヒ傳染病者アルトキハ直ニ届出ヘシ
- 第十八條 乗客上陸ノ際ニハ遺留品ナキヤニ注意シ若シ之レアリタルトキハ其主不分明ナレハ直ニ最寄警察官署ヘ届出ヘシ
- 第十九條 火藥其他劇發物ヲ乘載シタルトキハ旅客ヲ乘船セシムヘカラス
- 第二十條 客船ハ不潔ナラサル様掃除シ傳染病其他乗客ニ於テ厭忌スル病狀アルモノ又ハ看護人ナキ瘋癲者并ニ亂醉者其他甚敷臭氣ヲ發スル汚穢物等ハ乘載スヘカラス
- 第二十一條 營業者ハ所轄警察官署ノ管轄ヲ以テ一區域トシ營業者中ヨリ取締一名ヲ公撰シ所轄警察官署ヘ届出ヘシ
- 第二十二條 乗客ノ賃錢貨物ノ運賃ハ營業各區域ニ於テ一定シ所轄警察官署ニ届出ヘシ其變更セントスルトキ亦同シ但賃錢定額表ハ船中見易キ處ニ掲ケ置クヘシ
- 第二十三條 取締人ハ其區域内ノ營業者營業上ノ諸般ニ注意シ不都合無之様取締ヲナスヘシ
- 第二十四條 警察官ニ於テ取締人其任務ニ不適當ト認メタルトキハ改撰セシムルコトアルヘシ
- 第二十五條 取締人ハ其區域内營業者ノ名簿ヲ備ヘ及諸達命令等ノ書類ヲ保存シ更任ノ際ハ后任者ヘ

引繼ヘシ

- 第二十六條 各取締人ノ事務ニ屬スル實費并ニ報酬ハ其區域内營業者負擔スヘシ
- 第二十七條 營業規約ノ必要ヲ認メ之ヲ設ケタルトキハ所轄警察官署ヘ届出認可ヲ受クヘシ
- 第二十八條 第一條第四條第五條ニ違犯シ又ハ第二十六條ニ違背シ區域外ノ者ヨリ口實ヲ設ケテ徵金シタルモノハ二日以上五日以下ノ拘留又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處シ第十六條第十九條ニ違犯シ又ハ第十四條ニ違ヒ夜間又ハ出水ノ際出船シタルモノハ二日以上三日以下ノ拘留又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處シ第七條第十條第十一條第十二條第十三條第二十二條ニ違犯シタルモノハ一日ノ拘留又ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス



第十一類 土地土功

十四

(一) 土石拂下規程 明治二十二年  
縣令第六十二號 八月三十一日

土石拂下規程別紙之通之レヲ定ム

土石拂下規程

- 第一條 官有山野及其他ノ官有地ニ於テ土石ノ拂下ヲ出願セント欲スルモノハ別紙第一號書式ニ準  
縣廳へ願出許可ヲ受クヘシ
- 第二條 土石拂下ノ許可ヲ受ケタルトキハ速ニ代金ヲ完納シ其引渡ヲ受クヘシ
- 第三條 拂下ヲ受ケタル土石ノ採取及搬出期限ハ一ケ年以内トス但期滿ノ節ハ營業人ノ自費ヲ以テ危  
險ノ虞ナキ様採取口ヲ修理シ檢査ヲ受クヘシ
- 第四條 前條ノ期限內ニ於テ採取及搬出セサルモノハ許可ノ効ヲ失シ其土石ハ官沒ス但正當ノ事故ニ  
因リ採取又ハ搬出シ得サルモノニ限リ出願ニ依リ相當ノ延期ヲ與フルコトアルヘシ
- 第五條 土石拂下出願以前ニ於テ試掘ヲ爲サント欲スルモノハ半ケ年以内ノ期限ヲ定メ別紙第二號書  
式ニ準シ縣廳へ願出許可ヲ受クヘシ
- 第六條 凡ソ石ハ一尺立方ヲ以テ一切トシ切以下ハ分厘ヲ以テ算出シ土砂ハ六尺立方ヲ以テ一坪トシ  
坪以下ハ合勻ヲ以テ之ヲ算出スヘシ
- 第七條 此規程ハ日本坑法第一章第三款所屬ノ土石類ニ限リ施行ス

(第一號書式)

何郡何村字何々  
何 何 程

何郡何村字何々

何 何 程

此代金何程 但一切ニ付何程  
此採取區域 縦何間 横何間  
採取又ハ搬出期限明治何年何月何日限  
右ハ土石御拂下規程ヲ遵守シ保証人連署ヲ以テ別紙圖面ノケ所ニ於テ御拂下奉願候尤御聞届相成候  
上ハ速ニ代金上納可仕候也

年 月 日

何郡何町村何番地族籍  
何ノ 某印  
全

保証人  
何ノ 某印

山梨縣知事宛

(第二號書式)

何石試掘願

何郡何村字何々  
一何石試掘場 何坪  
此試掘期限 明治何年何月何日限  
右土石御拂下規程第五條ヲ遵守シ別紙圖面ノケ所ニ於テ試掘仕度候間御聞届被成下度保証人連署ヲ  
以テ此段奉願候也

年 月 日

何郡何町村何番地族籍  
何ノ 某印  
全

第十一類 土地土功

十五

十六  
保証人  
何ノ某印

(二) 土地開墾願出方  
山梨縣知事宛  
明治十五年  
一月廿八日 (印ハ朱書)

甲第二十一號  
氏有ノ土地ヲ開墾スルニ際シ鐵下年期ヲ願出ルトキハ實際要スル費用ト成功ノ後該地ヨリ得ヘキ收利トヲ豫算シ其費用ヲ償却シ得ヘキ方法別紙雛形ニ倣ヒ詳細取調願書ニ副ヘ可差出此旨布達候事  
開墾費用并收利取調書

一開墾反別何反何畝歩

此人夫何人

但壹反ニ付  
何人積

此賃金何程

但一人ニ付  
金何程

成功後壹ケ年

收量

但壹反ニ付  
何石

此金何程

但壹石ニ付  
金何程

内 金何程

素地ニ係ル地稅  
并地方稅協議費  
種糶肥料

收利金何程

穀收利金何程

桑綿大豆其他收量ノ物品

モ本文ニ倣ヒ記載スヘシ

百收利ヲ以テ豫算スレハ何ケ年間全費用ヲ償却可致見込ニ御座候右申仕候也  
何郡何村

明治年月日

長 官 宛

戸 何 之 誰  
何 長 之 誰

(三) 居住地外ニ所有地アル者等納稅代理者取定メ方  
明治十五年  
六月十日

甲第七十二號

居住地外ノ町村ニ於テ地所々有スル者又ハ居住町村ニ於テ地所々有スルト雖モ常ニ出務等ヲ業トナシ  
モノ、内單身ニシテ家族ナキモノハ地稅其他諸稅及町村費等納付方取扱ハシムル爲メ豫テ地元町村ヘ  
代理人ヲ置キ其氏名町村役所ヘ届ケ置ヘシ

但居住地外ト雖モ接近町村ニ居住ノ者ハ代理人ヲ置カサルモ妨ケナシ  
右布達候事

(四) 居住地外ニ所有ノ地所反別地價等届出方  
明治十七年  
五月廿二日

甲第三十四號

居住地外ノ町村ニ於テ地所々有スルモノハ地元戸長ノ認印ヲ受ケ其地ノ反別地價金共本籍町村役所ヘ  
届出ヘシ

但自今賣買讓與及ヒ反別地價金等ニ増減アルトキハ總テ本文ノ手續ヲ以テ其時々届出ヘシ  
右布達候事

(五) 他町村民所有ノ地所其居住地ノ村役場ヘ通報方  
明治廿二年  
六月八日

第十一類 土地土功

郡 役 所  
戸 長 役 場  
十七

縣下他町村ノ人民ニシテ現ニ其ノ村土地ヲ所有スル者アルトキハ其地目段別地價等取調所有者居住ノ戸長役場ニ通報シ自後買賣讓與等ニ係ル土地ニシテ所轄郡役所ヨリ所有者ノ異動通知ヲ得タルトキハ其時々同様之ヲ通報スヘシ

(六) 土地分合筆取扱手續 明治二十年五月二日 縣令第四十二號

土地分合筆取扱手續左ノ通之ヲ定ム

土地分合筆取扱手續

第一條 一筆ノ土地ヲ分割シ二筆以上ノ土地ヲ合併セントスル者ハ其ノ反別地價及ヒ野取圖ヲ添ヘ戸長役場ヲ經由シ郡役所ヘ出願スヘシ

第二條 戸長ハ第一條ノ願書ヲ受領シタルトキハ與書ヲナスヘシ若シ反別地價ノ分配ニ於テ不適當ト認ムルコトアルトキハ

實地臨檢ノ上其旨ヲ説示シ承服セサルモノハ意見書ヲ作り郡役所ヲ經由シ縣廳ニ具申スヘシ

第三條 一類地ニシテ荒地成潰地成地目變換其他反別地目ノ異動ニ係ルモノ、一筆中分裂又ハ二筆以上合併ヲ爲ス場合ニ於テ其分裂ニ係ルモノハ殘地ヲモ丈量シ合併ニ係ルモノハ全部ヲ丈量スヘシ

(七) 町村共同村地及管理人ニ關スル費用支辨方 明治十八年四月二十二日 乙第四十七號

郡役場 戸長

町村共同墓地ニ關スル諸費及墓地管理人ニ係ル費用ハ町村費(衛生費)ヲ以テ支辨スル義ト心得ヘシ此旨相達候事

(八) 墓地并火葬場管理人設置方心得 明治十八年四月廿九日

乙第五十四號

郡役所 戸長

本年(二月)甲第八號ヲ以テ墓地及管理取締細則布達候ニ付テハ同規則第十一條ニ依リ墓地并火葬場管理設置方左ノ通相心得ヘシ(十八年甲第八號布達第十四類參觀)

一 墓地管理人ハ一町村二名以上戸長ニ於テ適宜撰定スヘシ

一 火葬場管理人ハ其持主ニ於テ適宜相定メ届出テシムヘシ 但町村共同ノ火葬場ニ係ルモノハ墓地管理人ヲシテ之ヲ兼テシムルモ妨ケナシ

右相達候事 (九) 共葬墓地ハ町村共有地ニ定ムヘキ件 明治十八年五月廿一日 乙第五十九號

郡役所 戸長

共葬墓地ハ一町村一ヶ所ニ限リ設置スヘキ等ニ候處實際ノ便宜上不得已モノハ一町村内ノ一部落又ハ數部落ノ埋葬ニ充ツル爲メ數ヶ所ニ設置スルヲ許スト雖モ墓地及管理取締細則第三條ノ通總テ其町村ノ共葬地ナルヘキニ付該地所ハ即チ町村共有地ニ相定ムル義ト心得ヘシ此旨相達候事

但從前一部落若クハ數部落共有トシテ地券下付シタル分モ之アラハ此際書換下付スヘシ候條書換方可中出事

(十) 寺院舊境内墓地下渡方 明治十八年四月二十三日 甲第三十三號

寺院舊境内ニ係ル從前檀家共葬ノ墓地及ヒ寺院單用墓地ニシテ官有地第三種ニ屬スルモノハ自今民有第十一類 土地土功

地第二種ニ編入シ榎家共葬墓地ハ地元町村ノ共有トシ寺院單用ニ係ル墓地ハ其寺院ノ所有トシテ下渡スヘシ

但地元町村ニ下渡ス墓地ニシテ從前榎家ノ故ヲ以テ他町村ノモノ埋葬シ來リタルモノハ其慣行ニ從ヒ今後仍ホ埋葬スルヲ得ルト雖モ地元町村ノ規定ニ從ヒ墓地ニ關スル相當ノ費額ヲ納付スヘシ  
右布達候事

(十一) 分合改稱セサル町村飛地ノ組替方 明治二十二年七月廿七日  
訓令第四十六號

郡 役 所  
元 戶 長 役 場

本年縣令第四十一號ヲ以テ分合改稱セサル町村ノ飛地モ同令第一項末文ニ據リ此際組替ヲ爲スヘキ義ト心得ヘシ (廿二年縣令第四十一號第四類參看)  
(十二) 飛地編入取扱方 明治廿二年十二月廿八日  
訓令第百九號

郡 役 所  
市 役 所  
村 役 場

本年縣令第四十一號ニ依リ飛地編入ノ義今般訓令候ニ付テハ左ノ各項ニ依リ取扱フヘシ (廿二年縣令第四十一號第四類參看)

- 一 地番ハ飛地所在町村ノ未番 組限リ地番ヲ附シタルモノヲ附スヘシ
- 二 字ハ變更スルヲ得ス
- 三 地圖及土地臺帳其他飛地ニ關スル一切ノ書類 分離シ難キ書類ハ舊地元町村ヨリ引繼キテ受ケ地番

ハ朱書ヲ以テ訂正スヘシ

四 前各項ニヨリ訂正濟ノ上ハ二筆限リ詳細取調所轄收稅部出張所へ申報スヘシ  
(十三) 公園地保護取締委託 明治二十一年六月廿三日  
告示第八十八號

甲府太田町公園地保護取締ノ義今般甲府錦町外三十六ヶ町へ委託候條自今該園地内ヲ借用セントスルモノハ右役場ニ就キ公園地貸渡條規熟覽ノ上同役場へ願出ヘシ

(十四) 公園地貸渡條規 明治廿一年六月廿一日  
訓令第五十二號

西山梨郡役所  
甲府錦町外三十六ヶ町戶長役場

甲府太田町公園地保護取締ノ義今般甲府錦町外三十六ヶ町へ委託候ニ付該園地貸渡之義ハ別紙條規ニ據リ戶長ニ於テ取扱處分ノ都度所轄郡役所ヲ經テ報告スヘシ  
但年期ヲ以テ新ニ貸渡スモノ及ヒ條規第十七條ニ依リ處分ヲ要スルトキハ經伺ノ上執行スヘシ

公園地貸渡條規

- 第一條 衆庶觀樂若クハ便利ノ爲メ左ノ業ヲ營ムモノニハ公園地内ヲ貸渡スヘシ  
但園内ノ都合ト同業ノ多寡及ヒ建物構造ノ摸樣ニ依リ許可セサルコトアルヘシ
- 一 休憩所席貸ノ類
- 一 文書圖書寫眞骨董植木盆栽等販賣展覽所ノ類
- 一 遊技演藝遊觀場ノ類
- 一 料理店ノ類
- 一 温泉業ノ類

第十一類 土地土功

- 第二條 公園地内ヲ借用シ前條ノ營業ヲ爲サトスルモノハ其地坪并ニ營業ノ種類ヲ記載シ建物若シハ小屋掛構造圖面ヲ添ヘ所轄戸長役場ヘ願出ヘシ
- 第三條 年期貸渡ノ十五年已内トス
- 第四條 地所貸渡許可セヨ日ヨリ五十日以内ニ家作ニ着手セサルモノ又ハ其着手セヨ月ヨリ十ヶ月ヲ過キ開業セサルトキハ貸渡ヲ取消スコトアルヘシ
- 第五條 借地人ハ相當ノ借地料ヲ納ムヘシ其徵收期限ハ一般ノ官地貸渡ノ例規ニ依ル
- 第六條 借地人ハ借地ハ勿論其他之ニ接續シタル地ニ於テ割當テラレタル區域内ノ掃除ヲ負擔スヘシ
- 第七條 借地人ハ所轄戸長役場ノ承認ヲ受ケスシテ他人ヲ宿泊セシムヘカラス
- 第八條 借地人ハ自家ノ雇人ハ勿論來客ト雖モ風俗ヲ亂シ又ハ猥褻ノ所業ヲ爲サシムヘカラス
- 第九條 借地區域内ト雖トモ新ニ家屋ヲ設ケ又ハ在來ノ建物模様換テ爲サントキハ所轄戸長役場ヘ願出許可ヲ受シヘシ
- 第十條 借地人ハ借地區域内ヘ草木ヲ植付又ハ牆垣ヲ設ケル等渾テ風致ニ關スルモノハ所轄戸長役場ノ差圖ヲ受シヘシ
- 第十一條 借地人ハ常ニ掃除受持區域内ヲ清潔ニシ風烈ニハ水ヲ溢キ又積雪ハ速カニ掃除スヘシ
- 第十二條 所轄戸長ニ於テ借地人家屋ノ修理及ヒ掃除等不都合ト認ムルトキハ其借地人ニ對シ適宜日限ヲ定メ修理及ヒ掃除ノ任直方等指揮スルコトアルヘシ
- 但本條指揮ニ隨ハサルトキハ所轄戸長ニ於テ直ニ之レカ修理掃除ヲ爲シ其費用ヲ徵收スルコトアルヘシ
- 第十三條 借地人ニ於テ借地繼年季ヲ請ハント欲スルトキハ期限前所轄戸長役場ヘ願出許可ヲ受シヘシ右期限ヲ過キ申出テサルトキハ返地シタルモノト見做スヘシ
- 第十四條 借地人ニ於テ所有ノ家屋建物ヲ他人ヘ賣渡貸渡シ若シシハ讓渡ントスルトキハ双方連署ヲ

- 以テ所轄戸長役場ヘ願出許可ヲ受シヘシ
- 第十五條 借地人ニ於テ借地年期明又ハ事由アリテ返地スルトキハ其返地シタル日ヨリ五十日以内ニ家屋ヲ引拂跡地ハ元形ニ復スヘシ
- 但本條ノ場合ニ於テ自費植栽ノ樹木ヲ移植セント欲スルトキハ所轄戸長役場ノ認可ヲ受シヘシ
- 第十六條 借地ノ許可ヲ受ケタルモノハ別ニ定ムル書式ニ依リ受書ヲ出スヘシ
- 第十七條 第五條第七條第八條第九條第十條第十四條ニ違背シ又ハ第十二條管理者ノ指揮ニ隨ハサルモノ又ハ風俗ヲ亂ルヘキ行爲アリト認ムルトキハ一時營業ヲ差止メ或ハ貸渡年限中ト雖モ立退ヲ命スルコトアルヘシ

(請書式)

御 請 書

今般何々業名ヲ營業ノ爲メ公園地ノ内拜借相願御許可相成候ニ付テハ公園地貸渡條規堅シ相守リ可申候若シ相背キ候トキハ該條第十七條ノ如シ御處分相成候共申分無之候依テ御請書差上候也

年 月 日

何 郡 何 村 之 誰

山梨縣西山梨郡甲府錦町外卅六ヶ町

戸

長

宛

(十五) 往來ノ井木ヲ採探又ハ折取ルコトヲ禁ス

明治八年 四月廿八日

甲第百三十號

往來ニ井木ヲ採ルハ夏ハ蒸暑ヲ消シ冬ハ寒風ヲ防シ等渾テ往來人ノ健康ヲ保護スル爲メテハ追々道路修繕落成ニ隨ヒ諸木栽付相成シ處間々猥リニ放キトリ又ハ伐リ折ルモノ有之甚ク不心得至極ニ付右様不埒ノ所行イタスモノハ差押ヘ可申旨其筋ヘ申達置候條各村々ニ於テ申合誰レニテモ見當リ次第差押

第十一類 土地土功

～最寄過卒屯所へ申出へし猶心得違ノ者無之様區戸長ヨリ各戸無視申達ノ別テ幼童へハ小學訓導又ハ其父兄ニテ教諭イマスへし此旨布達候事

(十一) 堤塘樹竹保護方 明治十年 一月十七日

乙第七號

各區長 戸長 土木係

堤防ヲ堅固ニスルニハ竹木ヲ繁生セシムルニ有リ洪水ノ衝突ヲ防シモ亦竹木ニ據ラサルヲ得ス竹木ノ功用大ナリト云フへし然ルニ管下諸川堤塘ヲ視ルニ適竹木繁盛スル有ルモ洪水一回至レハ水防ノ爲メ一時伐伐シ其跡ノ植繼ハ措テ問サルカ如此ニシテ歲月ヲ遷ス遂ニ竹木ノ遺類ヲ絶テ將來何ヲ以テ急水ヲ防カンヤ依之自今新堤築立ノ向ハ勿論兀堤或ハ伐採跡堤脚踰潤ノ場所へハ松竹ノ苗及柳枝等ヲ挿植シ繁盛保存ノ方等厚ク注意可致且新挿植ノ向ハ各區土木係ノ見届ヲ受ケ土木係ニ於テハ年々三月三十日限り箇所限取調可届出此旨相達候事

(十七) 堤防保存方ノ件 明治十二年 三月十八日

(乙第四十六號)

郡町村役所

堤防保存方ノ義ニ付テハ明治十年乙第七號ヲ以テ相達置候趣モ有之候處近來竹木生育ヲ名トシ堤脚ノ竹木等ヲ濫伐シ又ハ竊ニ盜伐スルモノ有之哉ニ相聞甚不都合ニ付不取締ノ儀無之様爲シ注意可致此旨相達候事

(十八) 官有山林原野草木拂下條規 明治十六年 一月廿五日

甲第二號

従前入會祿場等官民有未定山林原野既ニ官有地ニ確定シタル部分中従前一村又ハ數村入會樹木芝草伐刈シタル慣行アリテ實際差支候向ハ其事情ニヨリ特別ヲ以テ立木芝草拂下ノ可及詮議候條別紙條規ニ

照準願出ツヘ

但已ニ拂下ヲ許可シタル芝草ハ其年期中更ニ出願ニ及ハス

右布達候事

官有山林原野草木拂下條規

第一條 官有山林原野 従前入會祿場等ニシテ官 中従前一村又ハ數村入會ノ慣行アリテ事情止ヲ得サルモノニ限リ其請願ニヨリ樹木ハ貳拾ケ年以内芝草ハ五ケ年以内ノ年期ヲ定メ相當代價ヲ以テ拂下ク

但水源涵養土砂并止氣候調和等國土保安ニ關スル土地ハ本條ノ限リニ非ス

第二條 前條拂下シキ山野ヲ分テ三種トス

第一種 針葉樹林 (伐木跡萌芽再生セサル松杉檜樅等ノ類ニシテ板又ハ角物等ニ供スル用材料)

第二種 潤葉樹林 (伐木跡萌芽再生スヘキ雜木ニシテ薪炭等ニ供スル用材料)

第三種 芝草生地 (無立木ニシテ肥料等ニ供スル芝草生地)

第三條 凡ソ第一種針葉樹林ノ立木拂下ケル受ケタルモノハ左ノケ條ヲ遵守スヘシ

一 伐木ハ其拂下ケテ受ケタル全部中凡ソ一ケ年間ニ伐採スヘキ地ヲ區畫シ其區域中ニ就キ伐木年度ノ來ル樹木ヲ選ビ間伐スル者トス

一 後來需用ニ關シテナカランモノカ爲其伐木跡地ニ限ラヌ土地適應ノ樹木ヲ栽培セシムルモノトス

一 菓實生ニ係ル立木ノ母樹及ヒ土地ノ境界ヲ標示スル樹木ハ一切伐採スルヲ得ス

一 炭燒竈及ヒ伐木小屋等ヲ建設スルモノハ必ラス允可ヲ得ヘシ

一 前項焚火ヲ要スル者ハ先ツ其近接樹林ニ火災延燒豫防ノ方法ヲ設ケタル上ニアラサレハ其事業ニ着手スルヲ許サス

第四條 凡ソ第二種潤葉樹林ノ立木拂下ケタル者ハ左ノケ條ヲ遵守スヘシ

第十一類 土地土功

一 伐木ハ其拂下ケテ受ケタル全部中凡ソ一ケ年間ニ伐採スヘキ地ヲ區畫シ季節ヲ定メ年々順次輪伐スルモノトス

一 野火入其他自然枯損木等ニテ伐採跡萌芽再生セサルニ至レハ其跡地ヘ土地適應ノ樹木ヲ栽培セシム

第五條 凡ソ第三種芝草生地ノ芝草拂下ケテ受ケタルモノハ左ノケ條ヲ遵守スヘシ

- 一 芝草生地中ノ立木ハ勿論小苗木タリトモ一切伐採スルヲ得ス
- 一 芝草發生ヲ養ハンカ爲メ枯草ヲ燒キ來ル從前ノ慣行アル土地ト雖モ許可ヲ得スシテ擅ニ火入ヲ爲スヲ得ス

但山林接續ノ場所ハ火勢延燒豫防ノ方法整頓セサレハ許可セズ

第六條 凡ソ立木芝草等拂下ケテ受ケ度村々ハ先ツ一村又ハ入會村々總代連署左ノケ條ヲ詳記シタル願書ヲ所轄郡役所ヲ經テ差出シ允可ヲ受クヘシ

- 一 所用ノ事由
- 一 從前慣行ノ詳細
- 一 地名字トモ詳細
- 一 反別番號
- 一 年季
- 一 全部圖面 第一二種ナレハ年々伐採
- 一 木種員數ノ概畧

第七條 前條允可ヲ受ケタル上ハ其年季中每前年十月中左ノケ條ヲ詳記シタル書面ヲ所轄郡役所ヲ經テ差出シ更ニ允可ヲ經ヘシ

一 第一種ニ係ル用材ナレハ一ケ年間伐採スヘキ區畫内ノ木種員數目通寸尺及ヒ丸木尺ノ一本當リ

相當代價

一 第二種ニ係ル薪炭材ナレハ一ケ年間ニ伐採スヘキ區畫内ノ木種員數目通寸尺及ヒ長三尺ニシテ六尺四方一個ノ相當代價

一 第三種ニ係ル肥料株等ハ一ケ年間ニ刈取ルヘキ芝草ノ束數回二三尺ナ及ヒ相當代價

第八條 第二條各種山野中無立木ノ場所ヘ樹木栽培致度精願ノモノヘハ貳十ケ年以内ノ年季ヲ以テ地所貸渡スヘキニ付一村又ハ入會村々總代連署左ノケ條ヲ詳記シタル願書ヲ所轄郡役所ヲ經テ差出スヘシ

但部分本條例ニ依リ栽培致度モノハ該條例ニヨリ願出ヘシ

- 一 栽培ノ木種員數及ヒ種植ノ別
- 一 栽培スヘキ場所ノ地名區域并反別及ヒ繪圖面
- 一 栽培着手及ヒ竣功ノ年月

一 借地年季及ヒ相當借地料

第九條 凡ソ草木拂下ケテ并ニ借地年限滿期後尙引續キ草木拂下ケ及ヒ地所拜借企望ノモノハ第六條ノ手續ニ依リ更ニ願出允可ヲ受クヘシ

第十條 凡ソ草木拂下ケテ受ケタル該山野樹木ノ繁殖保護及ヒ盜火災取締ハ其村々ノ責任ニ歸ス但盜火災等有之節ハ事由取調其都度所轄郡役所ヲ經テ届出ヘシ

第十一條 前條保護取締方法ハ凡ソ左ノケ條ニ準據シ實地適應ノ見込取調一村又ハ入會村々總代連署ノ上第六條ノ願書ト共ニ差出シ認可ヲ得テ施行スヘシ

- 一 第一種第二種ニ係ル樹林輪伐區域及伐木季節並伐採器具制限ノコト
- 一 第二種ニ係ル樹林中櫻櫻栗其他良材トナルヘキ木種ヲ成木セシムルコト
- 一 枯損木枝末木トモ放棄セシメテ漸次伐木數ヲ減少スルコト

第十一類 土地土功

- 一 水源涵養土砂停止等ニ係ル土地ヲ區分シ及ヒ養護スルコト
  - 一 盜火災ノ豫防並番人等設置ノコト
  - 一 火災ノ起リシ時消防方法ノコト
  - 一 伐木跡地ニ樹木栽培ノコト
- 第十二條 凡ソ樹木拂下ケ地及樹木栽培地ノ區域ノ假令従前入會區域ノ慣行アリト雖モ實地ノ都合ニヨリ之ヲ更正伸縮スルコトアルヘシ
- 第十三條 第十條ニ掲ケル責任ヲ盡サ、ルカ或ハ前條々又ハ臨時指揮スル事件ヲ遵守セサルニ於テハ允可ノ後ト雖モ草木拂下ケ地及ヒ貸渡地ノ區域ヲ伸縮變更シ若シハ其拂下ケ貸渡レテ差停ルコトアルヘシ

(十九) 官有山林保護取締方法設立手續  
 明治十七年 七月廿一日  
 乙第六拾七號

郡町村役所

明治十六年本縣甲第貳號布達官有山林原野草木拂下條規第十條ノ通り樹木ノ繁殖保護及盜火災取締ノ義務拂下ヲ受ケタル村ノ責任ト相定メ候ニ付テハ右保護取締方法設立手續等左通可相心得此旨相達候事

山林保護取締方法設立心得

第一 戶長ノ補助トシテ山林掛ヲ置キ植樹保護取締ニ關スル一切ノ事務ヲ分擔セシムヘシ

第二 山林取締ノ爲メ番人ヲ置クヘシ

番人ハ山林掛ノ指揮ヲ受ケ専ラ山林巡廻取締ノ事ニ從フヘキモノトス

番人ハ本縣官林主務員及官林看守ニ於テハ山林保護取締上ニ付臨時指揮スルコトアルトキハ其指揮ニ從フヘキモノトス

第三 樹木ノ拂下ヲ受ケタル村々ニ於テハ適應ノ地ヲ選ミ苗圃ヲ設クヘシ

第四 山林保護取締ニ付經費ヲ要スルモノハ本年乙第五拾六號達第二項ニ依リ豫メ指揮ヲ乞ヒ而シテ其豫算徵收方法及山林掛番人俸給人員等一村又ハ數村一般ニ關係スルモノハ村會又ハ聯合村會ノ會議ニ付スヘシ

一村内ノ一局部若シクハ數村内ノ數局部ニ關涉スルモノハ豫テ委員ヲ選定センメ其協議ヲ取ルヘシ但委員選舉方法等ハ郡長ノ認可ヲ得テ施行スヘシ

第五 官有山林原野拂下ケ條規第十一條ニ係ル各項其他關係人民ノ互ニ相守ルヘキ要用ナル規約ハ前項ノ區別ニ從ヒ村會聯合村會又ハ委員會ニ諮問スヘシ

第六 前第四項第五項ニ係ル議案ハ戶長ニ於テ其會議ニ付スル以前先以テ郡長ノ檢閲ヲ乞ヒ認可ヲ得ルヘシ

(二十) 草木拂下規則  
 明治二十三年 九月八日  
 告示第八十二號

今般御料林草木拂下規則別記之通り制定候旨御料局静岡支廳ヨリ通知アリタリ

但本則施行手續及本則第二條輪伐區豫定以前ニ於ケル樹木拂下手續等ハ不日全廳ヨリ拂受人ヘ相示スヘシ

草木拂下規則

第一條 山梨縣下御料地ノ内ニ於テ明治十六年中全縣甲第二號布達ニヨリ草木ノ拂下ヲ受ケタル人民ヘハ本則第二條以下ノ現程ニ據リ永世毎年其草木ヲ拂下クヘシ

但水源涵養土砂停止等凡テ國土保安ニ關スルモノ及ヒ菓實生ニ係ル立木ノ母樹及土地ノ境界ヲ標示シタル樹木ハ此例ニ在ラス

第二條 樹木ハ輪伐區畫ヲ定メ毎歲順次一區毎ニ相當代價ヲ以テ拂下クヘシ則チ人民ハ従前ノ入會林ニ於テ針葉樹林ハ五十以上七十以下闊葉樹林ハ二十以上三十以下ノ輪伐區域ヲ豫定シ伐採年度ヲ明

第十一類 土地土功



記シタル圖面ヲ製シテ御料局靜岡支廳長ノ認可ヲ受クヘシ若シ毎歲平等ノ材積ヲ得ルコト能ハスト  
認ムルトキハ御料局靜岡支廳長ハ其輪伐區域ヲ更正スルコトアルヘシ

第三條 人民ニ於テ輪伐區域内ノ樹木悉皆ノ拂下ヲ要セサルトキハ其殘余ノ分ハ御料局靜岡支廳長ニ  
於テ他ノ人民ニ拂下クルコトアルヘシ

第四條 御料局靜岡支廳長ニ於テ輪伐區域ノ更正ヲ必要ト認ムルトキ又ハ一回輪伐了リテ首區ニ回  
復スルトキハ新成ノ林相ヲ檢査シテ輪伐區域ヲ更正スヘシ

第五條 林ノ下柴 荆蕪澗木小竹 及潤葉樹林中ニ點在シアル小數ノ針葉樹ハ輪伐ノ制限ニ拘ハラヌ御  
料局靜岡支廳長ニ於テ拂下シコトアルヘシ

第六條 御料局靜岡支廳長ハ樹林ニシテ人民ノ供給ニ余リアリト認ムルトキハ一回輪伐ノ後人民ノ類  
ニ依リ相當ノ料金ヲ以テ其殘地ヲ貸付シ桑茶藪菜等ノ耕種ヲ許コトアルヘシ

第七條 芝草生地ニシテ秣等ノ供給ニ餘リアルトキモ亦本條ニ準ス  
但芝生地ハ輪伐區域外ニ屬スルヲ以テ其生地ニ生シタル樹木ハ小苗木タリト雖モ伐採スルコ  
トヲ許サヌ

第八條 但書ノ場合ニ於テハ此例ニアラス  
第八條 下草ハ本年ヨリ來ル明治二十七年迄五ケ年間ハ無料ニテ下付シ明治廿八年以後ハ相當代價ヲ  
以テ拂下シヘシ

第九條 拂下願書ハ靜岡支廳長定ムル所ノ式例ニヨリ下柴ハ束數代價等ヲ記シ樹木ハ木種長目通本數  
尺ノ束數代價等ヲ記シ前年十月三十一日マテニ御料局靜岡支廳出張所ヘ呈出スヘシ

第十條 人民ハ草木拂下ノ請願納金其他本則或ハ當廳ニ於テ臨時指揮シタル事件ヲ履踐セシムルカ爲  
メ地字毎ニ一名若シハ二名ノ總代人ヲ選定シテ當廳ノ認可ヲ受クヘシ

但總代人死去ハ移轉等ニテ代員ヲ定ムルトキモ亦同シ

第十一條 拂下ヲ受タル樹木ハ拂下年度内ニ悉皆御料林外ニ搬出スヘシ若シ之レヲ怠ルトキハ御料局  
靜岡支廳出張所ニ於テ之ヲ沒收スヘシ

第十二條 枯草ヲ燒クノ慣行アル土地ト雖モ御料局靜岡支廳出張所ノ許可ヲ得ルニアラサレハ火入ヲ  
爲ス可ラス

第十三條 御料局靜岡支廳長ノ許可ヲ得テ樹木伐採跡及草生地ニ杉松櫟等ヲ自費ヲ以テ栽培シタルモ  
ノハ五十年ノ後ニ至リテ輪伐區域ヲ定メ相當代價ノ半額ヲ以テ拂下シヘシ

御料局靜岡支廳長ノ許可ヲ得テ芝草生地ニ自費ヲ以テ雜木ヲ栽培シタル者ハ二十年ノ後ハ總テ前  
項ノ例ニ依リ拂下シ可シ

第十四條 本則ニ依リ永世樹木ノ拂下ヲ受クヘキ人民ハ其地内ノ樹木其他ノ產物ヲ監護スルノ責  
ニ任ス可シ

前項ニ依リ監護ヲ爲スノ方法ハ拂下ヲ請クヘキ人民ノ規約ヲ以テ之ヲ定メ御料局靜岡支廳長ノ認可  
ヲ請クヘシ

第十五條 拂下區域外ノ樹木ヲ盜伐シ或ハ他ノ所爲ヲ以テ樹木ヲ損害シタルコトヲ御料局靜岡支廳長  
ニ於テ發見シタル日ヨリ六十日以内ニ加害者ヲ認知セサルトキハ支廳長ニ於テ定ムル所ノ被害價格  
ヲ人民ノ團體ニ於テ賠償スヘシ

第十六條 拂下ヲ請クヘキ人民ニ於テ本則第七條第十二條第十四條第十五條及臨時指示スル旨趣ニ背  
戻シタルモノアルトキハ證據ノ上既ニ許可セシ草木拂下地及貸渡地ノ區域ヲ減縮變更シ若シハ拂下  
貸渡等ヲ差停ムルコトアルヘシ

(廿一) 民有林樹木伐採届出方 明治十六年  
二月九日

甲第五號

第十一類 土地土功

卅一

明治十五年(二月)太政官第三號布達ニ付テハ退テ其區域取調相違候迄當分ノ内左ノ場所ヲ除ク外民有林ノ樹木伐採セント欲スル時ハ其土地ヲ管轄スル郡役所ヲ經テ届出認可ヲ受ク可シ

一 平地ニシテ川除風除等ニ關係ナキ樹林

二 宅地内ノ樹木

三 河川溪澗ニ懸隔シ額雪又ハ雨水ノ爲メ岩石土砂流額及墾塞ノ患ナキ山林ノ芽樹

四 雨水又ハ額雪ノ爲メ道路或ハ田畑ヲ埋没スルノ患ナキ山林

(廿二) 民有林ノ樹木伐採方 明治十六年 二月九日

甲第五號

明治十五年(二月)太政官第三號布達ニ付テハ調査上要用ニ付自今民有林ノ樹木伐採セント欲スルモノハ渾テ所轄郡役所ヲ經テ届出認可ヲ受ク可シ

但本條届出ニハ左ノ項目取調申スヘシ

右布達候事

- 一 伐採スヘキ場所ノ地名反別字番地
- 一 木種員數回リ寸間ノ概畧
- 一 間伐全伐ノ別及使用方
- 一 但間伐ナレハ全林ノ反別及木種員數回リ寸間ノ概畧ヲ肩書スヘシ
- 一 伐採跡植栽方
- 一 地形及地質 嶮峻或ハ斜傾平坦敷石 土砂地及乾濕地歟ノ別
- 一 接近川澤及道路等ヘノ距離 河川ハ幹支流ノ別及其 隣地名道路ハ街道ノ別
- 一 圖面 伐採スヘキ場所ノ區別并四隣地ノ地種方 圖面位及接近川澤道路ノ摸樣等ヲ詳記スヘシ

(廿三) 官有地拂下貸下手續 明治十八年 七月十五日

甲第六拾壹號

官有地拂下並ニ貸下ノ儀左ノ通之ヲ定ム

但明治十一年(九月)甲第七拾八號布達ハ廢止ス

- 一 凡ソ官有地ヲ年賦月賦又ハ延納ニテ拂下タルモノ其代金未完納中ハ抵當トシテ其地券ヲ縣廳ヘ差 出置クヘシ若シ之レヲ差出サハルモノハ地所拂下ノ効ヲ失フモノトス
- 一 凡ソ官有地ノ拂下代金ヲ期限ノ通上納セサルモノハ其拂下ヲ取消スヘシ此場合ニ於テ既納ノ代金 アルモノハ之ヲ下戻シ地所ハ現形ノ儘返上セシメ之カ爲メ金利賠償等ヲ下付セサルモノトス
- 一 凡ソ官有地ノ借地料ヲ期限ノ通上納セサル者ハ其貸下ヲ取消スヘシ此場合ニ於テ假令如何ナル勞 費アルモ其償下付セサルモノトス
- 一 凡ソ官有地借用ノ許可ヲ得タル者ハ其當初出願ノ目的ニ隨テ之ヲ使用スルコトヲ得ルト雖モ他人 へ書入又ハ賃入ヲ爲スコトヲ得サルモノトス但轉貸セント欲スルモノハ縣廳ニ願出テ許可ヲ受ク 可シ

右布達候事

(廿四) 堤塘竹林委託規則 明治十九年 六月八日

乙第五十四號

郡 役 所  
戸 長 役 場

堤塘ノ竹林ハ治水上最モ有益ノモノニ付平素其町村ニ於テ篤ク保護ヲ加フヘキハ勿論ノ義ニ候處近時 往々盜伐等ノ弊有之哉ニ相聞ヘ竹木ノ繁殖ヲ妨ケ治水上ノ障害不少ニ付今般堤塘竹林委託規則別 紙之通相定メ候條右規則ニ依リ保護取締行届候條可致此旨相達候事

第十一類 土地土功

堤塘竹林委託規則

- 第一條 堤塘ノ竹林ハ自今其町村ニ委託シテ保護管理セムヘシ
- 第二條 委託竹林保護取締ノ方法ハ戶長ニ於テ適宜之ヲ設ケ郡役所ノ認可ヲ得テ施行スヘシ
- 第三條 委託竹林保護手入レノ爲メ洗伐ヲ要スルトキハ其竹數取調ヘ郡役所ニ申出テ許可ヲ受クヘシ  
但洗伐シタル竹ハ現品又ハ代價ノ半額ヲ該町村ニ給與スヘシ
- 第四條 委託竹林洗伐ノ期節ハ八月ヨリ十二月マテトシ其洗伐スヘキ立竹ハ發生後三年以上ヲ經タルモノニ限ルヘシ
- 第五條 委託竹林ハ其町村ノ堤防修築用ニ限リ相當代價ノ半額ヲ以テ拂下シタルコトアルヘシ
- 第六條 出水ニ際シ其堤防ノ水防用ニ供シ及ヒ水防ノ障害トナルヘキ立竹ハ前各條ノ制限ニ拘ハラズ臨機伐採スルヲ得但此場合ニ於テハ其伐採ノ事由及ヒ該竹數取調ヘ速ニ郡役所ヘ届出ヘシ
- 第七條 各町村ハ每歲七月委託竹林ニ於テ其年發生シタル竹數及該竹林ノ盛衰ノ狀況取調ヘ郡役所ヘ届出ヘシ
- 第八條 委託竹林内ニ於テ盜伐其他異狀アリタルトキハ其都度速ニ郡役所ヘ届出ヘシ
- 第九條 委託竹林保護取締ノ費用ハ其町村費中土木費ヲ以テ支辨シ該竹林洗伐ニ依リ給與ヲ受ケタル現品又ハ代金ハ其町村ノ土木費ニ充用スヘシ
- 第十條 町村ニ於テ此規則ニ違背シ若シハ保護取締ヲ怠タルトキハ其情狀ニ依リ委託ヲ解除スルコトアルヘシ
- (廿五) 凡有林樹木斫伐又ハ鑛物掘採届出方 明治二十年 二月廿五日  
縣令第二十一號

自今左ニ掲ケル民有林ノ樹木ヲ斫伐シ又ハ鑛物土石ヲ掘採セント欲スルモノハ其土地所管ノ郡役所ヲ經テ當廳ニ届出テ認可ヲ受クヘシ違フモノハ違警罪ノ刑ニ處ス

民有林樹木斫伐又ハ鑛物掘採ノ際届出方

- 一 河川溪澗ニ沿ヒタル傾斜山面ノ樹林
  - 二 河川溪澗ニ沿ハサルモ既ニ土石崩潰ノ兆候アル山面ノ樹林
  - 三 川除及公益ニ關スル風除ノ樹林
  - 四 國道縣道ニ沿ヒタル傾斜山面ノ樹林
- (廿六) 共有山林保護取締要領 明治廿年 九月九日  
訓令第七十四號

郡 役 所  
戶 長 役 場

山林ノ盛衰ハ國家ノ利害ニ關シ其保護ノ忽セニスヘカラサル義ハ勿論ノ處近時工事ノ用材薪炭ノ需用頻繁ナルニ際シ濫伐暴斫ノ弊甚シキニ及ヒ漸ク山林衰頽ノ傾向ヲ觀ル今ニシテ之レカ蕃殖保護ノ計畫ヲ爲サレハ將來如何ナル慘害ヲ被ムルニ至ルモ亦圖リ知ルヘカラズ依テハ其部下民林中一部落以上ノ共有ニ係ルモノハ共有者ヲシテ別紙要領ニ基キ保護取締規約ヲ設ケンメ戶長ヨリ縣廳ニ届出認可ヲ受ケ施行候様取計ハルヘシ

共有山林保護取締要領

- 一 山林中水源涵養土砂防止風除類雪止等荷モ國土保安ニ係ルケ所ハ之レヲ區別シ樹木栽培保護スル事
  - 一 伐木跡地又ハ林ノ地目ニシテ閑地ハ素ヨリ樹木稀疎ナルケ所ヘハ相當ノ苗木ヲ栽植スル事
  - 一 凡ソ樹木ハ伐木年度ニ到ラサレハ伐採セサル事
  - 一 萌芽再生スヘキ潤葉樹ハ輪伐法ヲ以テ伐採シ且伐木期節ヲ定メ萌芽勢力ヲ養護スル事
- 第十一類 土地土功 卅五

- 一 林地境界ニ防火線ヲ設ケ火災延焼ヲ豫防スル事
- 一 共有人中ヨリ共有山林保護係ヲ置キ樹木植伐及ヒ其他山林保護取締ニ關スル事項ヲ擔任セシムル事
- 一 共有山林保護取締ニ關スル經費及ヒ其他諸般ノ協議ニ便スル爲メ共有人中ヨリ總代人ヲ選舉スル事一村又ハ數村ノ共有ニシテ村會ノ議定ニ付スルモノハ此限ニ非ス
- 一 總代人及ヒ保護係タルヲ得ヘキモノハ各其村内ニ現任スルモノニ限ル事
- 一 但盜罪詐僞取財ノ刑ニ處セラレ滿期後七ケ年ヲ經サルモノ及ヒ身代限ノ處分ヲ受ケ負擔ノ辨償ヲ終ヘサルモノハ總代人又ハ保護係タルヲ得サル事
- 一 共有山林保護取締ニ關スル一切ノ費用ハ一村又ハ數村ノ共有ニ係ルモノハ各村費一部落又ハ數部落ノ共有ニ係ルモノハ其部落人民ノ協議ヲ以テ支辨スル事
- 一 但村費ヲ以テ支辨スルモノハ該村々費中ニ其費目增加ノ指揮ヲ乞フヘキモノトス
- 一 前項經費ノ豫算及ヒ其徵收方法ハ戶長ニ於テ取調ヘ其村費ニ係ルモノハ該村會ノ決議ヲ取リ其部落人民ノ協議ハ總代人ノ評決ヲ取リ之ヲ施行スル事
- 一 規約書ニハ右ノ外總代人并保護係リノ數及其撰舉法并保護係ノ手當額其他保護取締ニ關スル要用ノ事項ヲ掲ケル事

(廿七) 民有山野火入取締規則 明治廿一年三月廿九日 縣令第二十四號

民有山野火入取締規則左之通相定ム

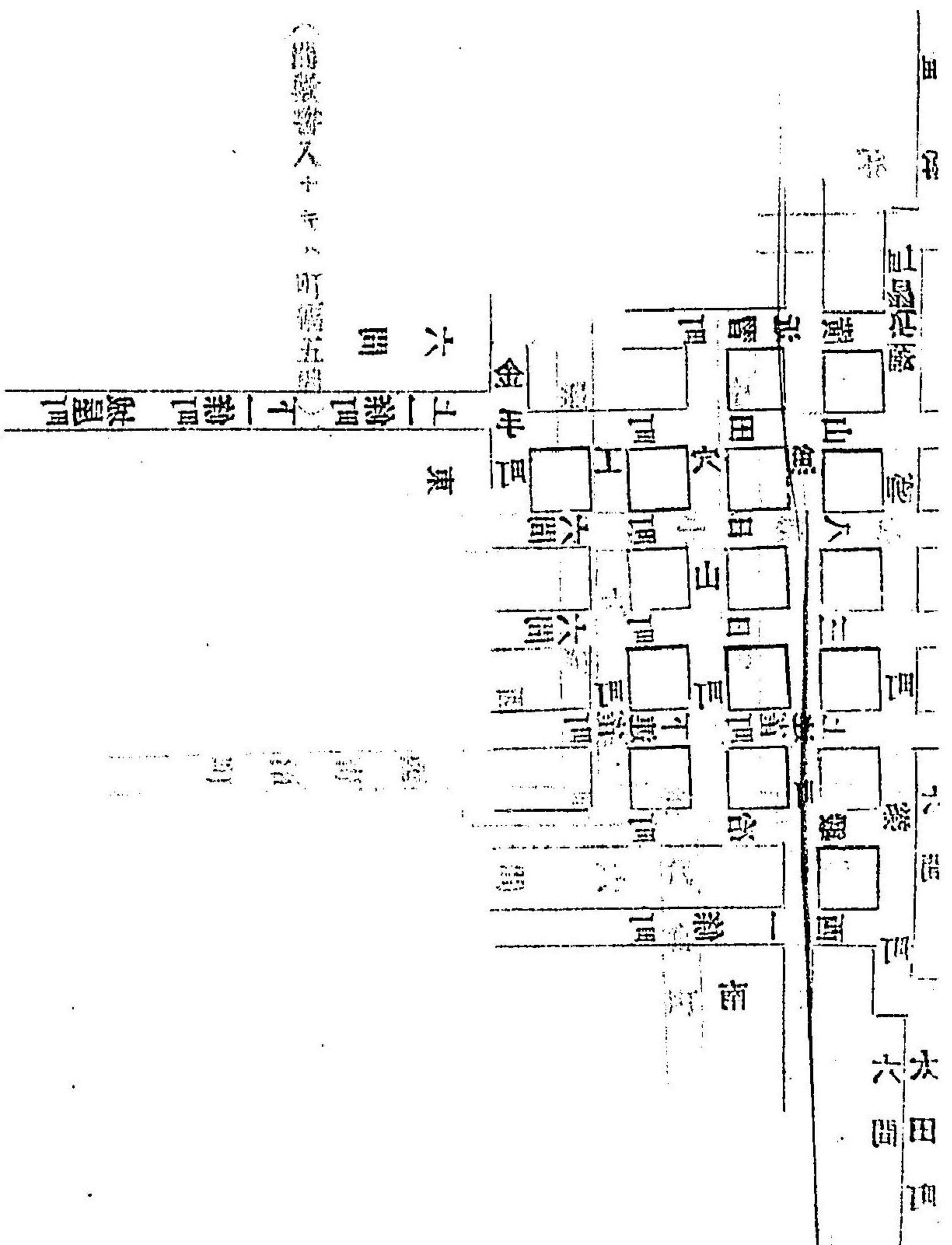
但明治七年(三月)本縣甲第六十一號全十年(三月)全第八十八號全十一年(三月)全第六十一號全十三年(四月)全第五十號全年(十二月)全第百八十一號布達自今廢止ス

民有山野火入取締規則

- 第一條 凡ソ民有ノ秣場茅野等肥饒ノ爲メ枯草ヲ燒ト欲スルモノハ左ノ各項ヲ具シ地元村長ノ與印ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署ニ願出認可ヲ受クヘシ
- 一 火入期日
- 一 從前火入慣行ノ有無
- 一 箇所限地目反別及ヒ字番號
- 一 四至境界ヲ見ルヘキ實地繪圖面
- 第二條 前條ノ認可ヲ受ケタルモノハ其火入ヲ爲サント欲スル山野ノ森林原野ニ接シタル境界ニ防火線ヲ設ケ且其森林原野所有者御料地ハ御料局御料支廳及警察署又ハ分署ヘ少クトモ火入期日五日以前ニ其旨ヲ報告スヘシ
- 第三條 防火線ハ幅三間以上トス都テ柴草ヲ刈採リ落葉並塵芥ヲ除去シ或ハ土堤又ハ堀溝等ヲ設ケヘシ
- 但道路谿谷等ニテ本條ノ防火線ヲ設ケサルモ延焼ノ虞ナキ地ハ此限ニ非ス
- 第四條 日出前日没後及ヒ風勢カ穩カナラサルトキハ火入ニ着手スヘカラス
- 第五條 火入ノ期日間ハ延焼ノ防禦ヲ爲スニ足ルヘキ相當ノ人夫ヲ出シ火氣全ク消滅スルニ至ル迄其場ヲ退クヘカラス
- 第六條 火入認可ヲ受ケタルモノト雖モ郡長警察官御料局官吏村長ニ於テ防火ノ準備不充分ト認メタルトキ又ハ風勢ノ變動等ニ依リ他ニ延焼等ノ虞アリト思量スルトキハ直ニ之ヲ中止セシムルコトアルヘシ
- 第七條 本則第一條認可ヲ受ケスシテ火入ヲ爲シタルモノ並第二條第三條第四條第五條ニ違背シ及ヒ第六條火入中止ヲ肯セサルモノハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上一圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第十一類 土地土功





世水 四十

(三十) 驛村道路ノ制限取定方  
甲第百三號

明治七年  
五月八日

兼テ告諭ノ旨趣ヲ了得シ道路ノ修築續々功ナ竣ヘ馬車來往日ヲ追テ隆盛ニ赴キ候處本道枝道ノ驛村ニ  
 ナイテ從來道路ノ制限無之ヨリ或ハ道幅ヲ犯シ或ハ家并ヲ亂シ各自隨意ニ家屋ヲ築造イタシ候ヨリ自  
 然直線モ屈曲トナリ道幅モ狹隘ニ相成リ諸車ノ往來甚不便ヲ極メ不都合ノ事ニ有之然レトモ今一朝コ  
 レヲ改メ又容易ニアラサレハ漸ク以テ改正セサルヲ得ス就テハ自今左ニ掲グル條件ヲ体認シ追々驛  
 村内規矩相立テ道路ト共ニ運輸ノ至便ヲ得候様深ク注意可致事

第一 本道枝道ニ關ハル驛村ハ前後道路ノ幅員ヲ目的ニ定限ヲ定メ向後家屋新築又ハ建替等ノ節ハ右  
 定限ニ依リ修理可致事

第二 右定限ハ其區々長立會即今戶長ニ於テ取調道幅ノ圖面ヲ製シ置キ追テ新築又ハ建替等ノ節々右  
 圖面ニ引合セ建築可致事

第三 新築又ハ建替等致ス時ハ區長ヘ届出檢査ヲ可受事

第四 從來驛村内ニナイテ肥シ溜テ路傍ニ取建有之ヨリ臭氣往來ニ溢レ通行庶人ノ妨害ト相成候ニ付  
 漸ク以テ取除可申事

右之趣市中ヲ除クノ外各區無洩相達スル者也  
 (卅一) 堤防工事人夫課出法 明治十六年  
 六月廿九日

甲第百三十四號  
 堤防工事人夫課出法別紙之通相定メ明治十六年度 十六年七月 施行ス  
 右布達候事

第一條 堤防工事人夫課出法  
 地方稅ヲ以テ經費ヲ支辨スル堤防ノ功事ニ使役スル人夫ハ左ノ規程ニ從ヒ沿河町村ニ賦課ス

第十一類 土地土功 四十一

第二條 前條ノ人夫ハ沿河町村ノ地價金百圓ニ付一人ノ割合ヲ以テ之ヲ課ス但數町村合併シタル町村ニシテ從前ノ慣行ニ依リ堤防ニ關係ナキ舊町村ノ地價ハ之ヲ除ク  
 前項ニ依リ堤防ニ關係ナキ舊町村ノ地價ハ之ヲ除クト雖モ其課出ハ全町村ニ於テ之ヲ負擔スヘキモノトス但土地ノ狀況ニヨリ便宜負擔ノ輕重ヲ定ムルヲ得  
 第三條 人夫課出ノ方法ハ町村會ノ評決ヲ以テ之ヲ定メ縣廳ノ認可ヲ得テ施行ス可シ  
 第四條 第二條ノ課役ハ沿河町村通常一周年度ノ定限トス此定限ニ超ユルモノハ地方稅ヨリ支辨ス若シ功事ノ都合ニヨリ定限迄課出スルニ及ハサルトキハ其殘餘ニ屬スル分ハ之ヲ免除ス  
 第五條 此ノ法ハ町村費ヲ以テ支辨スル堤防ノ功事ニ關セサルモノトス  
 (卅二) 堤防工事人夫課出方ノ件 明治廿二年 一月六日  
 調令第壹號

郡 役 所  
 市 役 所  
 村 役 場

明治十六年本縣甲第三十四號布達堤防工事人夫課出法之義地方稅支辨ニ係ル堤防工事中課出人夫ヲ以テスル事業ハ之ヲ該市村ノ事トシテ其負擔ヲ命令シ及負擔額算出ノ準率ヲ規定シタル趣旨ナルヲ以テ實際課出ノ方法ニ至テハ一般ノ市村稅トシテ之ヲ賦課シ若シハ市町村制第百一條ニ據リ夫役ヲ以テ賦課スル等從來ノ慣行ヲ參酌シ市村ニ於テ適宜之ヲ定ムヘシ  
 (參觀) 町村公共ノ事業ニ夫役現品ヲ賦課ノ件 明治廿二年 四月十七日  
 市町村制拔萃  
 第百一條 (市) 町村公共ノ事業ヲ起シ又ハ公共ノ安寧ヲ維持スルカ爲メニ夫役及ヒ現品ヲ以テ納稅

者ニ賦課スルコトヲ得但學藝美術及手工ニ關スル勞役ヲ課スルコトヲ得ス  
 夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除ク外直接(市)町村稅ヲ準率ト爲シ且之ヲ金額ニ算出シテ賦課ス可  
 夫役ヲ課セラレタル者ハ其便宜ニ從ヒ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得又急迫ノ場合ヲ除ク外金圓ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得  
 (卅三) 堤防工事人夫課出法調理手續 明治十六年 八月十七日  
 乙第六十號

郡 町 村 役 所

本年(六月)甲第三十四號布達堤防工事人夫賦課法實施ニ付テハ調理ノ手續別紙ノ通可心得此旨相達候事  
 但十六年度ニ於テ賦課スヘキ地價取調ハ別紙第二條ノ手續ヲ以テ本年八月一日ノ調査額ニ據リ九月二十日迄ニ届出スヘシ  
 堤防工事人夫賦課法調理手續  
 第一條 賦課法第二條ニ依リ人夫ヲ賦課スヘキ町村ノ地價ハ毎年一月三十一日ノ調査額ヲ以テ翌年度ノ賦課額ヲ定ムル標準トス  
 第二條 戶長ハ前條賦課ヲ受ヘキ町村若シハ組限ノ地價額取調第一號書式ニ依リ毎年二月五日迄ニ郡役所ニ届出ツヘシ郡役所ハ之ヲ調査シ一郡内取總メ第二號書式ニ依リ全月十日迄ニ縣廳ニ届出ツヘシ  
 但町村若シハ組限リノ地價合計拾圓未滿ノ端數ハ記載スルニ及ハス  
 第三條 前條ノ届出ヲ爲シタル後水害等ノ爲メ損地ト爲リ地價額ノ減少ヲ致シタルトキハ其事由及減少額取調其時々届出ツヘシ其他荒地起返及地種地目ノ變換等ニヨリ増減ヲ生シタルモノハ前條ニ從  
 第十一類 土地土功 四十三

フヘン

第四條 賦課法第四條ノ定限ハ定式臨時係ル分通常ニノ工事ニ通用シ猶餘剩アルトキハ之ヲ免除スルモノトス但非常ノ災害ニ係ルモノハ此定限外トス

第五條 敷町村組合負擔ニ係ル堤防ノ工事アルトキハ課出法第二條ニ據リ各町村ヨリ課出スヘキ定限人夫ノ内ヲ以テ先ツ組合功事ニ充ツ其組合町村負擔ノ歩合ハ豫メ聯合町村會ノ評決ヲ取リ之レヲ定メ縣廳ノ認可ヲ受シヘン但組合功事ニ使用ノ殘余ヲ以テ各自町村負擔ノ堤防功事ニ課出シ尙ホ殘餘又ハ不足ニ屬スルモノハ第四條ニ據テ處分スヘン

第六條 賦課法第二條第二項但書ニ據リ負擔ノ輕重ヲ定ムルハ先其堤防ニ關係ノ有無厚薄ヲ量リ其直接ニ關係ヲ有セサル部分ニハ平時ニ在テ全ク賦課セス非常ノ場合ニ於テ之ヲ課シ又ハ平常直接ノ關係アル部ニ比シテ幾分ヲ輕減シテ之ヲ賦課シ又或ハ共ニ直接ノ關係アルモ其厚薄ヲ量リ輕重ノ差等ヲ立ツル等町村會ノ評決ヲ取リ賦課法第三條ニ依リ縣廳ノ認可ヲ受ク可シ

(第一號書式)

堤防功事人夫賦課地價額

(印ハ朱書)

一 地價金若干圓

十六年度以後其前年ニ對シ増減ヲ生スルモノハ左ノ如ク朱書スヘシ

○内 何 郡 何 村

○金 圓

○外 何 郡 何 村

○金 圓

○損地又ハ何々ニヨリ前年ヨリ増ス

○損地又ハ何々ニヨリ前年ヨリ減ス

合併ノ町村ニテハ左ノ如ク内譯スヘシ

内 地價金

全 從前官普請所

何 何 川 川 組 組

右全町村又ニテ負擔ス

全 町 村 内 關係ナキ組アルトキハ左ノ如ク外書スヘシ

外 某 組 堤防ニ關係ナキヲ以テ除ク

某 村 戶 長 何 某

(第二號書式)

某郡下堤防功事人夫賦課地價金額表

明治何年何月何日調査

町村名	舊町村名	地價金額	起返又ハ何々ニヨリ前年ヨリ増		損地又ハ何々ニヨリ前年ヨリ減ス		關係無之舊村
			○内金	○外金	○内金	○外金	
○某 町	○何 組	○金 圓	○内金	○外金	○何 々 組		
○某 一村限合計	○何 組	○金 圓	○増	○減	○幾 々 組		
○某 村	○何 組	○金 圓	○内金	○外金	○何 々 組		

第十一類 土地土功

四十五



合何ヶ村合計	〇幾組	〇金	〇増	〇減	〇幾組

(卅四) 數村協議費ヲ以テ支辨スル土木事業取扱方  
 乙第十八號  
 明治十五年 三月二日

郡町村役所

數町村協議費ヲ以テ支辨スル土木事業取扱方左之通相定候條此旨相達候事

但明治十二年(二月)乙第三十號達ハ廢止トス

第一項 德島堰朝穗橋無堰之修繕ハ從前ノ慣行ニ依リ郡長於テ其工事ヲ管理スヘシ

第二項 甲府市街道路並用水路ノ修繕及其他町村聯合會若シハ水利土功會ニ於テ評決ス可キ堤防道路

橋梁用惡水路等新設變更ニ係リ事業ノ重大ニ屬スルモノハ其事情ヲ具シ縣廳ノ認可ヲ得テ郡長於テ

管理スヘシ

第三項 前項ノ外通常ノ工事ハ戶長ニ於テ施行スヘキモノトス但戶長ニ於テ施行シ難キ事情アルモノ

ハ第二項ニ準シ縣廳ノ認可ヲ受ケ郡長於テ管理スルヲ得

第四項 町村聯合會又ハ水利土功會ノ評決若シ施行上差支アリト認タルトキハ區町村會法第四條第五

條ニ依リ伺出指揮ヲ受シ可シ

第五項 郡長ニ於テ施行ス可キ工事に雖モ其町村ノ分擔ニ係ル費用ノ徵收及其地内ニ係ル工事に付テ

ハ郡長ノ指揮ニ隨ヒ戶長各之ヲ擔當スルコト勿論ナリトス

第六項 郡長ニ於テ施行スヘキ第一項第二項ニ係ル事業ニ付特ニ世話掛等ヲ要スルトキハ關係各村戶

長ノ薦舉ニ依リ郡長於テ申付ヘシ但郡長ハ其申付シ可キ人名ヲ具シ縣廳ニ報告ス可シ

第七項 前項世話掛ノ給料旅費等ハ關係村ノ協議費ヨリ支辨スヘシ但其任期及勤務條件等ハ郡長ニ於

テ取調ヘ伺出認可ヲ得ヘシ

第八項 郡長及戶長ハ其施行ニ係ル一周年度間其年七月ヨリ翌協議費ヲ以テ支辨ス可キ工費ノ豫算及

賦課方法ヲ取調ヘ町村聯合會若シハ水利土功會ノ評決ヲ取リ其郡長ノ施行ニ係ル課出金ハ戶長ノ協

議ニ依テ定ムル町村役所ヘ徵收シ翌年七月中其出納ヲ計査シ精算ヲ製シ關係町村及縣廳ヘ報告ス可

シ

但其工費ノ幾分地方税ノ補助ヲ要スルモノハ開會以前豫メ其豫算ヲ供ヘ具申シ其允可ヲ得タル上

ハ猶會議決定ノ豫算ヲ報告ス可シ

第九項 郡長施行ニ係ル工事に係ル區域數部ニ跨ルモノハ各郡長協議ノ上取計ヒ戶長ノ施行ニ係ルモ

ノハ戶長協議之上取計フヘシ

第十項 有志ノ職金等ヲ以テ執行スル工事取扱モ前各項ニ準據スヘシ

(卅五) 人民ニ使用ヲ許シタル官有地ノ外區町村費賦課セサル件  
 明治十七年 十二月五日

乙第百廿二號

郡 役 所  
 戶 長 役 場

凡ソ官有地ハ人民ニ使用ヲ許シタルモノヲ除ク外其所在區町村費ヲ賦課スルヲ得サル義ト心得ヘシ此

旨相達候事  
 (卅六) 路傍溝渠開修浚濬工費負擔方  
 明治十九年 十二月十六日

縣令第十八號

第十一類 土地土功

路傍溝渠ノ新設修繕並浚渫等ニ關スル工費負擔ノ區別左之通り之ヲ定ム  
但用惡水路ヲ兼用スルモノ及ヒ其他從前規約アルモノハ此限リニアラス

路傍溝渠新設修繕並浚渫等工費負擔區別方

一 路傍溝渠新設修繕並浚渫ノ工費ハ所屬ノ道路費又ハ掃除費ヨリ支辨シ其民有地ニ沿ヒタル片則ノ築造及修繕ノ工費ハ其地主ノ負擔トス  
但其地所民有ニアラサルモノハ其地ヲ使用スルモノ、負擔ニ屬シ且市街宿驛内溝渠ノ浚渫ハ大

下水ヲ除ク外ハ都テ其接續地所用者ノ負擔トス

一 路傍溝渠ノ上面各自通行等ノ爲メニ設ケル甲蓋ニ關スル費用ハ其所用者ノ負擔トス  
(卅七) 地方税ノ支辨ニ係ル道路掃除方 明治廿二年 九月七日

縣令第六十四號 (廿年縣令第八十九號及廿二年令第五十七號第十四類參看)

明治二十年(十二月)縣令第八十九號街路取締規則及全二十二年(八月)縣令第五十七號街路取締規則施行ノ路線ヲ除ク外地方税ノ支辨ニ係ル道路ハ爾後隔月一回宛掃除ヲ爲スヘシ其掃除負擔ノ區分ハ道路取締規則第三條ニ適用ス

(卅八) 土木工事執行規程 明治二十四年 四月十三日 達甲第十號

郡 役 所  
市 役 所  
村 役 場

地方税支辨ニ屬スル土木工事執行規程左之通相定ム

土木工事執行規程

第一條 地方税支辨ニ屬スル治水堤防道路橋梁修繕工事ヲ通常及臨時ノ二種ニ分チ執行ス

第二條 治水堤防ノ通常修繕工事ハ毎年度中前後ノ二期ニ分チ前期ハ四月ヨリ六月迄後期ハ一月ヨリ三月迄ノ間ニ執行ス  
前項ノ時期外ニ起工スルモノヲ臨時修繕トス

第三條 市村長ハ部内ニ於テ治水堤防ノ修繕工事ヲ要スルケ所アルトキハ其前期ハ一月三十一日後期ハ十月三十一日迄ニ臨時ノモノハ其時々ケ所附チ以テ市長ハ直チニ村長ハ郡役所ヲ經テ縣廳ヘ届出ヘシ

第四條 郡長ハ前條ニヨリ各村長ヨリ届出タルケ所ニ付郡内ノ全体ヲ通觀シ利害ノ經重工事ノ緩急ヲ量リ該當期間ニ修繕スヘキケ所ノ見込ヲ附シ其前期ハ二月二十日後期ハ十一月二十日迄ニ臨時ノモノハ其時々意見ヲ附シ縣廳ヘ進達スヘシ

第五條 道路修繕工事ノ内路面ノ修補下水暗溝ノ浚渫等專ラ保存ニ屬スル工事ヲ通常修繕トシ路面又ハ道路兩側面ノ崩壞若クハ下水暗溝等ノ破潰及橋梁ノ破損ヲ修築スル工事ヲ臨時修繕トス

第六條 道路ノ通常修繕工事ハ路線ヲ便宜數區ニ分チ每區ニ常雇工夫ヲ置キ主任官吏之ヲ監督シ終始補修ノ事業ニ從事セシム

道路橋梁ノ臨時修繕及通行煩雜ヲササル路線ノ修繕ハ普通ノ手續ニヨル

第七條 市村長ハ部内ニ於テ道路橋梁ノ修繕工事ヲ要スルケ所アルトキハ其時々ケ所附チ以テ市長ハ直ニ村長ハ郡役所ヲ經テ縣廳ヘ届出ヘシ

郡長ハ前項ニヨリ各村長ヨリ届出タルトキハ其時々意見ヲ附シ縣廳ヘ進達スヘシ

第八條 市村長ハ天災其他事故アリテ工事ノ急施ヲ要スルケ所アルトキハ一時假修繕ヲナスヘキ目論見ヲ添ヘ市長ハ直ニ縣廳ヘ村長ハ便宜ニ隨ヒ縣廳若クハ郡役所ヘ急報スヘシ

第九條 郡長ハ天災其他事故アリテ堤防道路橋梁等破損寸時モ猶豫ス可シサル場合ニ在テハ先ツ縣廳ヘ其狀況ヲ通報シ臨機相當ノ假工事ヲ執行スルコトヲ得

第十一類 土地土功

第十條 縣知事ハ工事ノ執行ヲ臨時郡市長ニ委任スルコトアルヘシ

第十一條 縣知事ノ委任ニヨリ郡市長ニ於テ執行スル工事ハ總テ縣廳ヨリ示セシ目論見ニヨルヘシ何等ノ事故アルトモ隨意ニ變更増減スルヲ得ス

第十二條 總テ縣廳ニ於テ工事ヲ執行スルトキハ該ケ所ヲ關係ノ郡市村長ニ通報スルモノトス

(卅九) 道路通常修繕工事施行規則 明治廿四年 四月十三日  
達甲第十一號

郡 役 所  
市 役 所  
村 役 場

地方稅支辨ニ屬スル道路通常修繕工事施行規則左之通相定ム

但明治二十二年甲第十五號達ハ廢止ス

道路通常修繕工事施行規則

第一條 土木工事執行規程第六條第一項ニ屬スル道路ヲ左ノ十六區トシ每區ニ常雇工夫一人ヲ置キ工事ニ從事セシム

- |      |               |      |           |
|------|---------------|------|-----------|
| 第一區  | 甲 府 市         | 第二區  | 自西山梨郡里垣村  |
| 第三區  | 自東八代郡石野村      | 第四區  | 至全郡山梨郡甲運村 |
| 第五區  | 至全郡東山梨郡勝沼村柏尾橋 | 第六區  | 至全郡勝沼村柏尾橋 |
| 第七區  | 北都留留郡笹子村      | 第八區  | 自北都留留郡初狩村 |
| 第九區  | 自北都留留郡大原村     | 第十區  | 至全郡都留郡廣里村 |
| 第十一區 | 北都留留郡原村       | 第十二區 | 北都留留郡上野原村 |

- |      |            |      |            |
|------|------------|------|------------|
| 第十三區 | 自中巨摩郡眞川村   | 第十四區 | 自北巨摩郡登美村   |
| 第十五區 | 至全郡中巨摩郡龍母村 | 第十六區 | 至全郡中巨摩郡藤田村 |
|      | 至全郡花輪村     |      | 至南巨摩郡畷澤村   |

第二條 常雇工夫ノ雇入ハ其年四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄ヲ以テ一期トス

第三條 常雇工夫ハ其擔當區域ノ廣狹難易ニヨリ一ヶ月金三圓以上六圓以下ノ賃金ヲ給ス

第四條 常雇工夫ノ住所姓名及擔當區域ハ各區域ノ經界ニ標示スルモノトス

第五條 常雇工夫ノ施工ニ要スル土砂ハ其用量ヲ豫定購買ノ路傍便宜ノ場所ニ備置シモノトス

第六條 常雇工夫ニ於テ施行スヘキ事項ノ概要左ノ如シ

- 一 路面ノ泥濘又ハ凹窪ヲ生シタルケ所ヘハ直チニ砂利ヲ散布スヘシ但砂利ハ全面速ニ結合セシムルヲ定度トシ一時ニ多量ヲ布シ可ラス
- 一 土砂ヲ散布スルハ成ルヘシ雨中若シハ雨後路面ニ濕氣ヲ含ミタル時ニ於テスヘシ降雨ナキ時期ニ在テハ適宜水ヲ注キ結合ヲ補シヘシ
- 一 雨潦又ハ車轍等ヲ生シタルトキハ速ニ其不陸ヲ掘キ均シ或ハ其部分ニ砂利粘土等ヲ混用シ他ノ修繕ヲ加ヘサル所ト全面平等ニ結合スル様施工スヘシ
- 一 路面ノ轉石又ハ岩石其他底石ノ露出シテ破損ノ媒介ヲナスモノアルトキハ速ニ取捨テ若シハ玄翁等ヲ以テ打碎キ或ハ砂利粘土ヲ混用埋没スヘシ
- 一 橋梁ノ塵介等ハ時々取除クヘシ
- 一 暴雨出水ノ時下水暗溝等ノ填塞セサル様注意シ場合ニヨリ便宜水切ヲ設ケ雨水ノ路上ニ滯流スルヲ防シヘシ

但水切ハ石積又ハ土羽築立ノケ所ニ設ク可カラス

第七條 主任官吏ハ時々路線ヲ巡視シ其實況ニヨリ豫メ常雇工夫ノ施工スヘキ課程ヲ定メ懇切ニ指示

第十一類 土地土功 五十一

他日巡視ノ時課程ノ成績ニツキ勤惰功拙ヲ鑑査督勵スヘシ

第八條 常雇工夫疾病等不得止事故アリテ工事ニ從事スル能ハサルトキハ臨時代人ヲ出スヘシ  
代人ノ賃金ハ本人ノ賃金ヨリ減給スヘカラス

前項ノ場合ニ於テハ其事故及代人ノ住所姓名賃金等直ニ縣廳内務部第二課へ通報スヘシ

第九條 常雇工夫三週間以上工事ニ從事スル能ハサルカ又ハ主任官吏ノ指揮ニ應セサルカ不正若クハ怠慢ノ所爲アルトキハ臨時ニ解雇シ若クハ賃金ヲ減給スルコトアルヘシ

第十條 常雇工夫ハ自己ハ勿論他人ノ代理ヲリトモ土木工事ノ請負ヲナスヲ得サルモノトス

第十一條 常雇工夫擔當區内ニ於テ道路下水等ノ破壊所ヲ見認ムルトキハ直チニ地元村長ニ通報スヘシ

第十二條 常雇工夫擔當區内ニ於テ道路下水等ノ破壊ヲ來スヘキ所業ヲ爲ス者ヲ見認ムルトキハ直ニ差止メ若シ肯セサルトキハ便宜主任官又ハ警察官ニ通報スヘシ

(四十) 土木工事請負規則 明治廿四年 四月十三日  
達甲第拾貳號

郡 役 所  
市 役 所

地方税支辨ニ屬スル土木工事請負規則左之通相定ム

土木工事請負規則

第一條 地方税支辨ニ屬スル治水堤防道路橋梁等ノ建築修繕工事ハ此規則ニ依リ施行ス

第二條 工事施行ハ左ノ方法ニ依ル

一 入札法 一 選拔法  
一 特選法 一 直轄

第三條 入札法ハ左ノ方法ニ依リ執行ス

第一項 入札ハ便宜ノ手續ニヨリ少ナクモ五日前ニ工事ノ種類個所仕様書ノ所在入札開札ノ日時及場所並ニ保護金額ヲ廣告スヘシ

第二項 入札者ハ豫メ實地及仕様書ヲ熟覽シ入札ニハ諸色職工夫等種類毎ニ金高ヲ記入シ且ツ合計ヲナン住所姓名ヲ記シ捺印ノ上封書ヲ以テ期限迄ニ差出スヘシ

第三項 開札ハ主任官吏臨席シ入札人ノ面前ニ於テ執行ス

第四項 一旦開札セシ上ハ如何ナル事故アルトモ引換又ハ變更スルヲ許サズ

第五項 入札ハ最低價ヲ以テ落札トス價額同數ノモノアルトキハ抽籤ヲ以テ落札ヲ定ム但入札ノ價格不相當ト認ムルトキハ落札セサルコトアルヘシ

第六項 左ノ入札ハ無効トス

一 入札三票以下ニ至ラサルトキ

二 入札ニ記載スヘキ要項ヲ記載セス又ハ違算アルモノ

第七項 入札ノ價格不相當ト見認ムルトキ若クハ違算等ニテ無効ニ歸セントキハ更ニ廣告シ又ハ時機ニヨリ直ニ立會ノ入札人ニ命シ再三入札セシムルコトアルヘシ

第八項 入札ヲ爲サント欲スル者ハ入札ト共ニ保証金ヲ納ムヘシ

第九項 開札ノ後チ請負ヲ承諾セサルカ又ハ主任官吏ニ於テ指定セシ期日通り請書ヲ差出サ、ルトキハ違約金トシテ保証金ヲ沒收ス

第十項 入札保証金ハ開札ノ後チ直ニ返付スヘシ落札人ハ請書及工事保証金ヲ差出シタル後チ返付スヘシ

第十一項 第五條ニ依リ保証金ヲ沒收セラレタル者ハ該工事ニ就テハ自己ノ爲メ又ハ他人ノ代理トナリテ入札セシ入札ハ採用セス

第十二類 土地土功

五十三

- 第八條 選拔法ハ左ノ場合ニヨリ二名以上ノ者ヲ選定シ各自請負見積書ヲ差出セル最低價ノ者ハ請負  
 ハシム但其價格不相當ト認ムルトキハ請負ヲ命セサルコトアルヘシ
- 第一項 工事ノ種類ニヨリ特ニ相當ノ技術又ハ經驗アル者ヲ要スルトキ
- 第二項 定數ノ入札者ナキトキ
- 第三項 入札法ヲ執行シ落札ノ場合ニ至ラサルトキ
- 第四項 至急ヲ要シ入札法ヲ執行スルノ餘日ナキトキ
- 第五項 目論見高金五圓未満ノモノ
- 第九條 特選法ハ左ノ場合ニ於テ相當ノ者ヲ撰ミ本人ノ見積書又ハ目論見金額ヲ以テ特ニ請負ハシム
- 第一項 第八條第一項ニ相當ノ者二名以上ヲ得サルトキ
- 第二項 臨時急施ヲ要シ選拔法ヲ執行スルノ餘日ナキトキ
- 第三項 工事ノ種類ニヨリ市村全股若シハ一部組合ノ負擔ト連帶シ其他利害ノ關係ニヨリ該市村ノ  
 全股若シハ一部人民ノ請負トナサレハ施行上不便ノルトキ
- 第十條 直轄工事ハ左ノ場合ニ於テ執行ス
- 第一項 受負望人ナキトキ
- 第二項 煩雜ノ工事ニシテ特ニ直轄施工ヲ要スルトキ
- 第十一條 工事請負者ハ請負金高十分之二ニ該當スル保證金ヲ差出スヘシ
- 但第九條第三項ニ該當スルモノハ此限ニアラス
- 第十二條 工事請負者ハ本縣在籍ノ現住者ニシテ身元儲カナル保證人ヲ立ツヘシ
- 第十三條 保證人ハ請負本人事故アルトキハ代リテ義務ヲ盡スヘキ責任ヲ有スルモノトス
- 第十四條 工事請負ヲ命シタルトキハ主任官吏ノ指定セル期日迄ニ別紙書式ニ倣ヒ請書ヲ作り工事保  
 証金ト共ニ差出スヘシ但工事ニ依リ執行上必要ト見認ムル事項ハ書式ニ拘ハラズ記載セシムルコト  
 アルヘシ

- 第十五條 工事保證金ハ全部竣工検査済ノ後ヲ返付スヘシ
- 第十六條 左ノ場合ニ於テハ工事保證金ヲ沒收スルコトアルヘシ但請負者ノ義務ハ保證金沒收ニヨリ  
 消滅ス
- 第一項 工事中途ニシテ罷免ヲ請ヒ又ハ失踪シ又ハ主任官吏ノ督促ニ應ゼズシテ期限内ニ竣工セザ  
 ル
- 第二項 請負工事ヲ他人ニ讓渡シタルトキ
- 第三項 仕様ヲ省畧シ若シハ豫定ノ材料ヲ用ヒズ其他施工上不正ノ所爲アルトキ
- 第十七條 工事請負者ハ該工事ノ全部又ハ幾分クリトモ他人ニ讓渡シ又ハ第二十二條ニ該當スルモノ  
 ナ代理人若シハ雇人トナシ工事ニ從事セシムルヲ許サズ
- 第十八條 工事竣成検査未済中ハ如何ナル事故アリテ損失ヲ請シルコトアルトモ一切請負者ニ於テ負  
 擔スヘシ
- 第十九條 左ノ場合ニ於テハ其請負ヲ解キ更ニ他ノ請負者ヲ定メ繼續施工セシムルコトアルヘシ
- 第一項 請負人死亡又ハ失踪セシトキ
- 第二項 請負人疾病ニ罹リ又ハ刑事被告人トナリ工事ニ從事スルコト能ハサルトキ
- 第三項 請負工事ヲ他人ニ譲リ又ハ第二十二條ニ該當スル者ヲ代理人若シハ雇人トナシ工事ニ從事  
 セシメタルトキ
- 第四項 仕様者ニ反スル施工ヲナシ若シハ不正ノ所爲アルカ又ハ期限内ニ竣工セサルトキ
- 第二十條 工事中途ニシテ決算仕拂ヲ要スルトキハ主任官吏ニ於テ出來形ヲ調査シ其價格ヲ定メ仕拂  
 ナナスヘシ
- 第十一類 土地土功

第二十一條 工費ハ工事竣成検査ノ上仕拂フヘシ但一廉金高百圓以上ノ工事ハ其出來方凡ソ二分ニ過キサル金額ヲ内渡シテ許スコトアルヘシ

第二十二條 工事請負者ニ於テ不正ノ所爲アルカ又ハ請負ノ義務ヲ竣ヘスニテ第十六條若シハ第十九條ニ依リ處分ヲ請ケタル者ニシテ滿二ケ年ヲ經サル者ハ請負ヲ命セス

何郡何村字何々  
一請負金何程

別紙工事仕様明細書之通

右工事首標ノ金額ヲ以テ請負命セラレ候ニ付保証金何程相納メ正ニ御請仕候就テハ御縣土木工事請負規則ヲ遵守シ工事ハ明治何年何月何日ヨリ實地ニ着手シ何年何月何日迄晴雨ニ關ハラス日數幾日尙テ期ノ可致竣功爲後日印影証明書相添請書差出置候也

年 月 日

請負人 何府郡町何番地  
姓 何縣何市何村何番地  
名印 名印

主 官 廳 宛

明治二十四年  
四月十三日

(四十一) 土木事業ニ屬スル諸物品購買賣却規則  
遵甲第十三號

市 郡 役 所  
役 所

地方稅經濟中土木事業ニ屬スル諸物品購買賣却規則左ノ通相定ム

土木事業ニ屬スル諸物品購買賣却規則

第一條 地方稅支辨ノ土木事業ニ屬スル諸物品ノ購買並賣却ハ左ノ方法ニ依ル

- 一 入札法
- 一 特選法

第二條 入札法ヲ行フトキハ左ノ各項ヲ記載シ少ナクモ三日以上廣告スヘシ

- 一 品目數量
- 二 購買品ハ請取場所賣却品ハ引渡場所
- 三 入札保証金ヲ要スルトキハ其額
- 四 購買品ハ調達期限賣却品ハ引渡期限
- 五 開札ノ場所及ヒ其日時
- 六 購買物品ノ見本又ハ圖面ヲ要スルトキハ其事由
- 七 前項ノ外特ニ必要ト見認ルモノ

第三條 入札法ヲ行フトキハ入札保証金ヲ差出サレムルコトアルヘシ

第四條 入札保証金ハ開札ノ後直ニ返付スヘシ  
但落札人ハ請書及請負保証金ヲ納メタル後請書及請負保証金ヲ徴セサルトキハ現品受渡ノ後返付スヘシ

第五條 開札ノ後落札ヲ承諾セサルカ又ハ主任官吏ヨリ指定ノ期限ニ請書又ハ購買物品又ハ賣却代金ヲ納メサルトキハ違約金トシテ入札保証金ヲ沒收ス

第六條 入札ハ品目數量代金並ニ住所姓名ヲ記シ捺印ノ上封書ヲ以テ差出スヘシ數品ノ入札ヲ同時ニ行フ時ハ一廉毎ニ其金額ヲ記載スヘシ

第七條 開札ハ主任官吏臨席シ入札人ノ面前ニ於テ執行ス

第十一類 土地土功

第八條 入札ハ一旦開札セシ上ハ如何ナル事故アルトモ引換又ハ變更スルヲ許サス

第九條 左ニ該當スル入札ハ採用セス

一 入札ニ記載スヘキ要項ヲ記載セサルモノ

二 違算アルモノ

三 入札ノ價格不當ト見認ルトキ

四 入札ノ數ニ票ニ滿サルトキ

第十條 購買物品ハ最低價賣却物品ハ最高價ヲ以テ落札トス

價格同數ノモノアルトキハ抽籤ヲ以テ定ム但購買物品ノ價格同數ニシテ見本品ノ異ナルトキハ其善長ナリト認ムルモノヲ採用スヘシ

第十一條 入札無効ニ歸セントキハ更ニ廣告シ又ハ時機ニヨリ直ニ立會ノ入札者ニ命シ再三入札セシムルコトアルヘシ

第十二條 開札場所ニ於テ落札人落札ヲ承諾セス第五條ノ處分ヲナセシトキハ直ニ次札ノ者ヘ落札ヲ命スルコトアルヘシ

第十三條 落札者ハ主任官吏ノ指揮ニヨリ別紙書式ニ倣ヒ請書ヲ差出スヘシ

第十四條 保証金ヲ徴シタル入札ニシテ落札ヲ命シタルトキハ定約保証金トシテ落札代金十分一ノ金額ヲ請書ト同時ニ差出スヘシ

第十五條 定約保証金ハ購買ハ現品賣却ハ代金皆納ノ後返付スヘシ但賣却物品ノ内現在地解除ノ期限アルモノハ解除ノ後返付スヘシ

第十六條 落札人不正ノ所爲アルカ又ハ請書ノ義務ヲ終ヘサルトキハ定約金ヲ沒收ス

第十七條 購買ハ現品請取濟代金ノ仕拂賣却ハ代金收入濟現品ヲ引渡スヘシ但シ一廉金高百圓以上ノ購買品ハ既納現品凡ソ二分一以内ノ代金ヲ内渡シスルコトアルヘシ

第十八條 特選法ハ左ノ場合ニ於テ特ニ相當ト見認ル者ヲ選定シ購買又ハ賣却スルコトヲ得但約定ノ手續及物品受渡ノ方法ハ入札法ニ準據ス

一 入札望人ナキトキ又ハ入札三票ニ滿シサルトキ

二 相當價格ノ入札者ナキトキ

三 臨時急施ヲ要シ入札法ヲ行フ餘日ナキ時

四 定價アルモノ又ハ專賣特許ノモノ又ハ指定ノ物品ヲ其所有者ヨリ直ニ購買スルトキ

五 舶來品機械類等ニシテ廣シ信用アル商店又ハ保險附ノ物品ヲ必要トスルトキ

一何々 請書 但別紙明細書之通 見本之通

此賣渡金何程 右首標ノ金額ヲ以テ請負命セラレ候ニ付(保証金何程相納メ)御縣諸物品購買賣却規則ヲ遵守シ正ニ御請仕候就テハ明治何年何月何日迄ニ物品相納メ可申爲後日請書差出置候也

年 月 日 府 郡 市 町 何 番 地 何 縣 何 郡 何 村 何 番 地

主 官 廳 宛 落 札 人 姓 名 印

(四十二) 道路橋梁其他修繕届出方 明治十五年 二月十日

乙第七號 道路橋梁其他修繕届出方 郡 町 村 役 所

道路橋梁其他修繕届出方之義ニ付テハ明治七年乙第百八號同百十七號及十年乙第九十八號ヲ以相違置候處更ニ別紙之通書式改正候條自今修築願出届候分ハ右書式ニ依リ落成ノ都度地元戸長ニ於テ無遺漏取調郡役所ヲ經テ可差出此旨相達候事

第十一類 土地土功 五十九

但是迄許可ヲ得既ニ落成シ未ダ届出サル分モ改正書式ニ依リ本月廿八日迄ニ無相違届出ヘシ

届書式

何年何月何日出願  
何年何月何日許可  
何年何月何日着手  
何年何月何日落成  
何街道字何古道長何間巾何尺

反別何程  
此地券代價何程  
〔但敷或ハ組合ニ係ルモノハ其  
合計反別及地價金ヲ記スヘシ〕

〔道路修繕ニ係ルモノハ古道長何間巾何尺ト記ス  
ヘシト雖道巾變更セサルモノハ記スルニ及ハス以下皆全シ〕

一道路附換或ハ修繕開鑿長何間巾何尺

〔但一村又ハ二村協力ナリテ道路附換修繕或ハ開鑿セシモノハ何村地  
内字何ヨリ何村地内字何迄長何間巾何尺ト肩書スヘシ以下皆全シ〕  
此入費金何程

金何程

但壹入金何程

金何程

但壹入金何程

金何程

〔右線路中橋梁アラハ斯ニ列記スヘシ以下皆同シ〕

右今線路何川何橋

反別何程  
此地券代價何程

大工賃

人足賃

諸色代

〔但敷村或ハ組合ニ係ルモノハ其  
合計反別及地券代價ヲ記スヘシ〕

一土橋架換修繕或ハ新架長何間巾何尺

〔土木石架換修繕或ハ新架トモ  
區別ヲナシ一橋毎ニ記スヘシ〕

此入費金何程

金何程

但壹入金何程

金何程

但壹入金何程

金何程

〔以下幾道アルモ一道路毎ニ區別スヘシ〕

何年何月何日出願  
何年何月何日許可  
何年何月何日着手  
何年何月何日落成

何里道字何古道長何間巾何尺  
反別何程  
此地券代價何程

〔但敷村或ハ組合ニ係ルモノハ其  
合計反別及地價金ヲ記スヘシ〕

一道路附換或ハ修繕開鑿長何間巾何尺  
此入費金何程

金何程

但壹入金何程

金何程

第十一類 土地土功

大工賃

六十一



但登入金何程 六十二

金何程 但登入金何程 人 足 賃

金何程 何年何月何日出願 何年何月何日許可 何年何月何日若手 何年何月何日落成 諸 色 代

何用水字何古井路長何間 巾何尺 (水掛)(水腐)反別何程 此地券代價何程

〔但用水路ハ水掛惡水路ハ水腐反別地券代價ヲ舉ケ組合村アラハ字ノ下何村外何ヶ村ト記シ其組合反別地券代價ヲ舉ケ〕

一用水路附換長何間 上口何尺 深何尺 惡水路開鑿長何間 床何尺

此入費金何程 内

金何程 但登入金何程 大 工 賃

金何程 但登入金何程 人 足 賃

金何程 但登入金何程 諸 色 代

右之通當村内道路橋梁其他 附換修繕 御許可相成候分落成ニ付此段御届仕候也

〔但佗村協力修繕セシモノハ當村外何ヶ村ト認ムヘシ〕

郡町村名

戸長名印

(四十二) 渡船橋梁取締規則 長 官 宛 明治二十三年 三月二十一日 縣令第十六號

渡船橋梁取締規則左之通相定メ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス 但從前免許ヲ得タルモノハ其願書ニ指令及ヒ命令書寫ヲ添ヘ全日迄ニ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘ

渡船橋梁取締規則

第一條 凡ソ橋梁ヲ架設シ又ハ渡船越桶等ノ業ヲ開キ賃錢ヲ得ントスル者ハ地元(市)村長及郡長ノ與印ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ニ出願許可ヲ受ケヘ但賃錢ヲ廢止若シハ免許年限滿期ニ至ラントスルトキハ前以テ所轄警察署又ハ分署ヘ届出ヘ

第二條 前條ノ願書ニハ左ノ各項ヲ具スヘシ

但一歲中ニ於テ期節ヲ限リ架橋渡船越桶等ヲ互用スルモノハ豫メ其日數ヲ各別ニ記シ又落橋其他ノ爲メ臨時渡船等ニ代ルノ見込アルモノハ其旨併記スヘシ

一 免許年限

一 河川地名及渡津ニ關係アル市村名又ハ大字等

一 架橋又ハ渡船場及其最寄ノ實況ヲ見ルヘキ圖面

一 人馬諸車等ヲ種別シタル各賃錢表並一周歲收支豫算書

一 橋梁ノ長幅種類石土及設計工法ノ大畧並ニ其工費額

一 橋梁前後ノ道路又ハ渡船越桶乘下場ノ構造方

一 渡船越桶ノ内徑寸尺構造ノ概畧及人馬諸車積載量

- 一 渡守人員 但高水ニ際シ増員ス
- 第三條 橋梁渡船越桶ノ賃錢標札ハ免許人ニ於テ之ヲ製シ所轄警察署又ハ分署ノ檢印ヲ受ケ必ス其場  
所ニ掲出スヘシ
- 第四條 渡守ハ晝夜渡口ニ詰合通行人馬車等ノ多少ニ關ハラズ往復ヲ速カニスヘシ其待合セ等ノ爲メ  
空シク時間ヲ費サシムヘカラス
- 第五條 制限外ノ人馬車ヲ積載シ又ハ定額外ノ賃錢ヲ請求スルヲ許サズ
- 第六條 河水氾濫ニ際シ免許人ハ故ナク人馬ノ歩涉ヲ拒ムヘカラス
- 第七條 暴風雨出水ノ節ハ其度ヲ計リ濫リニ越渡ヲナスヘカラス  
越渡ヲ止メタルトキハ直ニ所轄警察署又ハ分署ニ報告スヘシ
- 警察官吏ニ於テ危險ト見認メタルトキハ一時其業ヲ休停セシムルコトアルヘシ
- 第八條 橋梁渡船越桶及其前後ノ道路并乗下場等損壞シタルトキハ速ニ修繕ヲ加ヘ又不潔ナラサル機  
常ニ掃除スヘシ
- 第九條 橋梁損破又ハ流失シテ人馬車通行ナリ難キトキハ速ニ渡船若クハ他ノ便宜方法ヲ以テ通行差  
支ヘサル様取計フヘシ
- 但本橋修築ノ爲メ許多ノ日子ヲ要スル見込アルトキハ其竣功期日ヲ定メ最寄警察署又ハ分署ノ認  
可ヲ受クヘシ
- 第十條 左ニ掲グル行人ニ對シテハ賃錢ヲ要求スルコトヲ得ス
  - 一 軍隊々伍ヲ組ミ進行スルトキ
  - 二 近衛師團充員及後備軍召集令狀ヲ攜帶シタルトキ
  - 三 制服ヲ着用シタル警察官吏及憲兵
  - 四 囚人并其護送ノ看守長及看守押丁

五 電信配達郵便集配人并郵便及飛信遞送脚夫タルヲ証スル服ヲ着シ又ハ鑑札ヲ所持シ集配遞送ノ  
トキ

第十一條 免許期限中ト雖トモ免許人ニ於テ不都合ノ所爲アル場合ニ於テハ其免許ヲ解クコトアルヘ  
シ

第十二條 法律規則ニ依リ該事業ニ不利ヲ生スルコトアルモ免許人ハ官廳ニ對シ其辨償ヲ請求スルコ  
トヲ得ス

第十三條 此規則第二條第七條第二項第三項及第十一條第十二條ヲ除キ他ノ各條ニ違背シタル者ハ一  
日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上壹圓廿五錢以下ノ科料ニ處ス

(四十四) 水源ニ關スル民有山林取締心得 明治十四年 五月廿七日

甲第七十四號

本縣下河川大小幹支無慮二百餘流而シテ其河川ノ年々暴溢シテ民害ヲ爲スモノ一ニシテ足ラズ就中其  
害ノ尤モ著シキモノヲ富士川笛吹釜無鹽川ノ四川トス抑モ其害ノ由テ來ル所ヲ原スルニ川源ハ總テ山  
岳ニ發シ其ノ水勢建瓶ノ如ク一降雨毎ニ山澤溪澗ノ土砂ヲ流下シ漸々河身ヲ埋メ水底ヲ堆クス故ニ其  
水常ニ旁流シテ終ニ木來ノ流心ニ復スル能ハス其夏潦秋霖ノ一回到ルニ當テハ縱橫汎濫堤ヲ決シ防ヲ  
潰セサレハ止マヌ爲メニ田園屋廬ヲシテ蕩然一掃シ居民其產ヲ失フニ至タルカ如キノ害既往ノ事蹟ニ  
就キ自ラ鑑戒スル所アリ然ルニ近年家屋ノ建築等盛ニ行ハレ工作製造ノ業年一年ヨリ増加スルヨリ山  
腹溪間到處樹木ヲ濫伐或ハ開墾シテ田圃ト爲スカ故ニ水害年々ニ加ハルモノ、如ク今日ノ景況ヲ以  
テ見レハ假令巨額ノ費用ヲ以テ堤防ヲ修築スルモ其害ノ原因タル砂土ヲ打止シ水勢ノ激怒ヲ殺シニ非  
サレハ其功蹟ヲ収ムル能ハス到底管下治水ノ要ハ土砂打止ノ工事ヲ施シ効ヲ永遠ニ期スルノ外他ニ其  
道無之然レ共右工業ノ如キハ河川ノ景況ニ應シ施行其宜キヲ得サレハ徒ニ無益ニ屬スル而已ナラス又  
或ハ却テ釀害ノ虞ナシト云フ可ラス故ニ曾テ該工事ヲ施行スル岐阜縣下岐蘇川京都府下澁川ノ工場ヘ

主任者ヲ派遣實地見究セシメ候處果シテ本縣河川ニ適應スヘキ見込ニ付差向キ害ノ最モ著シキ河川ノ  
水源ニ於テ工事ヲ創始シ漸ク以テ各河川ニ及ホサントス蓋シ此事業タル一朝能ク其ノ實効ヲ顯ハス可  
キモノニ非ス土功成テ雨露水源ニ保テ草木繁生シテ砂土ノ押出稍ク止ミ而シテ后始メテ水害ノ減輕ヲ  
見ル可ク畢竟該工事ノ主要ハ專ラ土砂ヲ并止シ水源ニ樹木ヲ繁生セシムルニ有之候條山林樹木ノ取締  
等左ノ通り可相心得此旨布達候事

水源ニ關スル民有山林取締心得

第一條 土砂并止ニ緊要ナル民有山林ハ即今右工事施行スル場所ト否トニ拘ハラヌ安リニ樹木ノ伐採  
下草刈草根掘取石材切出シ等ヲ爲ス可ラス若シ不得已伐採等ヲ要スルモノハ所轄郡役所ヲ經テ伺  
出指揮ヲ可受事

第二條 土砂并止ノ工事施行ノ場所民有地ニ係ル分ハ所有主ヘ相諮リ施行ス可キニ付豫テ相心得置ク  
可キ事

第三條 前條ノ場合ニ於テハ所有主若シ不得止差支ノ事情アルモノハ其土地ヲ買上ル事可有之事

第四條 民有ノ山林水源ニ關スル地ニシテ樹木稀疎ノ場所ヘハ適應ノ樹木栽培可致事

(四十五) 河川ニ關係アル氷車新設願出方 明治廿年 七月一日

縣令第五十六號

自今氷車新設ニシテ河川ニ關係アルモノハ縣廳ヘ其他ハ渾テ郡役所ヘ願出許可ヲ受クヘシ

(四十七) 道路修繕ノ爲メ通行停止ノトキ所轄警察官署ニ處分請求ノ事 明治廿四年 三月九日

訓令第九號

郡 役 所  
市 役 所  
村 役 場

自今道路修繕等ノ爲メ通行ヲ停止スルノ必要アルトキハ所轄警察官署ニ其處分ヲ請求スヘシ  
(四十七) 往來止ノ道路ト雖トモ郵便物遞送ノ車馬及人夫ハ通行差許ノ件 明治十八年 六月十二日

乙第六十八號

郡 役 所

今般驛遞局ヨリ照會ノ趣モ有之候條郵便線路中道路修繕等ノ爲メ往來止又ハ車馬通行止之場所所有之節  
郵便物遞送ノ車馬及人夫ハ其通行シ得ラル、限リ特ニ通行差許候條可致此旨相達候事

(四十八) 私設ノ渡津橋道等賃錢ニ關スル件 明治十五年 三月廿八日

郡 町 村 役 所

乙第三十號

人民私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡津及私費開鑿ノ道路等郵便脚夫ノ飛信遞送并郵便物遞送集配<sup>特ニ配達人</sup>  
ルノ服ヲ着シノ時ニ限リ賃錢請求不相成旨其筋ヨリ達有之候條兼テ許可有之架橋渡船及開路願人共  
無誤可相達此旨相達候事

但今後賃錢要請ノ義新ニ出願スル者有之ハ本文ノ趣兼テ相心得サスヘシ

(四十九) 橋梁渡津賃錢ノ件 明治廿年 三月五日

縣令第二十二號

人民私費ヲ以テ架設橋梁渡津等該費補填ノ爲メ賃錢請求差許置候場所ニ於テ自今警部巡查制服着用通  
行ノ節及ヒ巡查看守押丁等囚人護送ノ節ハ護送者并其囚人ニ對シ賃錢請求スヘカラス

(五十) 郵便電信集配人ヨリ橋梁渡津賃錢請求ナラサル件 明治廿一年 十二月廿七日

達甲第四十三號

郡 役 所  
戶 長 役 場

第十一類 土地土功

六十七

人民私費ヲ以テ開設シタル橋梁渡津及道路等制服ヲ着シタル電報配達人ヨリ賃錢請求不相成候處左ノ  
 離形ノ印鑑携帶ノ者ハ制服ノ着否ニ拘ハラズ賃錢請求不相成候條此旨該免許人へ相達スヘシ

六十八

印鑑離形

三三川下

○何國郵便(電信)電信局集配人  
 何、誰

○明治何年何月日

何國何地郵便局

二寸五分

(五十一) 郡町村境界標建設ノ件 明治十二年  
 二月廿四日

乙第三十五號

郡町村役所

從前區町村境界標ヲ相廢シ更ニ郡町村境界標ヲ建設スヘシ此旨相達候事

但其標ハ可成從前ノ區町村標ヲ用ヒ其費用ハ別途可下渡ニ付追テ精算ノ上明細書ヲ製シ郡役所ニ於  
 テ部内町村ノ分トモ取纏メ請取方可申出事  
 郡町村境界標書式

表 從是南山梨縣何郡

裏 年號月日

表 從是東山梨縣何郡何村

裏 年號月日

(五十二) 量水標建設ノ個所ニ於ケル禁制 明治十六年  
 九月廿五日  
 甲第五十五號

當縣下富士川釜無川笛吹川各筋左ノ場所ニ内務省土木局於テ量水標建設相成候條標柱十間以內ニ於テ  
 游泳又ハ漁業ヲ爲シ及ヒ船浮等ヲ繋クヲ禁ス

富士川筋量水標位置

- 南巨摩郡畷澤村地内 第五番
- 全 郡切石村地内 第二番
- 全 郡身延村地内 字龍ヶ鼻
- 全 郡陸合村地内 字伊勢岩
- 西八代郡市川大門村地内 字押切
- 全 郡大河内村地内 字關谷
- 全 郡榮村地内 第一番
- 釜無川筋同
- 北巨摩郡鹽崎村地内 字落合
- 中巨摩郡龍王村地内 字重箱岩
- 笛吹川筋同
- 第十一類 土地土功

六十九

中巨摩郡二川村地内 荒川落合  
(五十三) 砂防工事施行ノ個所ニ係ル禁制 明治十九年  
十一月廿七日  
縣令第十二號

富士川流域源流諸山中砂防工事施行ノケ所ニ於テ左所業ヲ禁ス違フモノハ違警罪ノ刑ニ處ス  
但其ケ所ハ別ニ告示スヘシ

- 一 砂防ノ爲メ新規植付タル松杉其他雜木ヲ拔取又ハ伐採スル事
- 一 砂防ノ爲メ新規植付チナシタル山地ニ於テ火ヲ焚キ土石ヲ堀取シ落葉ヲ掻取り下草ヲ刈リ及牛馬ヲ飼養シ又ハ之ヲ其植樹ニ繫ク等ノ事
- 一 其他施設ノ工事ヲ毀損スヘキ諸般ノ所業

砂防工事施行ノ個所 明治二十年  
四月二日

告示第百一號

明治十九年縣令第十二號富士川流域源流諸山中砂防工事施行ノ個所左ノ如シ  
右告示ス

中巨摩郡野々瀬村地内一之瀬川通

- 一 字日向畑
- 一 全一ノ澤
- 一 全杓子岩
- 一 全大日蔭
- 一 全青岩
- 一 全北谷
- 一 全仙尻

一 全日向畑下

全郡全村地内秋山川通

- 一 字南畝澤
  - 一 全小畝澤
  - 一 全真虫岩
  - 一 全雨鳴山
  - 一 全郷士澤
- 東八代郡豊富村地内淺利川水源通
- 一 字烟草岩
  - 一 全藤房澤
  - 一 全大澤
  - 一 全二澤
  - 一 全蛇岩
  - 一 全奈良澤
  - 一 全源太郎岩
  - 一 全七日神立
  - 一 全欠腰
  - 一 水神森

全郡全村地内七覺川通

- 一 字大崩
- 一 全ッ掛ケ

一 全 猫 又  
一 全 鳩 口  
一 全 北 澤  
全郡龍川村地内龍戸川通リ

- 一 字 唐 澤
- 一 全 ビ リ 澤
- 一 全 サ シ マ ッ 澤
- 一 全 床 別 當
- 一 全 水 出 澤
- 一 全 大 平 澤
- 一 全 築 石

告示第七十九號 明治廿二年 六月十五日

明治十九年縣令第十二號富士川流域御勅使川水源砂防工事施行ノ個所左ノ如シ

中巨摩郡源村地内御勅使川流域

- 一 字 駒 澤
- 一 字 后 卷 澤
- 一 字 蛭 食 澤
- 一 字 城 山
- 一 字 鹽 澤
- 一 字 社 澤

全郡蘆安村地内全川流域

一 字 唐 松 澤

一 字 カ シ ャ ン 澤

一 字 水 澤

一 字 日 向 平 太 澤

(五十四) 河身改修工事落成ノ個所ニ於ケル禁制

明治廿一年 三月廿九日

縣令第二十六號

富士川流域河身改修工事落成ノ個所ニ於テ左ノ所爲ヲ禁ス犯スモノハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

但工事落成ノ個所ハ別ニ告示スヘシ

一 改修工事落成シタル個所へ舟筏ヲ繫留シ權棹ヲ突立ル事

一 上裝面ニ於テ漁業或ハ洗濯干物等ヲ爲ス事

一 施行ノ個所へ植付タル草木ヲ折リ或ハ堤外地ヲ掘取且獵ニ往來ヲ爲ス事

(五十五) 河身改修工事落成ノ個所

明治廿一年 四月廿一日

告示第六十號

本年縣令第二十六號富士川流域河身改修工事中落成ノ個所左ノ如シ

釜無川西岸

一 中巨摩郡田之岡村地先

全 川東岸

一 全 郡玉幡村地先

全 川東岸

第十一類 土地土功

一 全 郡小井川村地先

告示第五十五號

明治廿三年 四月六日

昨明治廿一年三月縣令第廿六號富士川流域河身改修工事中落成ノ箇所全年四月第六十一號ヲ以テ及告示置候處猶落成ノ箇所左ノ如ク

釜無川西岸

一 中巨摩郡上今諏訪村地先

富士川東岸

一 西八代郡豐和村地先

全

一 全 郡羽鹿島村地先

(五十六) 防水用具材料準備

明治廿一年 八月三日

訓令第六十號

郡 役 所  
戸 長 役 場

河川出水ノ節沿河町村人民一致克ク其力ヲ戮セ防禦ニ怠ラサリシコトハ從前ノ事蹟ニ徴シ認知セリ然ルニ客月兩度諸河川出水ニ際シ各村防禦ノ實況ヲ觀察スルニ中ニハ水防用器械及土石材料等ノ不準備ヨリ警ヲ聞キ始メテ周章之ヲ四方ニ需メ甚シキハ出役人夫職工共手ヲ空フニテ終ニ其機ヲ失スル等ノ事實ナキニアラス是等ハ必竟不注意ノ致ス處ナリ依テハ此際各地元并之ニ關係町村又ハ其局部限リ申合セ防水ノ方法并出役ノ事及左ニ列記セル用具材料ノ内各地適宜ノ物件準備ノ事共規約ヲ取設ケサセ而シテ右物件ハ本月十日迄ニ相整ヘ其種類員數ヲ記シ戸長ヨリ所轄郡役所ヲ經テ當廳ヘ届出ヘシ但地方稅ヲ以テ修繕費ヲ支辨スル河川ニ在テハ自後該物件使用ノ都度本文全條届出ヘシ

準備スヘキ物件

- 一 用石(若干) 各地相當ノ數量堤上又ハ適宜ノ場所ニ圍置クモノトス
  - 一 用土(若干) 全上
  - 一 牛棗用材
    - 大聖牛(若干) 川倉牛(若干) 笈牛(若干) 大菱牛(若干) 柵牛(若干) 之類
    - 中聖牛(若干) 中棗(若干) 合掌棗(若干) 小棗(若干) 之類
    - 沈棗(若干) 鹿角(若干) 帶梢(若干) 藤莖(若干) 之類
    - 小杭木(若干) 鹿角(若干) 帶梢(若干) 藤莖(若干) 之類
    - 蛇籠(若干) 石籠(若干) 竹拵(若干) 竹網(若干) 持籠(若干) 之類
    - 藁繩(若干) 空俵(若干) 稱古陸(若干) 祇(若干) 之類
    - 斧鉞(若干) 梃(若干) 鉾(若干) 鉞(若干) 之類
    - 燃ノ松(若干) 火籠(若干) 薪(若干) 丸燈(若干) 提灯(若干) 之類
  - 以上ハ各自ニ管理シ置クカ又ハ水防小屋等ニ適宜備置クモノトス
- (五十七) 土地ニ關スル事務取扱方質問及回答ノ要領明治廿二年四月十九日西山梨郡長ヨリ問合本年大藏省訓令第十五號島廳郡役所地租事務取扱手續第五條ニ原キ納租者異動表ヲ以テ町村戸長ニ通報シタルトキ戸長ニ於テ取扱ノ手續キハ別段指示セラレスト雖トモ其通報ヲ得タルトキ郡役所ト同ク土地當帳ヲ訂正スルハ勿論ノ義ニ候得共實取ノ爲メ異動ニ係ルモノモ所有權移轉同様本帳公認事由各欄内ニ(登記年月及其事由住所氏名等)記入セシメ可然哉又ハ其分ニ限リ從前ノ通り土地所有者名寄帳ノ訂正置カシムルモ妨ケナキ義ニ候哉否云々
- 全廿七日收稅長ヨリ回答

第十一類 土地土功

質取地ニ係ル戸長役場土地臺帳記入方ノ義ニ付御照會ノ趣了承右ハ前段御見解ノ通ニテ可然云々  
○四月廿四日北巨摩郡長ヨリ問合

一筆ノ土地ヲ分割其幾部分ヲ他へ質入セントシ戸長役場へ證明出候節他ニ故障ナキ限リハ証明方  
爲取計可然様被考候得共其地價配分ノ當否調査及登記所ヨリ段別ノ通知ヲ得タルトキ郡役所土地臺  
帳取扱方ハ如何ノ手續キニ依ルヘキ哉疑義有之候條兩様共何分ノ御回示相成度云々  
○全廿七日收稅長ヨリ回答

分裂地々價配分ノ當否及登記所ヨリ段別ノ通知ヲ得タルトキ貴衙土地臺帳取扱方ノ義ニ付御照會ノ  
趣了承右ハ分裂許可以前ノ土地ニ對シ登記所ヨリ通知ヲ得タルトキハ更ニ所有者ヨリハ分裂出願ノ  
手續キヲ爲サシメ而シテ本年訓第二十號地租事務取扱手續第二條ニヨリ御處理相成可然云々

(五十八) 墓地埋葬取締規則

(五十九) 共葬墓地外ニ於ケル埋葬禁止

(六十) 街路取締規則

(六十一) 道路取締規則

(六十二) 道路取締規則適用ノ箇所

(六十三) 人民私費橋梁渡津道路等電報配達賃錢請求ナラサル件

第十四類警察ノ項ニ就テ看ルヘシ

明治廿四年 五月十八日

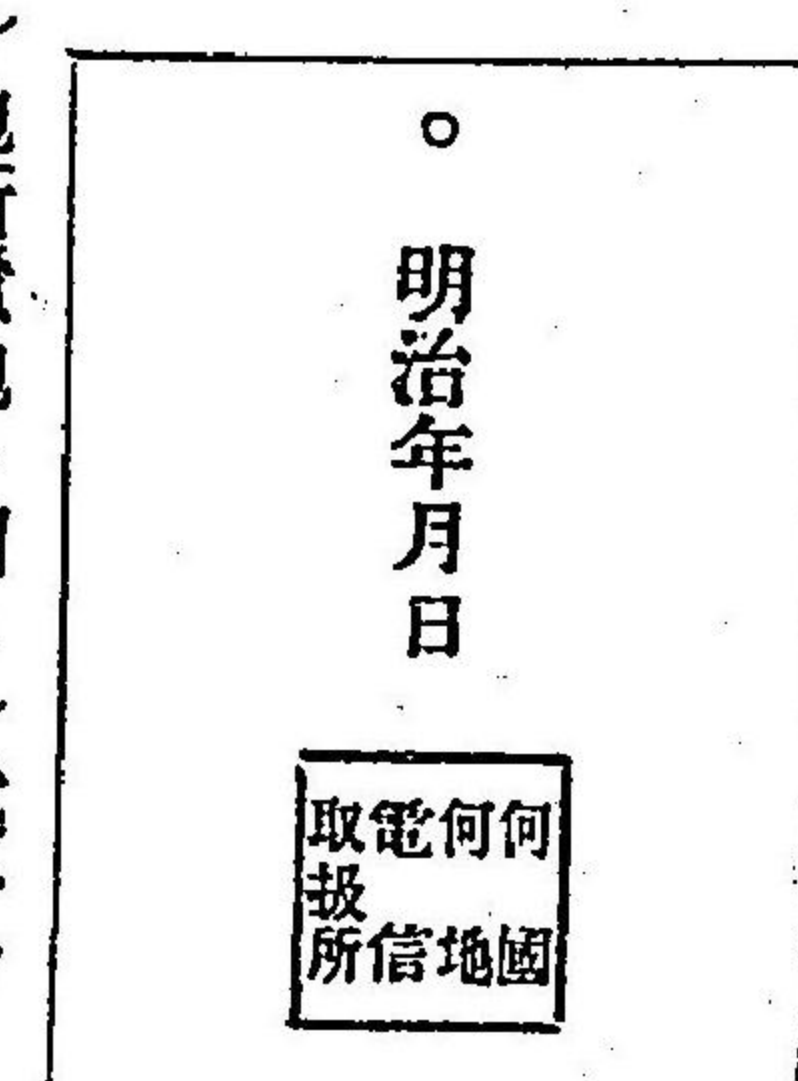
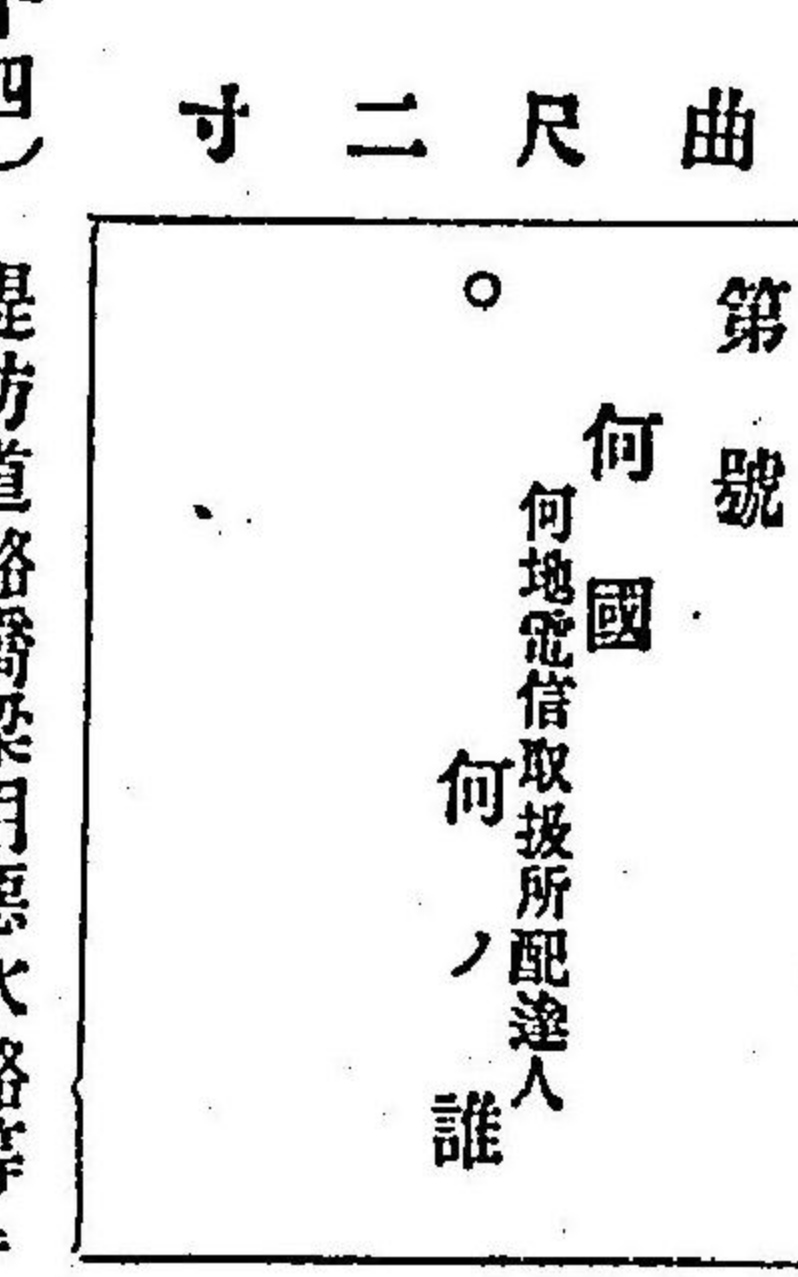
郡 役 所  
市 役 所  
村 役 場

達甲第十八號

人民私費ヲ以テ開設シタル橋梁渡津及道路等電報配達人ヨリ賃錢請求不相成旨明治廿一年十二月達甲  
第四十三號ヲ以テ相達置候處左ノ雛形ノ印鑑携帶ノ者モ同様賃錢請求不相成候條該免許人へ相達ス

(印鑑雛形)

二尺五寸



(六十四) 堤防道路橋梁用悪水路等ニ要スル地所潰地ニ關スル處分方  
訓令第二十五號  
明治廿四年 七月六日

郡 役 所  
市 役 場  
村 役 所

堤防道路橋梁用悪水路等ニ要スル地所潰地ニ對シテハ該地所分製ニ係ルモノ又ハ質入書入等公証ヲ經  
タルモノハ其分製了スルカ若シハ公証取消ノ後ニアラサレハ免租不相成候處往々其手續ヲ解リ候向  
有之甚不都合ノ次第ニ付自今其都度速ニ右手續了シ届出候様取計フヘシ  
但既往ノモノニシテ未タ本文ノ手續ヲ經サルモノハ此際速ニ届出ヘシ

第十一類 土地土功



第十二類

出納

(一) 預り米手續 明治十八年 十月二十日 甲第七拾五號

明治十六年(十一月)本縣甲第五十九號布達預り米手續左ノ通改正ス

預り米取扱手續

- 第一條 預り米ハ地租第三四五六納期ニ於テ各其半額迄ヲ納金抵當トシテ該町村ノ上米ヲ預ルモノトス但代米納テ許可スルトキハ其員額ニ對スル分ハ預り米ヲ許可セス
- 第二條 預り米ハ十一月二十日迄ニ應出タルモノニ限リ許可スヘシ
- 第三條 預り米ヲ許可スルハ地租改正ニ用ヒタル米價ヨリ時價下落ノ時ニ限ルヘシ
- 第四條 時價ハ從前賣納石代相場ニ用ヒタル相場立ノ箇所ニ於テ該年十月十二日ヨリ十一月十日迄ノ間其他上米ノ平均相場ヲ用フヘシ
- 第五條 預り米ハ前條ニ掲ケタル相場ヲ以テ計出シ得ル所ノ米額ニ壹割ヲ加ヘタルモノヲ藏置スヘシ
- 第六條 俵持並ニ俵入等ハ渾テ代米納同様タルヘシ但合米ハ加フルニ及ハス
- 第七條 預り米ヲ藏置スヘキ場所ハ郡役所ニ於テ適宜指定シテ之レヲ收稅長ニ届出ヘシ但藏置看守人給料其他一切ノ費用ハ預ケ主ノ負擔トス
- 第八條 藏入期限ハ十二月十五日限ト定メ郡吏戶長預ケ主<sup>物代</sup>立會封印スヘシ但郡吏ハ適宜巡村ノ日割ヲ定メ豫メ之ヲ通告シ必ス期限内ニ完了スヘシ
- 第九條 預り米換金期限ハ左ニ記載セル三期トス此期日迄ニ納金セサルトキハ郡吏戶長立會其期ニ當ル預り米ヲ競買スヘシ
- 第三期預り米 三月十五日限
- 第四期預り米 三月十五日限
- 第五期預り米 四月二十日限

第六期預り米

五月十五日限

- 第十條 前條競買代金稅額ニ充テサルトキハ直チニ其不足金ヲ徵收ス若シ納メサルトキハ一般ノ租稅不納處分規則ニ據リ處分スヘシ
- 第十一條 預ケ主ニ於テ預り米ヲ賣却セシムコトヲ請フモノアルトキハ其時々之レヲ許可シ各立會賣却ノ上其代金ハ直チニ收入シ藏出セシムヘシ
- 第十二條 預り中水火盜難又ハ欠減等ニ罹リ損失ヲ生スルコトアルモ預ケ主ニ於テ補償ノ責ニ任スヘシ
- 第十三條 預り米アル地所他ノ事故ニ依リ公賣ノ處分ニ係ルトキハ其預り米アルニ拘ハラズ當期ノ稅金ヲ完納セシムヘシ但此場合ニ於テ預り米ヲ還付スヘシ
- 第十四條 許可シタル預り米ノ員額及其金額ハ各郡役所ニ於テ取調十二月十日限收稅長ニ届出ヘシ右布達候事

(二) 管内共有儲蓄金取扱規則 明治廿三年 四月十二日 縣令第三十四號

明治十五年(二月)甲第四號布達管内共有儲蓄金取扱規則縣會ノ議定ヲ經テ左ノ通改正ス

管内共有儲蓄金取扱規則

- 第一條 管内共有儲蓄金ハ公債証書ニ交換シテ之ヲ儲蓄ス
- 儲蓄金ノ内從前貸付ニ係ル分ハ返入アルニ從ヒ漸次公債証書ニ交換ス
- 公債証書并貸付金ヨリ生スル利子ハ元金ニ編入シテ儲蓄ス
- 第二條 管内共有儲蓄金ハ原簿ニ各種金員ノ成立ヲ明記シ且ツ其内學資金土木資金土木基本金富士川通船賦金ハ特ニ元金ヲ區分シテ之ヲ管理ス
- 通船賦金ハ特ニ元金ヲ區分シテ之ヲ管理ス
- 後來新ニ儲蓄金ニ編入スルモノニシテ他ノ金種ト區分シテ管理ヲ要スルモノハ各其金種ニ就テ之ヲ
- 第十二類 出納 七十九

定ム

第二條 管内共有儲蓄金ハ左ノ場合ニ於テ縣會ノ決議ヲ經テ支出スルモノトス

- 一 學資金ハ教育事業ニ就キ土木資金土木基本金ハ土木事業ニ就キ富士川通船賦金ハ富士川船路修鑿事業ニ就キ特別ノ費用ヲ要スルトキ
- 二 其他ハ地方税ノ經濟ニ屬スル事業若シハ地方税ヨリ補助スヘキ事業ニ就キ通常地方税ノ外特別ノ費用ヲ要スルトキ

第四條 管内共有儲蓄金ハ臨時地方税ノ追徴ヲ要スル場合ニ於テ縣會ノ決議ヲ經テ一時之ニ假用スルコトアルヘシ

前項ニ依リ假用シタル金額ハ追テ地方税徵收ノ上之ヲ補填ス

第五條 管内共有儲蓄金ノ貸付金ニ關スル訴訟費用及公債証書買賣ヨリ生スル差金ノ損失等ハ本金ノ負擔トス

第六條 管内共有儲蓄金收入支出ノ豫算及精算ノ方法順序ハ一般地方税ノ例ニ依ル

(三) 備荒儲蓄金取扱規則 明治廿三年四月廿八日 縣令第四十六號

明治十六年(七月)甲第三十九號布達備荒儲蓄金取扱規則縣會ノ議定ヲ經テ左ノ通改正ス

備荒儲蓄金取扱規則

第一條 備荒儲蓄金ハ總テ公債証書ニ交換シテ利殖ヲ計ルヘシ

第二條 備荒儲蓄金ヨリ生スル毎年度ノ利息ハ其年度ノ支出ニ供用シ剩餘ハ翌年度七月以後ニ於テ公債証書ニ交換スヘシ

第三條 備荒儲蓄金ヲ地方税臨時土木費ニ貸付スルトキハ前條公債証書ニ交換スヘキ利息ヲ以テ之ニ充テ尙不足ヲ告クルニ於テハ公債証書ヲ賣却シテ之ニ充ツヘシ

前項ノ貸付ヲ爲ストキハ一ケ年貸付金額百分ノ五以上ノ利子ヲ收入スヘシ

第四條 公債証書ハ縣廳ニ於テ管守シ現金ハ縣廳爲換方第十國立銀行ニ預ケ入レテ之ヲ看守セシムヘシ但支出ノ都合ニ依リ現金ノ幾分ヲ相當利付ノ約束ヲ以テ一時預ケ入レテナスコトアルヘシ

第五條 毎年度支出ノ金員臨時多額ヲ要シ現金ノ不足ヲ告グルトキハ公債証書ヲ賣却シテ之ニ充ツヘシ

第六條 水火風震等ノ災害ニ遭ヒ又ハ流行病ニ罹リ現ニ困究スルモノアルトキハ其實況ヲ調査シ罹災ノ輕重ニ從ヒ左ノ制限ニ依テ救助ヲナスヘシ

- 一 食料ハ男一人一日玄米三合女一人一日玄米二合ノ割合ヲ以テ三十日以内之ヲ給ス但七十歳以上十三歳以下ノ者ハ男ト雖トモ女ノ割合ヲ以テ給ス
- 二 小屋掛ヲ營ムコト能ハサルモノニハ小屋掛料一戸金拾圓以内ヲ給ス但借家又ハ同居ノモノハ此限リニ非ス
- 三 農具料ハ耕作ニ欠クヘカラサル必用ノ器物ニ限リ其代價ヲ給與ス但其金額一戸拾圓以内トス
- 四 種穀料ハ耕作ノ反別ニ應シ之レヲ給ス但其金額一戸拾圓以内トス

第七條 非常ノ凶荒ニ遭ヒ凍饑飢饉ニ迫リ自ラ生存スル能ハサルモノアルトキハ前條ノ例ニ依リ第一項ノ食料ヲ救助ス

第八條 罹災ノ爲メ地租ヲ納ムルコト能ハサル者アルトキハ其罹災ノ輕重ヲ參酌シ地租全部若シハ幾分ヲ補助又ハ貸與スヘシ

第九條 地租ノ貸與ハ三ヶ年以上十ヶ年以内無利足年賦返納ノ約ヲ以テスヘシ若シ其返納年期中再ヒ不感ノ災害ニ遭遇シ貸與金ヲ返納スル能ハサルモノアルトキハ其罹災ノ實況ニ依リ返納ヲ猶豫シ又ハ免除スルコトアルヘシ

第十條 地租ノ貸與金ヲ受ケタルモノ其返納年限内ニ於テ利引ヲ以テ一時上納ヲ願出ルトキハ前年度

第十二類 出 納

八十一

備荒儲蓄金利率平均歩合ニ準シ之ヲ許可スヘシ

第十一條 全市町村非常ノ災害ニ罹リ現ニ凍餒ニ迫ル者アルトキハ十日以内禁出シ米ヲ給與シ其災害ノ景況ニ依リ假ニ小屋掛ヲ營ミ一時ノ急ヲ救済スルコトアルヘシ但本條ノ給與ハ第六條ノ制限内ヲ以テ之ヲ支給ス

第十二條 公債証書ノ買買并現金ノ管守金員遞送ニ係ル費用及公債証書買却ノ損失ハ儲蓄金ノ内ヨリ支辨スヘシ

第十三條 救助補助貸與ノ金額并前條費額ノ豫算ハ毎年縣會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ムヘシ

(四) 年金渡方手續概則 明治十八年 二月十六日

乙第十五號

郡 役 所  
戸 長 役 場

年金渡方手續概則之義ハ去ル十年(十二月)創定以來追々創正増補相違候處猶今般改正ノ條款有之候ニ付更ニ別冊之通修補候條年金拜受者へ達方可取計此旨相達候事

(別冊)

第一款 賞勳局ハ有功受賞ノ本人へ年金下賜ノ議達濟ノ上年金票ヲ同時ニ本人へ付與スヘシ

第二款 賞勳局ハ年金下賜ノ時々何月幾日某官某名<sup>某府縣原籍</sup>勳何等ニ叙セラレ年金若干ヲ賜リ第何號ノ年金票ヲ下賜セラレラル旨及ヒ受賞人ヨリ申立タル年金受取場所共詳細大藏省へ通報シ同

省ニ於テ此通報ヲ得ルヤ直ニ該金額渡方取計ヘキ地方廳へ通達スヘシ

第三款 年金ハ本人管轄廳又ハ寄留ノ地方廳ノ内イソレニ於テモ其便ニ從ヒ受取得ヘキモノニ付受賞ノ本人ハ此金票ヲ該廳へ持參シ現金受取ルヘシ若シ他人ニ代理ヲ命セハ委任狀ヲ附シテ之ヲ該

廳ニ示スヘシ

第四款 本人又ハ代理此金票ヲ持參セハ其管轄廳又ハ寄留ノ地方廳ニ於テハ之ヲ檢査シ其票一紙ヲ以テ本人終身金額ヲ受取ルヘキ管ニ付票上註明ノ金額渡濟ノ上本票ハ之ヲ持參セシ受取人へ附還

シ別ニ金額ノ收証ヲ出サシム

第五款 地方廳ニ於テハ別ニ一帳ヲ製シ置年金額ノ高月日受取人姓名等明細ニ記シ毎年六月十二月現金渡濟ノ上成規ノ通勘定帳ヲ大藏省へ差出スヘシ

第六款 年金ハ毎年上半ケ年分ヲ六月一度ニ下半ケ年分ヲ十二月一度ニ地方廳ニテ附與スルヲ例トス

第七款 年金ハ一月以降六月三十日マテノ日付年金証ヲ受タル者へハ上半年分ノ全額ヲ給シ七月ヨ

リ以降十二月三十一日マテノ日付年金証ヲ受ケタル者へハ下半年分ノ全額ヲ給スルヲ例トス

第八款 地方廳ニ於テ大藏省ノ達ヲ得ハ其金額ハ第六款ニ據リ同省へ請求スヘシ

第九款 勳等年金拜受ノ者其年金授受ノ順序ハ左ノ如シ

一 受賞人ノ請願ニ依リ其本管轄廳又ハ寄留ノ地方廳ニ於テ渡方取計ヲヘシ因テ金票拜受ノ際金額

ノ受取場所ヲ賞勳局へ申立賞勳局ハ之レヲ大藏省へ大藏省ハ之ヲ該廳へ達スヘシ

二 年金受取場所ノ轉換ヲ要スルトキハ其旨賞勳局へ願出且從前ノ地方廳へモ届出ヘシ此場合ニ

於テ受取期月ノ前々月盡日迄ニ願書接到ノ分ハ其期ヨリトシ右ノ期限ヲ經過セシモノハ次期

ヨリ轉換ヲ爲サシム而シテ賞勳局ハ之レヲ大藏省ニ通牒スヘシ

三 年金受取場所轉換ハ前項ノ手續ニ據ルト雖モ若シ其期節ニ臨ミ止ヲ得ス至急ヲ要スルコトアルトキハ乙廳ニ於テ受取度旨ヲ本人ヨリ甲廳へ稟請シ甲廳ハ已ニ國債局ヨリ受取タル金額ヲ

直ニ乙廳へ回送シ其旨速ニ賞勳局及大藏省へ届出ヘシ但此手續ヲ經タルモノハ次期ノ前々月

盡日迄ニ更ニ前項ノ願出ヲ爲スヘカラス

第十款 年金受領ノ本人死去スル時ハ其死去ノ日一月以降六月迄ニ在ルモノハ上半ケ年分七月以降

第十二類 出 納

八十三

十二月マテニ在ルモノハ下半年分ヲ給スヘシ但其年金票ハ最修ノ下付金ヲ給スル地方廳ハ之レヲ収メ地方廳ヨリ賞勳局ニ還納スヘシ賞勳局ハ之レヲ大藏省へ通牒スヘシ

第十一款 勳等年金拜受ノ者事故アリ姓名ヲ改メシトキハ本籍戸長ノ與印アル届書ヲ本人所有年金証ニ添へ現受取場所ノ地方廳ニ出スヘシ地方廳ニ於テハ之ヲ認可シ該年金証ノ裏面ニ何年何月何日改姓名セシコトヲ簡明記入シ長官之ニ名印シテ本人ニ却付ス而後地方廳ハ其事由ヲ賞勳局及ヒ大藏省ニ届出ヘシ

但年金拜受以來ノ改姓名ニ係ル者ハ都テ此手續ニ依ルモノトス

第拾二款 勳等年金拜受ノ者水火災或ハ盜難ニ罹リ又ハ遺失等ニテ所有ノ年金証紛失ニ及フコトアラハ即時ニ該証ノ寫全文其寫ヲ所持ナキ者ハ何號何額ノ年金証如何ナル事由ニ依テ紛失ニ及ヒタル次第ヲ詳記シ代リ年金証請求方ヲ年金受取場所ノ地方廳へ願出スヘシ地方廳ニ於テ右ノ願書ヲ受取ルルハ其旨賞勳局へ申請シ且同時ニ紛失ノ旨大藏省へ届出スヘシ然ルルハ賞勳局ニ於テ前證ニ代ユヘキ新證ヲ作り該地方廳ヲ經テ本人へ付與セシムヘシ尤新證ヲ付與セサル間ハ本人ノ年金渡方ヲ停止ス仍テ其間ニ相渡スヘキ年金ハ新證ヲ付與シタル次ノ拂渡期月ニ一同之ヲ相渡スヘシ但本文紛失ノ年金証ハ發覺次第本人ヨリ其管轄廳へ差出シ該廳ヨリ之ヲ賞勳局へ差出スヘシ

第拾三款 勳等年金拜受ノモノ其勳章及年金ヲ褫奪セラレ又ハ勳章及年金ヲ停止セラレタル時ハ其區分左ノ如シ

一 重罪輕罪ノ訴ヲ受ケテ拘留ノ後 保釋責付亦同シ勳章褫奪セラレタルモノハ其拘留セラレシ日ヨリ年金ヲ止ム

二 明治十六年第三十九號達第一條第二項第三項ニ依リ勳章ヲ褫奪セラレタルモノハ其褫奪ノ月ヨリ年金ヲ止ム

三 輕禁錮以下ノ刑ニ處セラレ勳章褫奪ニ至ラサルモノハ其犯罪ノ訴ヲ受ケテ拘留セラレシ日ヨ

リ刑期終ルノ日迄年金ヲ給セス

四 犯罪ノ訴ヲ受ケテ拘留ノ後免訴ノ言渡ヲ受ケタルモノハ其拘留セラレシ日ヨリ放免ノ日迄年金ヲ給セス又無罪言渡ヲ受ケタルモノハ之ヲ給ス

第十四條 年金付與ノ期月ニ至リ前款一項二項ノモノニハ其拘留又ハ褫奪以前ニ係ル分ヲ付與シ又三項四項ノモノニハ其停止中ノ分ヲ扣除シ又ハ扣除セスシテ付與スヘシ若シ拘留及刑期年金付與ノ期月ニ跨ルトキハ次回ノ期月ニ於テ計算付與スヘシ

年金扣除ノ計算方ハ壹ケ年ニ滿タサルモノハ年額ヲ十二月ニ折算シ又一ケ月ニ滿タサルモノハ一ケ月三十日ヲ以テ算スヘシ但シ月ト日トニ跨ルトキハ皆日數ニ換ヘ年額ヲ乘シ三百六十日ヲ以テ除算スヘシ

第十五款 勳等年金拜受ノ者勳章褫奪又ハ停止セラレタルトキハ賞勳局ハ之ヲ大藏省ニ通報シ大藏省ニ於テハ年金渡方ノ地方廳へ達スヘシ

第十六款 勳等年金拜受ノモノ失踪若シハ逃亡スルトキハ其他人ニ代理ヲ命スルト否トニ拘ハラズ地方廳ニ於テ年金渡方ヲ停メ置キ他日復歸スルカ又ハ踪跡分明ナルトキ榮譽ヲ汚辱スル所爲アリシヤ否ヲ取調其所爲之レヲキトキハ年金付與ノ期月ニ於テ全額ヲ下付スヘシ

若シ其所爲之レアルト見ルトキハ明治十六年第三十九號達ニ依リ賞勳局總裁へ具狀スヘシ但失踪逃亡ノトキ又ハ踪跡分明若シハ復歸シタルトキハ(本文具狀ヲ)速ニ地方廳ヨリ賞勳局及ヒ大藏省へ届出ツヘシ

第十三類 警察

(一) 宿屋取締規則 明治廿二年 二月廿二日

縣令第五拾貳號

宿屋取締規則別冊ノ通改定來ル明治二十二年二月一日ヨリ實施ス

但從前營業者ニシテ引續キ營業ヲ爲サントスル者ハ仍ホ本則ニ依リ更ニ營業ヲ出願スヘシ

宿屋取締規則

第一章 通則

第一條 宿屋ヲ分ツテ旅人宿下宿屋木賃宿ノ三種トス

第二條 宿屋營業ヲ爲サント欲スル者ハ其種類ヲ記シ營業用ニ供スル建物坪數及間取ヲ記シタル明細

圖面ヲ以テ所轄警察署又ハ分署ニ願出テ免許鑑札ヲ受クヘシ其間取坪數ヲ變更増減シ又ハ轉居セシ

トスルトキハ圖面ヲ添ヘ届出認可ヲ受クヘシ

第三條 左ノ各項ニ觸ル、者ハ免許ヲ與ヘス假令免許ノ後ト雖トモ本項ニ觸ル、トキハ其効ヲ失フモ

ノトス

一 未丁年者ニシテ後見人ナキ者

二 白痴瘋癲ノ者

三 強盜盜及詐欺取財ノ罪ヲ犯シタル者

四 監視中ノ者

五 風俗ヲ紊ルヘキ所爲アリト認メタル者

第四條 宿屋ハ左ニ掲グル所業ヲ爲スヘカラス

一 宿引ヲ出シ又ハ人力車夫馭車馬丁駕籠屋等ニ託シ客ヲ誘引スル事

二 客ノ依頼ト雖モ藝妓ヲ招キ又ハ宿泊セシムル事

三 歌舞音曲等ヲ弄シ他客ノ妨害ヲ爲ス事

第五條 左ノ場合ニ於テハ速ニ所轄警察署又ハ分署ニ届出テ鑑札ヲ返納シ又ハ再度若シハ書換テ請フ

ヘシ

一 營業ヲ廢止シタル時

二 轉居改氏名其他鑑札面ニ異動ヲ生シタル時

三 鑑札ヲ亡失シ又ハ毀損シタル時

第六條 宿屋營業者ハ其種類ヲ記シタル看板ヲ店頭ニ掲ケ旅人宿木賃宿ハ夜間十二時迄標燈ヲ以テ之

レニ代ユヘシ

但山間僻地等ニテ標燈ヲ掲グルル必要ナキモノハ其旨所轄警察署又ハ分署ニ申出特ニ認可ヲ請フ可

第七條 宿泊人ノ所有品ハ特ニ其寄托ヲ受ケサルモ紛失セサル様注意スヘシ

第八條 宿泊人ノ承諾ナクシテ來訪者其他ノ者ヲ濫リニ其室内ニ入ラシムヘカラス

第九條 宿泊人疾病ニ罹リタル時ハ醫藥食物等其求ニ應シ特ニ懇切ニ取扱フヘシ

第十條 宿泊人變死ニ係リ又ハ不審ノ處爲アルカ若シハ其所有品等ノ紛失シタルトキハ其關係人ヲ止

メ置即時所轄警察署又ハ分署巡査駐在所派出所若シハ巡行ノ巡査ニ届出ツヘシ

第十一條 宿屋ハ宿泊料ノ額ヲ定メ所轄警察署又ハ分署ニ届出ツヘシ

第十二條 宿泊料ノ抵償トシテ私擅ニ宿泊人ノ所有品ヲ押収シ又ハ受領スヘカラス

第十三條 宿泊人ニ遊興ヲ勸メ又ハ宿泊料外ノ金錢ヲ得ル目的ヲ以テ客ノ求ナキ飲食物ヲ供ス可ラス

第十四條 客ニ供スル臥具及飲食物ハ清潔ナル者ヲ用ユヘシ

第十五條 宿泊料其他宿泊人ニ關スル緊要ノ事項ハ帳場及客室ニ揭示スヘシ

第十六條 營業者其營業ニ關スル諸願届書ハ本則第十條第廿九條但書第三十一條第三十四條第三十七

第十三類 警察

條ヲ除クノ外總テ組合取締人ノ加印ヲ受クヘシ  
第十七條 旅人宿又ハ木賃宿ニシテ牛馬宿ヲ主トスル者ハ市街ヲ離レタル地ヲ撰ミ所轄警察署又ハ分署ノ特許ヲ受クヘシ

但馬主ノミテ宿泊セシムル者ハ此ノ限ニアラス  
第十八條 警察官吏ハ時々旅舎及宿泊人ヲ點檢スルコトアルヘシ

第二章 旅人宿

第十九條 旅人宿トハ一泊定ノ旅籠料ヲ受ケテ人ヲ宿泊セシムルヲ云フ

第二十條 客室ニ光線ヲ取り空氣ヲ流通セシムヘシ

第二十一條 客室ノ坪數十五坪以上アル者ハ各室毎ニ堅固ナル錠前付ノ押入又ハ戸棚ヲ設クヘシ  
第二十二條 二階以上ノ客室二十坪以上アルモノハ階子二個以上ヲ設ク可シ  
但階子ノ幅ハ三尺以上タルヘシ

第二十三條 便所ハ臭氣ノ客室ニ及ハサル所ニ設クヘシ  
但構造上特ニ認可ヲ受ケタルモノハ此限リニアラス

第二十四條 客室及便所ハ日々清潔ニ掃除ヲ爲スヘシ

第二十五條 客室ノ坪數十五坪以上アル者ハ旅客一名ニ付客室一坪半ヲ下ル可ラス  
但同行者ハ此限リニアラス

第二十六條 客室ノ坪數十五坪以上アルモノハ同行者ニアラサル客ヲ双方ノ承諾ナシテ一室ニ同室セシム可カラズ

第二十七條 客室ノ番號并ニ定員ハ客室ノ出入口ニ揭示スヘシ

第二十八條 正當ノ理由ナクシテ旅人ノ宿泊ヲ拒絕スヘカラス

第二十九條 營業者ハ第一號書式ニ從ヒ宿泊人名簿ヲ調製シ宿泊人發着毎ニ之ヲ該簿ニ記入シ警察官吏

ノ點檢ニ供スヘシ

但警察署分署所在地ニアル營業者ハ尙ホ該簿二冊ヲ製シ毎夜十二時迄ニ其發着ヲ届出ヘシ

第三十條 外國人宿泊シタルトキハ旅行免狀ノ寫ヲ添ヘ即時ニ所轄警察署又ハ分署巡査駐在所派出所ヘ届出テ其出發ハ前條ノ例ニ依ルヘシ

第三十一條 宿泊人名簿ハ其紙數ヲ記シ所轄警察署又ハ分署ノ檢印ヲ受クヘシ  
但該名簿ハ使用終リタル後尙一年間保存スヘシ

第三十二條 宿泊人名簿ニハ餘白ヲ置カス順次記入シ若シ誤記等アルモ其紙葉ヲ除却ス可ラス  
客ノ族籍住所氏名年齢職業并ニ前夜ノ投宿行先地ハ可成本人ヲシテ自書セシムヘシ

第三章 下宿屋

第三十三條 下宿屋ハ一ヶ月ノ賄料座敷料等ヲ約定シテ寄宿セシムルヲ云フ

第三十四條 下宿營業者ハ下宿人投宿後三日内ニ其下宿人ト連署ノ上下宿人ノ族籍住所氏名年齢并ニ下宿ノ事由ヲ記シタル第二號書式ノ届書ヲ所轄警察署又ハ分署ニ差出シ其檢印ヲ受ケ所持スヘシ

第三十五條 第二十條第廿二條第廿三條ハ下宿屋ニモ適用ス

第三十六條 下宿人ノ族籍氏名ヲ記シタル木札ヲ店頭又ハ門戸ニ掲出スヘシ

第三十七條 下宿人他ヘ轉宿シ又ハ五日以上外泊シテ所在ノ不分明ナルトキハ其旨所轄警察署又ハ分署ニ届出ツヘシ

第四章 木賃宿

第三十八條 木賃宿トハ賄ヲナサス木賃其他ノ諸費ヲ受ケテ人ヲ宿泊セシムルモノヲ云フ

第三十九條 宿泊人滞在中外泊シタルモノアルトキハ其旨ヲ帳簿ニ記シ置クヘシ

第四拾條 宿泊人名簿并ニ届出方ハ第廿九條第卅一條第卅二條ノ例ニ從フヘシ

第五章 營業組合

第四十一條 宿屋營業人ハ警察署又ハ分署所轄ノ區域ニ從ヒ各組合ヲ設クヘシ

但場所ニ依リ種類ヲ分テ組合ヲ設クルコトヲ得

第四十二條 組合ニ入ラサルモノハ宿屋營業ヲ爲スコトヲ得ス

第四十三條 組合ニ於テハ其規約ヲ定メ所轄警察署又ハ分署ニ届出テ認可ヲ受クヘシ

第四十四條 營業者ハ組合ニ關スル費用ヲ負擔スヘシ其費額及割賦方法ハ規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第四十五條 組合ニハ組合營業者中ヨリ正副取締各一人若シハ取締一人ヲ公撰シ所轄警察署又ハ分署ニ届出テ認可ヲ受クヘシ

第四十六條 組合取締人ニ於テ取扱フヘキ事項左ノ如シ

- 一 宿屋營業ニ關スル諸規則違命令等ヲ營業者ニ通知スル事
- 二 組合營業者ノ營業ニ關スル願届ニ加印シ意見アルモノハ其旨ヲ記シ添申スル事
- 三 營業者名簿ヲ製シ増減アル毎ニ之ヲ加除スル事
- 四 組合ニ關スル費用ヲ取立テ之ヲ支拂フ事
- 五 組合ニ關スル諸費ヲ決算シ之ヲ組合ニ報告スル事
- 六 正副取締人撰舉ニ關スル事務ヲ取扱フ事
- 七 組合規約違反者處分ニ關スル取扱ノ事

右ノ外規約ヲ以テ定メタル事項

第四十七條 左ノ資格ニ適合スル者ニアラサレハ組合正副取締人タルコトヲ得ス

一 年齡滿二十五年以上ニシテ組合區域内ニ相當ノ家屋若シハ土地ヲ所有スル者

二 營業上ニ關スル諸規則ヲ解讀シ算筆ニ通スル者

第四十八條 組合正副取締人ニ不都合ノ處爲アリト認ムルトキハ臨時改撰セシムルコトアルヘシ

第六章 罰則

第四十九條 本則第二條第四條第五條第八條第十條第十二條第十三條第十七條第二十六條第廿八條第

廿九條第三十條第三十一條第三十二條第三十四條第三十七條第三十九條第四十條ヲ犯シタルモノ又

ハ第六條第十一條第十五條第廿四條第二十七條第三十六條第四十四條ノ督促ヲ受ケテ從ハサル者ハ

五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處シ又ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

相貌特徴其他

出發

到着

前夜

行先地

族籍住所

職業

氏名

年齢

合計何十人									
管内人									
管外人									
何人									

第十三類

警察

下宿 出轉 宿 届

九十二

何府縣區郡町村番戶族籍

職 業

氏 名

年 名 齡

何々付何年何月何日ヨリ下宿  
又ハ何月何日 轉宿  
出發  
右及御届候也

明治 年 月 日

右

氏 名 印

何郡何町村下宿營業人

氏 名 印

何 警 察 署 分 署 ハ 宛

(一) 外國人宿泊ノ節扱方 明治八年 七月十四日

乙第七拾九號

各 區

正 副 區 長

全 戶 長

外國人内地々質物産等ノ學術研究或ハ病氣養生等無餘義事故ヲ以内地旅行致シ沿道宿驛旅亭止宿ノ節  
宿主免狀檢査不致者モ有之且外國人ノ内ニモ免狀檢査相拒ミ候者有之哉ニ相聞候ニ付今般外務省ニ於  
テ通行免狀表裏共別紙離形ノ通改正有之候條宿驛旅籠渡世ノ者ニ於テ兼テ相心得外國人旅泊ノ節ハ右  
免狀一見テ了シ免狀番號并國名姓名宿帳ニ記載シ置キ後日取調之節胡亂ノ申出無之様可致尤免狀改方  
等ニ付外國人身柄ニ應シ夫々相當ノ取扱可致依テ別紙免狀離形相添ヘ相達候條疎漏ノ義無之様旅籠渡

世之者へ可相達事

但宿帳記載方并免狀無之者届出方等之義ハ昨七年乙第五十三號ノ通り可相心得事

表 面

第 號

外國人旅行免狀

國 籍

姓 名

身 分

寄留地名

旅行趣意

旅行先及路筋

旅行期限

右ハ 保證ヲ以テ前書掲載ノ場所へ旅行致シ度旨申立差許候條道路筋無故障相通可申事

明治 年 月 日

外 務 省 印

裏 面

内地旅行外國人へ示令

一 内地ヲ旅行スル外國人ハ總テ各地方ノ規則ニ遵依スヘシ

一 此免狀ノ日附ヨリ三十日間ニ必ラス出立スヘシ

一 本文旅行日限ヲ定ムルト雖モ途中事故アリテ期限中ニ歸着スル能ハサル外國人ハ豫メ郵便ヲ以  
テ其國公使ヲ經テ其事故ヲ外務省へ申立ヘシ

第十三類 警 察

九十三



- 一 此免狀返納期限ハ歸着ノ日ヨリ五日以内タルヘシ尤長崎函館等ノ遠方ヨリ出立シテ元地ニ歸着スル外國人ハ其國公使ヲ經テ外務省ニ三十日以内ニ遞送スヘシ
- 一 旅行中止宿所ニ於テ必ス其宿主ニ此免狀ヲ示シ止宿ヲ請フヘシ尤中途中ト雖トモ選卒又ハ區戶長ヨリヨリ免狀ノ檢査ヲ請フ時ハ必ス此免狀ヲ示スヘシ如何ナル事故ヲ以テ辭柄トナスト雖トモ之ヲ示サ、ル外國人ハ差押ノ處分ヲ受クヘシ
- 一 此免狀ハ一人一己ノ用ヲナシ他人ハ貸與フルヲ許サス
- 一 此免狀ヲ受ケテ内地ヲ旅行スル外國人ト雖モ各地方ニテ日本人民ト賣買取引及諸約定ヲ爲スヲ許サス
- 一 此免狀ニヨツテ旅行スル外國人内地ニテ日本人民ノ屋宅ヲ貸借シ又ハ寄留スルヲ許サス
- 一 遊獵ノ免許鑑札ヲ所持スル外國人ト雖トモ内地ニ入りテハ發砲遊獵スルヲ許サス
- 一 旅行中事故アリテ半途ヨリ歸着シ猶行盡サ、ル殘リノ場所ヘ旅行セシト欲スル外國人ハ假令許可セサル場所ト雖トモ一旦此免狀返納致シ更ニ旅行ノ許可ヲ受クヘシ
- 一 本文并此示令中掲載セル條例ヲ犯シタル外國人ハ外務省ヨリ一々其保証シタル公使ヘ公訴スヘシ

計十一款

(三) 外國人旅行免狀ノ件 明治八年七月廿九日

各區正副區長 全戶長

乙第八十三號

本年乙第七十九號ヲ以テ外國人ノ内地旅行ノ節云々免狀離形ヲ添ヘ相達置候處右免狀裏面ノ内示令ノ

文字ヲ心得ト被相改且省使雇人外國人右同斷ノ節被相渡候免狀別紙離形ノ通改正相成候條此旨旅籠屋渡世ノ者ヘ可相達事

(離形裏面)

第 號

外國人旅行免狀

國籍  
姓名  
官仕  
寄留地名  
旅行趣意  
旅行先及道筋  
旅行期限

右ハ 保証ヲ以テ前書掲載ノ場所ヘ旅行ノ義差許候條道筋無故障相通可申事

明治 年 月 日 外務省 印

(離形裏面)

内地旅行外國人ヘ示令

- 一 内地ヲ旅行スル外國人ハ總テ各地方ノ規則ニ遵依スヘシ
- 一 此免狀ノ日附ヨリ三十日間ニ必ス出立スヘシ
- 一 本文旅行日限ヲ定ムルト雖モ途中事故アリテ期限中ニ歸着スル能ハサル外國人ハ豫メ郵便ヲ以テ其事故ヲ官仕スル其廳ヘ申立ヘシ

第十三類

警 察

- 一 此免狀返納期限ハ歸着ノ日ヨリ五日以内タルヘシ尤長崎函館等ノ遠方ヨリ出立シテ元地ニ歸着スル外國人ハ其官仕スル廳ヲ經テ外務省ヘ三十日以内ニ遞送スヘシ
- 一 旅行中止宿所ニ於テ必ス其宿主ニ此免狀ヲ示シ止宿ヲ請フヘシ尤途中ト雖モ罹卒又ハ區戶長ヨリ免狀ノ檢査ヲ請フ時ハ必ス此免狀ヲ示スヘシ如何ナル事故ヲ以テ辭柄トナストモ之ヲ示サル外國人ハ差押ノ處分ヲ受シヘシ
- 一 此免狀一人一已ノ用ヲナシ他人ヘ貸與フルヲ許サス
- 一 此免狀ヲ受ケテ内地ヲ旅行スル外國人ト雖モ各地方ニテ日本人民ト買賣取引及諸約定ヲ爲スヲ許サス
- 一 此免狀ニヨツテ旅行スル外國人内地ニテ日本人民ノ屋宅ヲ賃借シ又ハ寄留スルヲ許サス
- 一 遊獵免許鑑札ヲ所持スル外國人ト雖モ内地ニ入リテハ發砲遊獵スルヲ許サス
- 一 旅行中事故アリテ半途ヨリ歸着シ猶行盡サ、ル殘リノ場所ヘ旅行セント欲スル外國人ハ假令許可セル場所ト雖トモ一旦此免狀返納致シ更ニ旅行ノ許可ヲ受シヘシ
- 一 本文并此示令中掲載セル條例ヲ犯シタル外國人ハ外務省ヨリ一々其官仕セル廳ヘ照會シ同應ニテ相當ノ處分アルヘシ

計十一款

(四) 外國人疾病ニ罹リタルトキ止宿取扱方 明治十二年十月廿七日  
 甲第七十三號

旅行免狀ヲ所持スル外國人旅行ノ節疾病其他不得已事故アルトキハ旅籠渡世ノ者ニ無之共一時宿泊セシメ不苦候條必ス其發着及事故等ヲ速ニ所轄警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ違フ者ハ五錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス但シ該届書ハ便宜巡查駐在所ニ差出スコトヲ得

(五) 社寺參籠人ノ氏名其他記帳方 明治廿二年十月十九日

縣令第七十六號

參籠人アル社寺ニ於テハ自今其參籠人ノ住所氏名年齢等適宜記帳致シ置警察官吏點檢ノ用ニ供スヘシ

(一) 質屋取締細則 明治廿四年二月十日

縣令第廿一號

明治十七年四月甲第廿四號質屋取締細則左之通改正ス

質屋取締細則

- 第一條 質屋取締條例(以下條例)第一條ニ依リ質屋營業ヲ爲サントスルモノハ營業場一ヶ所毎ニ願書一通ヲ作り所轄警察官署ニ差出スヘシ
- 第二條 前條ノ營業ヲ爲サントスルモノハ十五歳未滿若シハ白痴風癡瘖啞ナルトキハ後見人ヲ立ツヘシ
- 第三條 條例第十五條ニ依リ營業ノ停止ヲ受ケシルモノハ一旦廢業ナシ更ニ願出ツルモ其期限經過ノ後ニアラサレハ免許セス
- 第四條 左之看板ヲ店頭ニ掲出スヘシ

何市郡何町村何番戶  
 質屋營業 何之誰

第五條 左ノ場合ニ於テハ三日以内ニ所轄警察官署ニ届出スヘシ

一 廢業シタルトキ

二 轉居改氏名又ハ營業場ヲ移轉シタルトキ

第六條 條例第三條ノ質物臺帳ハ書式第一號ニ第九條ノ流質物賣拂帳ハ書式第二號ニ據ルヘシ但使用

第十三類 警察

前其紙數ヲ記シ所轄警察署ノ契印ヲ受ケヘシ

第七條 質ニ取リタル物品ハ一廉毎ニ何年何號ト記シタル標札ヲ附付シ置クヘシ

第八條 條例第八條ノ物品ハ目錄書式第三號ニ據ルヘシ但分署ノ所轄ニ屬スルモノハ其ノ分署ニ差出

第九條 條例第六條第十一條第十二條ノ届出ハ所轄警察分署又ハ受持巡査駐在所ニモ爲スコトヲ得

第十條 本則第七條ニ違背シタルモノハ三日以上七日以内ノ拘留又ハ七拾五錢以上壹圓五拾錢以下ノ

科料ニ處ス

第十一條 本則第五條第二ノ届出ヲ怠リ又ハ第六條但書ノ契印ヲ受ケスレテ流質物賣拂帳ヲ使用シテ

ルモノハ一日以上五日以内ノ拘留又ハ貳拾錢以上壹圓ノ科料ニ處ス

附則

一 本則施行ノ日迄持越シタル質物ハ一廉毎ニ標札ヲ付シ臺帳ニ之ヲ移記シ其物品ト帳簿ト照較ス

ルニ便ナラシムヘシ

書式

(第一號)

何年何月何日 質物 臺帳

何年何月何日 番號ハ質取順序ニ依リ質入主

証人ヲ立ツル場合ニハ其住所氏名ヲ列記シ本人及証人ノ質印ヲ取り置クヘシ

一 黒縮緬紋付女羽織紋何々裏何々

一 博多織帶男表何々縹裏何色

一 何々

一 何々

幾點

貸金何圓何拾錢

利息月何歩

期限何年何月限

毎號期限ノ次ニハ適宜空地ヲ存シ置キ后日左ノ事項ヲ記入スルニ便ナラシム

一 質物ヲ入換ヘタルトキハ朱ニテ其種類及摸樣并ニ年月日ヲ記載シ舊品目ヲ塗抹スヘシ

二 質物ヲ受戻シ又ハ流質物ヲ賣拂フタルトキハ朱ニテ年月日及事由ヲ記載シ番號品目ヲ塗抹スヘシ

第二號 流質物賣拂帳

何市郡何村町

買

上

氏

名

何年何月何日 一廉ノ内ヲ數個ニ分チ賣拂フトキハ

何年何月何日 何年何月何日 若シハ二ト記載スヘシ

一 何色何々紋付男小袖

一 代金何圓何拾錢

一 何縹給何々

一 代金何圓何拾錢

一 何縹博多織男帶

一 代金何圓何拾錢

右何年何月何日自宅又ハ何ノ誰方ニ於テ賣渡ス

第三號

流質物賣拂届

第十三類 警察

何年第何號

元質入主何市郡何町村

氏

名

一 何色何々紋付男小袖

但紋何々袖口何々裏何々

一 何色博多織男帶

但何々

何年第何百何號

元質入主何市郡何町村

氏

名

一 何々

但何々

一 何々

但何々

幾點

右何年何月何日賣拂候間此段御届仕候也

年 月 日

何市郡何町村河番戸

質

商

氏

名 印

第九號布告

(參着) 質屋取締條例

明治十七年三月

何警察官署御中

第一條 質屋營業ヲ爲ス者ハ管轄廳東京府ハ警視廳ノ免許ヲ受クヘシ

第三條 質物臺帳ニハ警察官ニ於テ質物、貸金、質入主及質入受戻入換ノ年月日ヲ調査スルニ差支ナ

キ様記載スヘシ但證人ヲ要スルトキハ質入主及證人ノ質印ヲ押捺セシメ置クヘシ

第六條 盜罪詐欺取財ノ罪又ハ刑法第三百九拾九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル者ヨリ物品ヲ質ニ

取リ又ハ寄藏シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ届出ヘシ

第八條 流質物ヲ賣拂ハントスルトキハ五日以前ニ其物品目錄ヲ所轄警察署ニ差出スヘシ

第十一條 品觸到達以後一年內ニ類似ノ物品ヲ質ニ取リ又ハ寄藏シタルトキ若クハ其以前ノ質物及

寄藏品中ニ類似ノ物品ヲ發見シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ届出ヘシ

第十二條 質物臺帳流質物賣拂帳及品觸寫書ハ十年間保存スヘシ若シ亡失シタルトキハ直ニ所轄警

察署ニ届出ヘシ

○ 刑 法

第三百九拾九條 強盜ノ贓物ナルコトヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲シタル者ハ

一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百一條 詐欺取財其他ノ犯罪ニ關シタル物件ナルコトヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙

保ヲ爲シタル者ハ一年以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ貳圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(七) 物品典賣方ノ件

明治十年 九月四日

甲第二百四十一號 他人ノ依頼ヲ受ケ諸般ノ物品ヲ典賣致候節其品主ノ姓名ヲ商買ニ告ケスシテ典賣候儀不相成候條此旨

布達候事

(八) 古物商取締細則

明治廿四年 二月十日

縣令第十二號

明治十七年二月甲第七號古物商取締細則左之通改正ス

古物商取締細則

第十三類

警 察

第一條 古物商取締條例(以下條例ト單稱ス)第二條ニ依リ古着古道具古本古書古銅鐵漬金銀ノ買賣營業ヲナサントスルモノハ營業場一ヶ所毎ニ願書一通ヲ作り所轄警察官署ニ差出スヘシ

袋物屋小間物屋藍甲屋時計屋飾屋箔打屋煙管屋ニシテ其營業ニ屬スル古物ヲ買賣交換スルモノ及刀劍商モ亦同シ

第二條 前條ノ營業ヲ爲サントスルモノ十五歳未満若クハ白痴瘋癲瘖啞ナルトキハ後見人ヲ立ツヘシ

第三條 條例第十五條ニ依リ特別取締ニ附セラレ又ハ第十九條ニ依リ營業ノ停止ヲ受ケタルモノハ一旦廢業ヲナシ更ニ願出ツルモ其期限經過ニアラサレハ免許セス

第四條 條例第八條ノ刀劍類ヲ除キ露店及路傍ニ於テ古物ヲ販賣シ若クハ行商ヲナシ又同居常住ノ家族若クハ雇人ヲシテ爲サレトスルモノハ特ニ所轄警察官署ニ願出身分証書ヲ受ケ之レヲ携帶シ又携帶セシムヘシ

第五條 左之看板ヲ店頭ニ掲出スヘシ

第六條 左之場合ニ於テ三日以内ニ所轄警察官署ニ届出スヘシ

何市郡何町村何番戶  
何商  
何之  
誰

一 廢業シタルトキ

二 轉居改氏名又ハ營業場ヲ移轉シタルトキ

三 身分証書面ニ異動ヲ生シ又ハ之レヲ遺失毀損シタルトキ

第七條 條例第三條ニ依リ古着買賣營業人ノ調製スヘキ帳簿ハ第一號書式ニ據リ其他ノ古物ヲ買賣交換スル營業人ノ調製スヘキ帳簿ハ第二號及第三號書式ニ據ルヘシ但使用前其紙數ヲ記シ所轄警察官署ノ契印ヲ受クヘシ

第八條 古着買賣營業人ノ買入又ハ交換シタル商品ハ調査ニ差支ナキ様何年何號買入又ハ交換ト記シタル標札ヲ附付シ置クヘシ

第九條 條例第九條ニ依リ營業人ノ届出ツヘキ物品目錄ハ第四號書式ニ據リ其ノ運送セントスルモノハ一日前(特別取締中)其受取リタルモノハ到着ノ日ヨリ二日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ但荷物ヲ運送セントスルトキハ發送人及受取人ノ住所氏名并ニ物品類名ヲ記シタル本標又ハ送狀ヲ附スヘシ

第十條 本則第四條ノ營業人ハ假リニ出賣及買出帳ヲ製シ歸店ノ後直チニ本帳ニ登錄ノ手續ヲナスヘシ

第十一條 條例第十六條ノ檢査及認可ハ所轄警察分署ニモ願出スルコトヲ得

第十二條 條例第十一條及第十二條ノ届出ハ所轄警察分署又ハ受持巡査駐在所ニモ爲スコトヲ得

第十三條 本則第四條第八條ニ違背シタルモノハ三日以上七日以内ノ拘留又ハ七拾五錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

第十四條 本則第六條(第一テ)第七條但書第九條但書ニ違背シタルモノハ一日以上五日以下ノ拘留又ハ貳拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

附則  
一 從前免許商ニ於テ受ケタル床店露店及行商標札ハ本則施行ノ日ヨリ三十日以内所轄警察官署ニ願出身分証書ト引換テ受クヘシ

一 從前免許ヲ得タル古物商ノ帳簿ハ明治廿四年三月一日ヨリ本則ノ書式ニ改メ古着買賣營業人ノ同日迄持越シタル物品ハ一點毎ニ標札ヲ付シ明細帳ニ之レヲ移記シ其物品ト帳簿ト照較スルニ便ナラシムヘシ

第十三類 警察

(書式)

第一號		古着賣買明細帳	
第一號	買入	黑色羽二重紋付男小袖	紋丸ノ中ニ何裏何色何
	買入	何年何月何日(時)	何市郡何町村何之誰年齡
	買入	何年何月何日	何市郡何町村何ノ誰
第二號	買入	鼠色羽二重紋付女小袖	紋何々裏何々袖口何々
	買入	何年何月何日	何市郡何町村何之誰
	買入	何年何月何日	何市郡何町村何ノ誰
第三號	買入	何年何月何日	何市郡何町村何ノ誰
第四號	買入	何年何月何日	何市郡何町村何ノ誰
第五號	買入	何年何月何日	何市郡何町村何ノ誰
第六號	買入	何年何月何日	何市郡何町村何ノ誰
第七號	買入	何年何月何日	何市郡何町村何ノ誰
第八號	買入	何年何月何日	何市郡何町村何ノ誰
第九號	買入	何年何月何日	何市郡何町村何ノ誰
第十號	買入	何年何月何日	何市郡何町村何ノ誰
第十一號	買入	何年何月何日	何市郡何町村何ノ誰
第十二號	買入	何年何月何日	何市郡何町村何ノ誰
第十三號	買入	何年何月何日	何市郡何町村何ノ誰
第十四號	買入	何年何月何日	何市郡何町村何ノ誰
第十五號	買入	何年何月何日	何市郡何町村何ノ誰
第十六號	買入	何年何月何日	何市郡何町村何ノ誰
第十七號	買入	何年何月何日	何市郡何町村何ノ誰
第十八號	買入	何年何月何日	何市郡何町村何ノ誰
第十九號	買入	何年何月何日	何市郡何町村何ノ誰
第二十號	買入	何年何月何日	何市郡何町村何ノ誰

記載例

- 一 番號ハ買入ノ順序ニ從ヒ物品一點毎ニ之ヲ附シ毎年一月一日ニ始リ十二月三十一日ニ至リテ終リ毎曆年度ノ始メニ於テ定ムヘシ
- 一 買入ノトキ一點トシテ記帳シタル物品ヲ賣渡ス場合ニ於テ二若クハ三以上ヲ分テナルトキハ其

官事故ノ欄ニ記入シ置クヘシ

- 一 若シ証人ヲ立ツル場合ニ於テハ某ノ証人タルコトヲ記シ事故ノ欄ニ記名調印セシムヘシ
- 一 特別取締中ノモノハ買入及賣渡月日ノ下ニ時刻氏名ノ下ニ年齡ヲ記入スヘシ

物品買入讓受明細帳

何市郡何町村

氏名

(特別取締中ノモノハ年齡)

証人ヲ要スルトキ其モノ、住所氏名ヲ例記スヘシ

但表紙何色誰ノ調點

第一號

日本外吏 壹部

代金何圓何拾錢

第二號

一 黒塗重箱壹組

代金何拾錢

但八寸内朱塗

第三號

一 何々

代金何圓何拾錢

但何々

右何年何月何日

(特別取締中ノモノハ時刻)

自宅又ハ何ノ誰方ニ於テ買入又ハ讓受ケ

何市郡何町村

名

(特別取締中ノモノハ年齡)

何年買入第何號

若シ買入ノトキ一點トシテ記帳シタルモノヲ二若クハ三以上

第十三類 警 察

一 日本外史 壹部

代金何圓何拾錢

何年讓受第何號

一 墨色重箱 壹組

代金何圓何拾錢

右何月何日〔特別取締中〕〔モノハ時刻〕自宅又ハ何ノ誰方ニ於テ賣渡又ハ讓受

第四號 他府縣ニ運送ニ 品目錄

一 何色羽二重男小袖

但何年買入第何號

一 何色縮緬男小袖

但何年買入第何號

一 何々

但何々

合計何十點

右何月何日何府縣何市郡何町村何ノ誰ヨリ運送致來(又ハ何ノ誰ニ發送致度(候間此段御届申候也

何市郡何町村何番戶

年 月 日

何警察署又ハ分署御中

(參看) 古物商取締條例 十六年十二月

第五拾號布告

第二條 古物商ハ管轄廳(東京府ハノ免許ヲ受シヘ)

第三條 古物商物品ヲ賣買シ又ハ交換シタルトキハ警察官ニ於テ其物品及ヒ賣主讓主ヲ調査スルニ

差支ナキ様簿冊ニ記載シ且買主讓受主ヲ詳ニスルコトヲ得タルトキハ之ヲ記載スヘ

第八條 刀劍又ハ之ヲ仕込ミタル器具ハ身元詳ナラサル者及ヒ盜罪賭博ノ處斷ヲ受ケタル者ニ賣渡

讓渡シ又ハ露店及ヒ路傍ニ於テ賣渡讓渡スコトヲ得ス

第九條 古物商物品ヲ他府縣ニ運送セントスルトキ又ハ他府縣ヨリ受取リタルトキハ其物品ノ目錄

ヲ所轄警察署ニ届出ツヘ

警察官ハ時宜ニ依リ荷作ヲ解キ物品ヲ檢査シ之ヲ差押フコトアルヘ但費用ハ届人之ヲ負擔スヘ

第十一條 品觸到達以後一年内ニ類似ノ物品ヲ買取り又ハ交換シ及ヒ寄藏シタルトキ若シハ其以前

ニ之ヲ得タルマ、所持シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ届出ツヘ若シ届出テスレテ其理由ヲ辨解

スルコト能ハサル者ハ第六條ノ刑ニ同シ

第十二條 物品ノ賣買交換ヲ記載シタル簿冊及ヒ品觸寫書ハ十年間保存スヘ若シ亡失シタルトキ

ハ直チニ所轄警察署ニ届出ツヘ

第十五條 第六條第十一條第十四條及ヒ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル古物商ハ

管轄廳(東京府ハニ於テ三月以上三年以下ノ特別取締ニ付スルコトヲ得

第十六條 特別取締ニ付セラレタル者ハ尙ホ左ノ項目ニ從フヘシ

一 物品ヲ買取り又ハ交換シタルトキハ其賣主讓主ノ住所氏名年齢及ヒ物品ノ形狀(徽章番號編柄

ヲ云) 價格年月日時ヲ簿冊ニ記載スヘ

二 日出前日没後ハ物品ヲ買取り又ハ交換シ及ヒ寄藏スルコトヲ得ス

三 營業者ニ非サル者ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換シタルトキハ其物品ヲ原狀ノ儘五日間保存スヘ

第十三類 警 察

四 物品ヲ賣渡シ又ハ交換シタルトキハ其物品ノ形狀價格年月日時ヲ簿冊ニ記載シ且買主讓受主ノ住所氏名年齢ヲ知り得タルトキハ之ヲ記載スヘシ

五 毎月一度物品賣買交換ノ簿冊ヲ所轄警察署ニ差出し其檢査ヲ受クヘシ

六 住所ヲ移轉シ又ハ旅行シ又ハ他人ヲ宿泊同居セシメントスルトキハ所轄警察署ノ認可ヲ受クヘシ

第十九條 古物商一年内ニ此條例ヲ再犯シタルトキハ行政ノ處分ヲ以テ其營業ヲ禁止シ又ハ停止スルコトヲ得

○ 刑 法

第三百九十九條 強盜盜ノ贓物ナルコトヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲シタル者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百一條 詐欺取財其他ノ犯罪ニ關シタル物件ナルコトヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲シタル者ハ一年以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(九) 雇人口入營業取締規則 明治十年九月十九日 甲第二百五十四號

雇人口入營業規則別紙之通制定候條此旨布達候事

雇人口入營業取締規則

第一條 雇人口入ヲ營業セント欲スル者ハ區戸長與書ノ書面ヲ以テ所轄警察署又ハ分署ヘ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

但願業又ハ轉籍代替リ或ハ水火盜難及ヒ過誤等ニテ免許鑑札ヲ遺失毀損シ書替又ハ返納スルモノモ總テ本條ニ準シ出願スヘシ

第二條 免許鑑札ハ貸借又ハ讓與スルヲ許サス

第三條

雇人ヲテ望ム者ヨリ口入ノ依頼ヲ受ケル時ハ其本貫ノ大小區國郡町村番戶族屬職業姓名年齢戸主ノ姓名等ヲ詳明開列シ寄留証旅行証等身分ノ確証ト爲スヘキ者ヲ所持スルカ若シ之ヲ所持セサレハ其近傍ノ地ニ居住スル本人ノ親戚朋友等ニテ身元確實ナル者保証人ニ立テシメ然ル後其依頼ヲ許サスヘシ

第四條 身元不明瞭ニシテ風体怪シキ者ト認ムルカ又ハ犯罪人々相書ニ類似スル者ト認ムルトキハ速ニ警察署又ハ分署或ハ巡回ノ巡查ニ申出ヘシ

第五條 口入依頼ヲ受ケ備主ヲ搜索スルノ間本人ヲ其家ニ止宿セシムルハ若シカラスト雖モ雇人ニ非サル者ヲ止宿セシムルヲ許サス

第六條 備主ヲ求メ既ニ口入シタル者ハ本人郷地ヲ出テシヨリ九十日以内ニ本貫戸長ヨリ寄留証ヲ申受ケ備主ノ手ヲ經テ所在地ノ戸長ニ差出サシムヘシ

第七條 備主ト備主トノ間ニ於テ豫テ約定ナシ置ク要件及ヒ雇人ノ身上ニ係リ事故アル節口入人ニ於テ之ヲ引受シヘキ約束アル事ノ如キハ總テ其旨ヲ証書ニ明記シ雇人口入人連署シテ備主ニ差入レ置クヘシ

第八條 雇人口入人方ニ止宿中發病スルカ又ハ雇先ニ於テ病ニ罹リ口入人方ヘ引取ル時ハ醫ヲ延テ診察ヲ乞ヒ懇切ニ看護ヲナシ若シ重症ニ陥ルトキハ速ニ其本籍戸主及ヒ保証人ニ報告スヘシ

第九條 前條ノ場合ニ於テ本人死亡スル時看護ノ親族アレハ其者ニ引渡シ親族居合セサレハ警察署又ハ分署ヘ申出檢視ヲ乞ヒ其差圖ヲ得テ處分スヘシ

第十條 雇人止宿中逃亡又ハ失踪スル時ハ速ニ警察署及分署ヘ届出ヘシ

但雇人本籍ノ戸主及ヒ保証人等ヘハ脚夫又ハ書留郵便ヲ以テ通知スヘシ

第十一條 通常ノ旅人路費欠乏等ノ故ヲ以テ一時滞留シ日雇稼等ヲナサントシテ乞フトモ之ヲ許スヘカラス

第十三類 警 察



第十二條 口入手數料ハ本人ト相對示談ニ任スト雖トモ其年給十分ノ一ヲ超ユヘカラス

第十三條 雇人止宿中飲料等ハ豫テ相對テ以テ相當ノ額ヲ定メ置クヘシ

第十四條 雇人口入帳及ヒ止宿帳ノ二冊ヲ製シ置キ甲乙號ノ書式ニ依テ無洩記載シ止宿二日以上ニ至ル者ハ其時々警察署若シハ分署へ持參シテ檢印ヲ受クヘシ

但本條帳簿ハ警察官吏臨時出張シテ檢査スルコトアルヘシ

第十五條 警察署又ハ分署持區内ノ同業中豫テ人相書回達順序ヲ定メ其署へ届ケ置キ回達アル毎ニ各自寫取ノ上本書ニ押印シ刻付テ以テ至急順達シ周尾ヨリ其署へ還納スヘシ

第十六條 雇人口入營業ノ者ハ丙號書式ニ依テ看板ヲ製シ店前ニ掲ケ置クヘシ

第十七條 此規則第一條第二條第四條第六條第十條第十二條第十三條第十五條第十六條ニ違フモノハ刑法第四百二十七條第八項ニ依テ處分セラルヘシ

(參看) 刑法拔萃  
第四百廿七條

第八項 警察ノ規則ニ違背シテ工商ノ業ヲ爲シタル者  
用紙美濃紙半堅折

表

明治幾年
雇人口入帳
第何號
雇人口入業
姓
名

紙

(朱書)  
幾月幾日口入  
當縣第幾區何郡何村幾番戶士族  
雇主 何業 何 某  
期限 本年幾月幾日ヨリ明治  
幾年幾月幾日迄

乙號書式

用紙如前

表

明治幾年
雇人止宿帳
第何號
雇人口入業
姓
名

紙

(朱書)  
口入中本年幾月幾日ヨリ  
止宿全年幾月幾日第何區  
何郡何村幾番戶士族何某方へ被雇又ハ歸郷  
第十三類 警察

何府縣第幾大區幾小區  
何國何郡何村第幾伍幾番戶士族  
戶主歟其幾男女兄弟姉妹附籍ノ類歟  
何業

何府縣第幾大區幾小區  
何國何郡何村第幾伍幾番戶士族  
戶主歟其幾男女兄弟姉妹附籍ノ類歟  
何業  
何  
明治幾年幾月幾年幾ヶ月  
保証人  
何  
肩書全前(但戶主ニ限ルヘシ)  
何 某

丙號書式

檜板厚サ八分

第幾號

居人口入業

曲尺五寸

曲尺二尺

(十) 浴場取締規則

明治二十四年  
九月二十一日

縣令第六十八號

浴場取締規則左ノ通り之ヲ定ム

但明治十五年(二月)甲第三十七號湯屋營業取締規則ハ廢止ス

浴場取締規則

第一條 洗湯、藥湯、鑛泉、蒸風呂等ノ浴場ヲ建築セントスルモノハ其願書ニ左ノ事項ヲ具シテ所轄警察官

署ノ許可ヲ受クヘシ但全部改造又ハ第四項ノ各構造ニ變更ヲ要スルトキハ亦タ同シ

一 浴場建設ノ地郡市町村名及ヒ字地番

二 浴場ノ種類

三 藥湯、鑛泉ニ在リテハ縣廳ヨリ與ヘタル免許ノ指令若クハ鑑札ノ寫

四 脫衣場流シ場、浴槽、火焚場、焚物置場、火消場、煙突、汚水流線路等ノ仕様書

五 全部構造ノ摸樣ヲ知り得ヘキ圖書

六 人家稠密ノ地ニ在リテハ四隣地主及家主ノ連署但隣地トノ間六尺以上ノ道路若クハ河川等ノ隔

離スルモルモノアルトキハ此限リニアラス

第二條 浴場ノ構造ハ左ノ標準ニ據ルヘシ但建設ノ場所山間僻地ニシテ人家遠隔ナルトキハ此限ニ非

ス

一 湯場ハ出入口、脫衣場、流シ場及浴槽ハ男女ヲ區別シ双方又ハ往來ヨリ見透サ、ル様區畫ヲ設クヘ

二 出入口ニハ下足脫衣場ニハ衣類其他携帶品ヲ保管シ得ヘキ器具又ハ戸柵類ヲ設クヘシ

三 流シ場ニハ湯槽及水槽ヲ設クヘシ

四 火焚場ノ周圍ハ石材煉瓦又ハ厚サ一寸五分以上ノ漆喰塗トシ天井裏ハ一寸以上ノ漆喰又ハ土塗

トスヘシ

五 煙突ハ厚サ四寸以上ノ煉瓦其他不燃質物ヲ以テ築造シ其高サ二丈五尺以上ヲ要シ其屋根ヲ貫出

スルモノハ屋根ヨリ五尺以上突出セシムヘシ但蕘管、茅葺板葺等ノ屋根ニ在リテハ煙突ノ周圍六

尺以上不燃物ヲ以テ覆蓋スヘシ

六 焚物置場ハ火焚場ヨリ三間以上ノ距離ヲ取ルヘシ但焚物置場ト火焚場トノ間堅固ナル障壁アル

モノハ此限ニ非ス

七 火消場及灰置場ハ地中ニ設ケ不燃質物ノ蓋ヲナスヘシ

第三條 第一條ノ構造竣工シタルトキハ使用前所轄警察官署ノ検査及其証ヲ受クヘシ

第四條 正當ノ理由ナシテ検査後開業セス又ハ一ケ年以上休業スルモノハ検査ノ功ヲ失スルモノトス

第十三類 警 察

百十三

百十二

何 某

明治幾年幾月幾年幾ヶ月

保証人

何 某

何 某

- 第五條 營業者未丁年若ハ白痴瘋癲瘖啞ナルトキハ後見人ヲ立ツヘシ
- 第六條 左ノ場合ニ於テハ十日巳内ニ所轄警察官署ニ届出檢査証ノ書換再渡ヲ請ヒ若クハ返納ヲナスヘシ但第四項ノ内他ノ種類ヨリ藥湯若クハ鑛泉ニ變シタルモノ、届書ニハ縣廳ヨリ受ケタル免許ノ指令若クハ鑑札ノ寫ヲ添ユヘシ
  - 一 轉居改氏名シタルトキ
  - 二 檢査証ノ遺失毀損若クハ文字不分明ニ至リタルトキ
  - 三 浴場ヲ廢止シタルトキ
  - 四 浴湯ノ種類ヲ變更シタルトキ
- 第七條 浴場ヲ賣買讓與若クハ貸借シ引續營業セントスルモノハ双方連署ノ上其買受讓受若クハ借受人ニ於テ前條ノ手續ヲナスヘシ
- 第八條 浴槽湯槽水槽及ヒ流シ場ハ毎日電煙突其汚水流線路ハ毎月一回以上大掃除ヲナスヘシ但電煙突等ノ大掃除ハ其期日ヲ定メ所轄警察官署又ハ巡查駐在所ニ届出檢査ヲ受クヘシ
- 第九條 火焚場煙突火消場灰置場等ニ破損ヲ生シタルトキハ速カニ修理ヲ加ヘ所轄警察官署又ハ巡查駐在所ニ届出檢査ヲ受クヘシ
- 第十條 浴場ニハ七歳以上ノ男女混合セシムヘカラス但藥湯鑛泉ニ於テ病者ヲ看護スルモノハ此限ニ非ス
- 第十一條 浴客ノ衣類及携帶品ハ紛失セサル様注意スヘシ
- 第十二條 左ノ事項ハ浴客ノ看易キ所ニ揭示スヘシ
  - 一 入浴料
  - 二 藥湯鑛泉ニ在テハ其功能及其浴法
- 第十三條 店頭ニハ浴湯ノ種類ヲ記シタル旗ヲ揭示シ夜間ハ標燈ニ換ユヘシ

- 第十四條 營業時間ハ毎日午後十二時限タルヘシ但烈風等ノ際ハ時間ニ拘ラス焚火ヲ停止スヘシ
  - 第十五條 浴湯ハ毎日之ヲ更新スヘシ但藥湯鑛泉ニ在テ毎日更新シ難キモノハ所轄警察官署ニ申出特許ヲ受クヘシ
  - 第十六條 消炭及ヒ灰ハ二十四時以上ヲ經過シ火氣消滅シタル後ニ非サレハ火消場外ニ出スヘカラス
  - 第十七條 本則第九條第三條ニ違背シタルモノハ五日以上十日以内ノ拘留又ハ壹圓ニ拾五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス
  - 第十八條 本則第九條第十五條第十六條ニ違背シ又ハ第八條第十四條但書ノ督促又ハ制止ヲ受ケテ從ハサルモノハ三日以上七日以内ノ拘留又ハ七拾五錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス
  - 第十九條 本則第六條(第二テ)第七條ニ違背シ又ハ第十條第十四條本文ノ制止ヲ受ケテ從ハサルモノハ一日以上五日以内ノ拘留又ハ貳拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス
  - 第二十條 本則第十二條第十三條ノ督促ヲ受ケテ從ハサルモノハ五錢以上七拾五錢以下ノ科料ニ處ス
- 附 則
- 一 從前營業者ニ下付シタル鑑札ハ本則施行ノ日ヨリ三十日巳内ニ所轄警察官署ニ届出檢査証ト引換ヲ請フヘシ
  - 一 從前免許ヲ得タル浴場ニシテ本則ノ構造ニ抵觸スルモノハ改造其他大修繕ヲ要スル毎ニ本則ニ從ヒ改造スヘシ
- (十一) 湯壺改造方ノ件 明治十五年十二月廿七日
- 甲第百號
- 本年(二月)甲第三拾七號湯屋營業規則布達但書ニ本則第四條ニ適合セサル浴場ハ本年中限リ改制スヘシト有之候得共同第一二項中湯壺ノ改造ニ限リ當分其儀ニ及ハス
- 右布達候事

(十二) 印判營業取締規則 明治廿三年 九月十五日 縣令第六十三號

印判營業取締規則左之通相定ム

印判營業取締規則

第一條 凡ソ印判ヲ彫刻鑄造シ及販賣ヲ目的トシ營業セントスルモノハ其種目本業兼業ノ區別及雇人ノ數ヲ具シ所轄警察官署ニ願出テ免許鑑札ヲ受クヘシ但他管廳ノ免許ヲ受ケタルモノニシテ當縣下ニ滞在シ營業セントスルトキハ其免許証ヲ以テ所轄警察官署ノ認允ヲ受ケ此規則ニ從ヒ營業スルトナド

第二條 轉居改氏名代替リ又ハ鑑札ヲ遺失シ若クハ毀損シタルトキハ其事由ヲ詳記シ更ニ所轄警察官署ヘ書換又ハ再渡ヲ請フヘシ

第三條 營業者ハ豫テ印影簿ヲ製シ其紙數ヲ算シ記入ニ先タチ所轄警察官署ノ捺印ヲ受クヘシ其改製シタルトキ亦同シ

第四條 營業ニ於テ印判ノ注文ヲ受ケタルトキハ直チニ印影簿ヘ其住所氏名年齢日及種類ヲ詳記シ置キ交付ノ際其記名ノ上ニ之ヲ捺捺スヘシ又單ニ販賣シタルトキ若クハ印面ノ磨滅欠損等ニテ改判ヲ要シタルトキハ舊印ト同一ノ形樣ト雖トモ尙本條ノ手續ヲ爲スヘシ但權利義務ニ關セサル遊印封印合印等ノ類ハ此ノ規定ノ外トス

第五條 印影簿ハ臨時警察官吏ニ於テ檢査スルコトアルヘシ

第六條 營業ヲ廢止シタル節ハ速ニ所轄警察官署ヘ届出テ鑑札ヲ返納スヘシ

第七條 營業者ハ左ノ様式ニ準シ店頭ヘ看板ヲ掲クヘシ

長 二 尺

市	七	寸
口	印	判
彫刻	鑄造	販賣
營業	族	籍
氏	身	分
名		

第八條 第一條第二條第三條第四條ノ規定ニ違背シタルモノハ刑法第四百二十七條第八項ニ依リ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス (參看) 刑法拔萃

第四百廿七條

第八項 警察規則ニ違背シテ工商ノ業ヲ爲シタル者

(十三) 諸興行取締規則 明治廿一年 十二月廿五日

縣令第五拾五號

明治十一年甲第七十九號布達諸興行取締規則左之通改正ス

諸興行取締規則

第一條 凡ソ劇場并人寄席ヲ開設セントスルモノハ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

但一時限リ小屋掛又ハ他ノ家屋ヲ以テ興行場ニ充ツルモノハ此限ニアラス

第二條 凡ソ諸興行ヲ爲サントスルトキハ興行主ヨリ左ノ各項ヲ具シ所轄警察署又ハ分署ニ願出許可ヲ受クヘシ

一 藝人ノ族籍氏名

二 藝人ノ鑑札寫

第十三類 警察

三 興行ノ種類

但演劇ノ新作ニ係ルモノハ筋書ヲ添フヘシ

四 興行ノ期限

五 木戸錢并席料

- 第三條 免許鑑札所持ノ藝人ニ非サレハ興行ニ關預セシムヘカラス
- 第四條 劇場寄席ハ左ノ諸件ニ依リ構造スヘシ
  - 第一 柱礎棟梁鞏固ニシテ墮倒ノ憂ナキ様
  - 第二 震災火災等ノ急變アル時衆人ノ一時脱出スルニ便ナル様
  - 第三 處々ニ窓牖ヲ穿テ人氣ノ流通ニ便ナル様
  - 第四 人ノ坐スヘキ處ハ總テ板床ヲ施シ土氣ヲシテ人身ヲ犯サシメサル様
  - 第五 樂屋ハ道路并衆人ノ居ル處ヨリ見透ナラサル様
  - 第六 便所ハ場席ト離隔シ臭氣ノ通セサル様
  - 第七 便所ハ寬廣ニシテ糞糞ノ憂ナキ様
  - 第八 便器ノ外ニ便汁流通シ又ハ滓汚スル等ノ憂ナキ様
  - 第九 棧敷ハ基礎ヲ堅牢ニシテ陷落ノ憂ナキ様
  - 第十條 許可ヲ得テ劇場寄席ヲ建築シタルトキハ所轄警察署又ハ分署ヘ届出テ検査ヲ經テ開業スヘシ
  - 第十一條 劇場寄席ノ外小屋掛興行ノ者ト雖トモ其構造ノ重要ナル部分ハ第四條ニ準據スヘシ
  - 第十二條 夜興行ハ過シトモ午後十二時ヲ限リ閉止スヘシ
  - 第十三條 烈風ノ時ハ勿論平常タリトモ厚シク火ノ取扱ヲ謹ムヘシ
  - 第十四條 木戸錢并席料ハ豫テ届置キタル定額ヲ大書シ場外ニ掲ケ置クヘシ
  - 第十五條 藝人ハ客ノ招キニ應ジ猥リニ場内客席ニ立入ラシムルヘカラス

- 第十一條 客ハ勿論其他ノ人ト雖トモ猥リニ其樂屋ニ立入ラシムルヘカラス
- 第十二條 藝人ハ他人ノ招キニ應ジ猥リニ其宴席ニ交リ又ハ藝價ノ所業アラシムヘカラス
- 第十三條 強テ客ノ來觀又ハ來聽ヲ觀誘スヘカラス
- 第十四條 種々ノ計策ヲ以テ陰ニ客ノ纏頭ヲ促スヘカラス
- 第十五條 寄席ニ於テ演劇ニ類スル所作ヲ爲スヘカラス
- 第十六條 諸興行トモ言語又ハ形容ヲ以テ猥褻ノコトヲ禁ス
- 第十七條 興行中圖ヲ賣リ又ハ名ヲ景物等ニ托シテ利ヲ圖ルコトヲ禁テ
- 第十八條 興行中場内ニ於テ盜難ニ罹ルモノアルトキハ人ノ出入ヲ差止メ置キ迅速警察官吏ニ申告スヘシ
- 第十九條 來客人ノ内發病ノ者アルトキハ迅速警察官吏ニ申告シ及病院或ハ最寄ノ醫師ニ飛報シテ診察ヲ乞フヘシ
- 第二十條 興行中ハ怠リナク掃除シ就中便所下水等ハ務メテ清潔ニスヘシ
- 第二十一條 此規則第一條第二條第三條第五條第七條第九條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第十五條第十六條第十七條ニ違背スルモノ及ヒ第貳拾條ノ掃除ヲ怠リ督促ヲ受ケ從ハサルモノハ刑法第四百貳拾八條第五項ニ依テ處分セラレヘシ
- (參觀) 刑法拔萃
- 第四百廿八條
- 第五項 官許ヲ得スシテ劇場其他觀物場ヲ開キ及ヒ其規則ニ違背シタル者
- (十四) 劇場寄席ニテ興行ノ外集合ヲ要スルトキ申出方 明治十二年 一月廿九日
- 乙第拾三號
- 劇場又ハ人寄席ニ於テ興行ノ外衆ヲ集メ會合ヲ要スルトキハ他人ニ其席ヲ貸渡スト否トニ拘ハラズ諸

與行同様其席主ヨリ申出許可ヲ受クヘク旨該營業人へ可相達此旨相達候事

(十五) 諸遊技場取締規則 明治十三年九月十八日

甲第百三十三號

諸遊技場取締規則別紙之通相定候條此旨布達候事

諸遊技場取締規則

- 第一條 諸遊技場 大弓、半弓、揚弓、室內射的、玉突、吹矢、借馬、投ヲ開設セントスルモノハ其業名場所等ヲ詳記シ所轄警察署又ハ分署ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ但廢場ノ節ハ届出其鑑札ヲ返納スヘシ
- 第二條 諸遊技場ハ市街宿驛等衆庶輻湊ノ地ニ非サレハ開設スルコトヲ許サス但神佛祭典等ニ因リ一時開設スルモノハ此限ニ非スト雖トモ第一條ニ準シ免許鑑札ヲ受クヘシ
- 第三條 開場ノ時間ハ日出ヨリ夜間十二時ヲ限リトス
- 第四條 遊技場ニ於テ猥褻ノ所業ヲ爲スヲ禁ス又遊客ヲ宿泊セシメ或ハ客ノ囑托ト雖トモ酒肴ヲ出ス可ラス
- 又技戲ニ因リ賭博ニ類ナル所業ヲ爲スヲ禁ス若シ遊客右等ノ所業ヲ爲サントスルモノアラハ之ヲ制止シ從ハサルトキハ警察署又ハ巡行ノ巡查ニ報告スヘシ
- 第五條 遊技ニ用フル銃砲雷管等總テ危險ノ器物ハ鄭重ニ取扱ヲ爲スヘシ又弓銃ノ的場及馬場等ハ堅牢ニ構造シ危險ノ箇ナキ様注意スヘシ
- 第六條 諸遊技場ハ臨時警察官ニ於テ臨檢スルコトアルヘシ若シ的場又ハ馬場等ノ構造堅牢ナラスシテ危害アリト認ムルモノハ改造ヲ命スルコトアルヘシ
- 第七條 大弓半弓及室內射的又ハ馬場等ニ於テハ老幼者又ハ瘋癲若シハ酩酊ノ者ハ認ムルトキハ發射又ハ乘馬ヲ爲サシム可ラス又其使用ヲ解セサル者ニハ方法ヲ教示シ危害ヲ爲サル様注意スヘシ
- 第八條 此規則第一條第二條第三條第四條ニ違フモノハ貳拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

(十六) 藝妓帶間免許地 明治十四年二月八日

甲第十九號

本年甲第十八號布達諸遊藝營業規則中藝妓帶間ノ義ハ當分西山梨郡新柳町并ニ甲府市街ニ限り住居ヲ許シ他ノ在村ニ住居スル義不相成候條此旨布達候事

(十七) 貸坐敷娼妓取締規則 明治廿二年六月十九日

縣令第三十六號

貸坐敷娼妓取締規則左ノ通り相定メ明治廿二年七月一日ヨリ施行ス

貸坐敷娼妓取締規則

第一章 通則

- 第一條 貸坐敷營業ハ西山梨郡甲府上府中組新柳町ニ限り娼妓稼ハ貸坐敷内ニ限ルモノトス
- 貸坐敷營業ハ現ニ免許ヲ得タルモノ、外新規開業スルコトヲ許サス
- 第二條 貸坐敷并娼妓ハ別ニ定ムル規則ニ從ヒ其賦金ヲ納ムヘシ
- 第三條 貸坐敷并娼妓ハ貸坐敷營業者若シハ他ヨリ正副取締ヲ撰舉シ所轄警察署ノ認可ヲ受クヘシ
- 第四條 正副取締ハ滿二十五年以上ノ男子ニ限リ其任期ハ滿二ケ年トス滿期ノ後尙再撰スルコトヲ得但任期中ト雖トモ不適任ト認ムル所爲アルトキハ臨時改撰セシムルコトアルヘシ
- 第五條 正副取締ノ給料及其他ノ諸費ハ貸坐敷并娼妓營業者協議ヲ以テ相定メ所轄警察署ノ認可ヲ受クヘシ
- 第六條 正副取締ニ於テ取扱フヘキ事項ハ別ニ之ヲ定ム
- 第七條 貸坐敷并娼妓ハ坐敷料揚代金其他必要ノ事項ハ豫メ規約ヲ設ケ所轄警察署ノ認可ヲ受クヘシ
- 第八條 貸坐敷并娼妓ハ所轄警察署ヨリ取締上別段ノ命令アルトキハ之ヲ遵奉スヘシ

第二章 貸坐敷

第十三類 警

第九條 左ノ各項ニ係ルモノハ貸坐敷營業ヲ爲スコトヲ得ス

但第二項三項ニ該ルモノハ免許ノ後ト雖トモ其効ヲ失フヘシ

一 白痴瘋癲及後見人ナキ未丁年者

二 幼者ヲ零取誘拐若シハ猥褻姦淫及強盜ノ罪ヲ犯シ處刑ヲ受ケン者

三 賭博犯ノ處分ヲ受ケン者

第十條 貸坐敷營業ヲ讓受ントスルモノハ讓渡主連署ノ上戸長ノ奥印ヲ受ケ所轄警察署ヘ届出免許鑑

札ノ書換ヲ請フヘシ

第十一條 貸坐敷營業者ノ代替リ及免許地内ノ移轉改氏名樓名屋號ノ變換又ハ廢業シタルトキハ三日

以内ニ所轄警察署ヘ届出其鑑札書換ヲ請ヒ若シハ之ヲ返納スヘシ

但一時ノ休業及就業シタルトキモ本文ニ準シ届出ヘシ

第十二條 貸坐敷ハ左ノ如キ看板ヲ店頭ニ掲ケ尙夜間ハ屋號若シハ樓名ヲ付シタル標燈ヲ點スヘシ

縱 曲 尺 三 尺

何屋又ハ何樓  
何ノ誰

標燈尺六寸

第十三條 貸坐敷ニ於テ雇人ヲ雇入レタルトキハ其族籍住所氏名年齢ヲ詳記シ三日以内ニ所轄警察署

ヘ届出ヘシ解雇シタルトキ亦同シ

第十四條 貸坐敷ニ於テハ甲乙二冊ノ帳簿ヲ製シ甲帳ニハ坐敷料其他ノ揚リ高乙帳ニハ遊客ノ住所氏

名年齢等ヲ記載シ警察官吏ノ點檢ニ供スヘシ

但該帳簿ハ使用ノ後チ各滿三年間保存スヘシ

第十五條 貸坐敷營業者ハ左ノ各項ヲ遵守スヘシ

一 娼妓ニ見世ヲ張ラスヘカラス

二 種々ノ方法ヲ以テ通行人ニ遊興ヲ勸メ其他客ヲ誘引スル等ノ所爲アルヘカラス

三 取締ノ承認ヲ得シテ娼妓ニ金錢ヲ貸與スヘカラス

四 祭典其他種々ノ名義ヲ以テ娼妓ニ無益ノ出費ヲ促スヘカラス

五 娼妓ニシテ規約ニ背キ又ハ指教ニ從ハサルモノハ直ニ取締ヘ申出ヘシ苟モ呵責ニ類スル所爲アルヘカラス

六 娼妓ヲ漫リニ貸坐敷免許地外ヘ出スヘカラス若シ止ムヲ得サル事故ニ因リ他出セシムルトキハ

取締ノ承認ヲ受ケ附添人ヲ附スヘシ

七 娼妓ノ疾病ニ罹ルモノアルトキハ何症ニ拘ハラス直ニ醫員ノ診察ヲ乞ハシムヘシ

八 娼妓他ノ貸坐敷ニ移轉或ハ廢業セントスルトキハ速ニ取締ヘ申出謂レナキ故障ヲ爲スヘカラス

九 遊客中金錢遣方不審ナル者アルトキハ速ニ所轄警察署又ハ巡查駐在所等ニ密告スヘシ

十 遊客ニ面會ヲ要スルモノアルトキハ如何ナル事情アリト雖トモ之ヲ拒ムヘカラス

十一 學校ノ徽章ヲ付ケタル生徒并ニ十六年未滿ト認メタルモノハ遊興セシムヘカラス

十二 客ノ需メサル酒食ヲ出シ若シハ遊興ヲ備メ又ハ纏頭其他ノ名義ヲ以テ金錢等ヲ請求スヘカラ

十三 遊興費ノ抵償トシテ客ノ衣服其他ノ物品ヲ受取ルヘカラス

若シ止ムヲ得サル場合ニ於テハ本人ヲ所轄警察署ヘ同伴シテ承認ヲ受ケシ

第十六條 營業上ニ就テハ雇人ノ所爲ト雖トモ營業者其責ニ任スルモノトス

第三章 娼妓

第十七條 娼妓稼ヲ爲サントスルモノハ左ノ各項ヲ記載シタル書面ニ其父兄若シハ尊族親及貸坐敷主

第十三類 警 察

百廿三

連署ノ戸籍寫并ニ貸坐敷主トノ契約書ヲ添ヘ所轄警察署ヘ願出免許ヲ受クヘシ  
但十六歳未滿ノモノハ之ヲ許サス

- 一 本人族籍氏名年齢
- 二 營業ノ期限
- 三 就業ノ事情
- 四 娼名及揚代金額

第十八條 娼妓稼ハ滿三ヶ年ヲ限ル事情止ムコトナキモノハ滿期ノ後ヲ尙繼續出願スルコトヲ得  
但其期限ハ前後通算シテ六年ヲ超ユルコトヲ得ス

第十九條 娼妓ハ前條期限ノ内外ニ拘ハラヌ一旦廢業シタルモノハ再ヒ營業スルコトヲ許サス

第二十條 娼妓ハ貸坐敷内ニ寄寓シ左ノ場合アルモノハ貸坐敷主連署シ免許鑑札ノ書換ヲ請ケ若クハ之ヲ返納スヘシ

- 一 他ノ貸坐敷ヘ寄寓セントスルトキ
- 二 族籍ニ異動アルトキ
- 三 娼名及揚代金ヲ變更シタルトキ
- 四 廢業シタルトキ

第二十一條 娼妓ハ別ニ定ムル規則ニ從ヒ梅毒ノ検査ヲ受クヘシ

第二十二條 娼妓ハ左ノ各項ヲ遵守スヘシ  
一 貸坐敷免許地外ニ出ルコトヲ許サス若シ病氣療養親ノ看病其他止ミ難キ事情アルトキハ取締ノ承認ヲ受ケ附添人ヲ同伴スヘシ

- 二 前項ノ場合宿泊ヲ要スルトキハ所轄警察署ノ認可ヲ受クヘシ
- 三 疾病ニ罹リタルトキハ其何症ヲ問ハス速ニ醫師ノ診察ヲ受ケ尙モ隠蔽スヘカラス

四 無益ノ散財ヲ爲シ又ハ漫リニ負債ヲ爲ム等ノコトナキヲ要ス

第二十三條 貸坐敷主ニ於テ贅費ヲ強ヒ又ハ正當ノ理由ナシ轉寓及廢業休業ヲ故障シ或ハ本則若クハ規約ニ違フノ故ヲ以テ苛酷ノ取扱ヲ爲シ其他不誠實ノ處置アルトキハ直ニ所轄警察署ニ訴出ルコトヲ得ヘシ

第四章 罰則

第二十四條 本則第二條第八條第廿一條ヲ犯シタルモノハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十五條 本則第七條第十條第拾一條第十三條第十四條第十五條ノ各項第廿二條ノ第一項第二項第三項ヲ犯シタルモノハ一日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

第二十六條 本則第廿四條ニ依テ處分ヲ受ケタルモノハ其情狀ニ依リ本業ヲ停止若シハ禁止ス

(十八) 貸坐敷娼妓賦金 明治廿二年 六月十九日

縣令第三拾七號 貸坐敷娼妓賦金左之通相定ム

- 一 貸坐敷營業人ハ賦金トシテ毎月揚リ高十分ノ一分五厘ヲ納ムヘシ
  - 二 娼妓稼人ハ賦金トシテ毎月稼高十分ノ一分五厘ヲ納ムヘシ
  - 三 賦金ハ翌月三日限り取締ヲ經テ縣廳内務部第四課ヘ納ムヘシ
- (十九) 乘合馬車取締規則 明治廿一年 十二月廿二日  
縣令第五拾三號

明治二十年(十二月)縣令第九十號乘合馬車取締規則別冊ノ通改正ス

(別冊) 乘合馬車取締規則

第十三類 警察



第一章 通則

- 第一條 乗合馬車營業ヲ爲ントスル者ハ所轄警察署又ハ分署へ願出免許証ヲ受クヘシ
- 第二條 營業者ハ馭者馬丁ノ族籍住所氏名年齢ヲ記載シ所轄警察署又ハ分署ニ届出一人ニ付鑑札一個ヲ受クヘシ  
但營業者自ラ馭者馬丁ノ業ヲサントスルトキハ亦本條ノ例ニ據ルヘシ
- 第三條 營業ニ使用スル車輛馬匹ハ第十三條及ヒ左ノ事項ヲ具シ所轄警察署又ハ分署ニ届出テ検査ヲ受クヘシ
  - 一 車輛ハ壹頭率又ハ貳頭率ノ區別及ヒ乗客ノ定員
  - 二 馬匹ハ其産地及年齢寸尺毛色
- 第四條 前條ノ外猶毎年二回四月車輛及馬匹検査ヲ受ケ検査証ニ檢印ヲ受クヘシ其買受讓受ヲナシ又ハ車体ヲ改造シタルトキハ定期ニ拘ハラヌ検査ヲ受クヘシ
- 第五條 検査証アル馬丁ト雖トモ第十三條第十四條ノ制限ニ適セス又ハ車体器具ノ破損若クハ不潔ニ至リ或ハ馬匹疾病衰弱ノ狀アリト認ムルトキハ一時検査証ヲ引上ケ其使用ヲ差止ムヘシ
- 第六條 左ノ場合ニ於テハ所轄警察署又ハ分署ニ届出テ書換又ハ再渡ヲ請フヘシ
  - 一 轉居改氏名其他免許証検査証鑑札面ニ異動ヲ生シタル時
  - 二 免許証検査証鑑札ヲ遺失毀損シ又ハ其文字不分明ニ至リタル時
- 第七條 左ノ場合ニ於テハ所轄警察署又ハ分署へ届出テ免許証検査証又ハ鑑札ヲ返納スヘシ
  - 一 廢業又ハ車馬ノ使用ヲ廢シタル時
  - 二 車馬ヲ賣渡シ又ハ讓渡シタル時
  - 三 馭者馬丁ヲ解雇シ又ハ馭者馬丁ノ失踪逃亡若クハ死去シタル時
- 第八條 免許証検査証鑑札ハ他ニ貸與スルコトヲ許サス
- 第九條 馬車ヲ運轉スルトキハ馭者馬丁ヲ缺クヘカラス

但一頭率ニ限リ馬丁ヲ缺クモ妨ケナシ

第十條 馬匹ノ検査証ハ其右蹄ニ烙印ヲ受ケ車輪ノ検査証ハ車体ノ後面右方ニ釘付スヘシ

第十一條 營業者ハ検査証及ヒ鑑札各一個ニ付手数料金貳錢ヲ納ムヘシ

但書換又ハ再渡ニ係ルトキハ各其半額トス

第十二條 此規則ニ係ル願届書ハ總テ頭取ノ加印ヲ受ケ警察署又ハ分署ニ差出スヘシ

第二章 車体馬匹及器具

第十三條 車体ハ堅牢ニシテ其構造及附屬品ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一 車ハ四輪以上ニシテ適當ナル駐車器ヲ備フヘシ

二 車体ハ黒無地塗ニシテ漆又ハ「ペンキ」ノ類ヲ用ヒ高サハ客座ヨリ屋根裏迄四尺幅員ハ内法三尺

四寸以上長サハ一頭率キハ内法三尺六寸以上貳頭率キハ六尺以上トス

三 客座ハ車蓋ヨリ曲尺一尺以上ノ高サニ設ケ其中張敷蒲團ハ革又ハ羅紗ノ類ヲ用ヒ清潔ノ裝置ヲ爲スヘシ

但一人ノ座席ハ巾曲尺一尺二寸以上トス

四 車輪ニ泥除ヲ設クヘシ

五 車体前面ノ兩側ニハ硝子燈ヲ備フヘシ

六 運轉器心棒發條力革手綱及其他ノ器具ハ堅牢強靱ノモノヲ用ユヘシ

七 車体ノ構造ハ可成箱形ニシテ適宜窓ヲ設ケ其窓ニハ硝子戸若クハ日除雨覆トナルヘキ裝置ヲ爲スヘシ若シ他ノ構造ヲ用ユルトキハ屋根ハ雨覆ヲ防クノ構造ヲ爲シ客座ノ周圍ニハ日除雨覆ノ

準備ヲ爲シ日除ハ織物雨覆ハ「ゴム」引又ハ「ツツク」ノ類ヲ用ヒ其「ツツク」ヲ用ユルトキハ外ニ

桐油ヲ備置クヘシ

第十四條 馬匹ハ五才以上体軀強壯ニシテ音響物体等ニ驚キ又ハ其他ノ癖ナキ者ニ限ル

第十三類 警 察

第三章 馭者馬丁ノ資格及服裝

第十五條 馭者ハ滿二十年以上ニシテ馭術ニ熟達シ馬丁ハ滿十六年以上ニシテ共ニ身體強壯ナルモノニ限ル

第十六條 前條ノ資格ニ適合スト雖トモ左ノ各項ニ觸ルモノハ馭者馬丁タルコトヲ許サス

但鑑札ヲ與ヘタル後ト雖トモ本文ニ觸ル、トキハ其効ヲ失フモノトス

一 醉狂又ハ暴行ノ癖アルモノ

二 強盜盜詐欺取財強姦及過失ニアラサル殺傷罪ヲ犯シタル者

三 監視中ノ者

四 瘋癲白痴ノ者

第十七條 馭者馬丁ハ左ノ服裝ヲ爲スヘシ

一 馭者ハ笠 筒袖 股引 靴

但雨雪ノ時ハ桐油引又ハ羅紗ニテ筒袖製ノ雨具ヲ用ユルヲ得

二 馬丁ハ帽子 法被 股引

但雨雪泥濘ノ時ハ半股引及「エム」引羅紗又ハ桐油製ノ雨具ヲ用ユルヲ得

第十八條 馭者馬丁ハ頰被リ鉢巻其他不体裁ノ形裝ヲ爲スヘカラス

第十九條 馭者馬丁ハ鑑札ヲ所持シ且馭者ハ乗合馬車取締規則ヲ所持シ警察官又ハ乘客ニ於テ見シコトヲ求ムルトキハ直ニ之ヲ示スヘシ

第二十條 馭者ハ馬車ヲ離ルヘカラス若シ避シヘカラサル事故アルトキハ馬丁等ヲシテ馬車ノ管守ヲ爲サシムヘシ

第二十一條 老幼婦女ハ勿論總テ乘客ノ昇降及荷物揚卸ノ際ハ懇篤ニ保助シ丁輩ノ取扱ヲ爲スヘシ

第二十二條 乘客若席シ又ハ降車シ畢リタル後ニアラサレハ車ヲ進行スヘカラス

第二十三條 乘客中粗暴ノ所爲アルトキハ之ヲ制止シ若シ肯セサルトキハ降車セシムヘシ

第二十四條 馭者臺ニ客ヲ乗セ又ハ物品ヲ載スヘキ構造ナキ屋根及ヒ車体ノ外部ニ物品ヲ繫載スヘカラス

第二十五條 酩酊中執業シ又ハ行事中飲食シ或ハ喫烟ヲ爲スヘカラス

第二十六條 制ヲ止肯セス出火場其他群集ノ場所ニ馬車ヲ入ルヘカラス

第二十七條 他人ヲシテ馬ヲ馭サシムヘカラス

第二十八條 行人ニ對シ言語動作ヲ以テ乘車ヲ勸メ又ハ侮慢ノ言行ヲ爲スヘカラス

第二十九條 馬車ヲ并ハ馳セ又ハ濫リニ疾驅シ若シハ競走スヘカラス

第三十條 馬車ノ通行及避讓ハ左ノ例ニ從フヘシ

一 馬車ハ中央ヲ通行シ牛馬諸車及歩行者ニ行逢フトキハ左方ニ避ケ軍隊并砲車輜重車ニ對シテハ右方ニ避シヘシ

二 實車ニ對シテハ空車ニ避ケ坂路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ

三 前車徐行シ後車疾行セントスルトキハ後車ヨリ相當ノ合圖ヲナシ前車ハ左方ニ避ケ後車ハ右方ニ通過スヘシ

四 郵便用消防用ニ供スル車馬澁水車又ハ葬送若シハ老幼不具者等ニ行逢フトキハ便宜避讓スヘシ

第三十一條 二車以上引續キ進行スルトキハ後車ハ前車ヨリ三間以上ノ距離ヲ取ルヘシ

第三十二條 往來雜沓又ハ狹隘ノ場所若シハ街角橋上ヲ通過スルトキハ徐行シ相當ノ合圖ヲ爲シ其馬丁アル者ハ馬丁ヲシテ前行セシメ且街角ニ於テハ右ハ大廻ヲ爲シ左ハ小廻ヲ爲スヘシ

第十三類 警 察

百廿九

第三十三條 街角橋上其他往來ノ妨害トナルヘキ場所ニ於テ客ヲ昇降セシムヘカラス  
 第三十四條 險路及道路橋梁ノ破損其他總テ危險ノ虞アル場所ニ於テハ其旨ヲ乘客ニ告ケ降車セシム  
 第三十五條 夜中行車スルトキハ車体兩側ノ硝子燈ニ點火スヘシ  
 第三十六條 馬匹ハ一日十二里以上ヲ驅役シ其他殘虐ノ使用ヲナスヘカラス  
 第三十七條 馬匹ハ一行六里以上驅役スヘカラス但六里以上ニ及フトキハ二時間以上休息セシメタル後ニアラサレハ再ヒ使用スルヲ許サス  
 第三十八條 途中休息ノ時間ハ十分ヲ過シテ得ス其馬匹ノ繼換ヲ爲ストキハ十五分以内駐車スルヲ得

但乘客一同ノ求メニ依リ又ハ其承諾ヲ得タルトキハ本條ノ限リニアラス

第三十九條 途中立場ノ外ニ於テ駐車スルヲ許サス  
 但乘客ノ求メニ依リ一時駐車スルハ此限ニアラス

第四十條 定時發車ハ其時限ニ發車時限ノ定メナキモノハ定員三分ノ一途中ニテ下車スルモノハ半數以上ノ乘客アルトキハ正當ノ理由ナクシテ發車ヲ拒ムヘカラス  
 但乘客本文ノ數ニ滿タサルトキト雖トモ其人員ニ應ズル賃銀ヲ拂ヒタルトキ亦同シ

第四十一條 車輪ノ損傷馬匹ノ疾病等己ムヲ得サル事故アルニ非サレハ途中ニ於テ他ノ馬車ト交換スヘカラス

第四十二條 馭者馬丁ハ濫リニ客座ニ於テ休息スヘカラス

第四十三條 乘客降車ノ際ニハ其遺留品ナキヤニ注意シ若シ之レアルトキハ直チニ返付スヘシ其主分明ナラサルトキハ速ニ最寄警察署分署又ハ巡查ニ届出ヘシ

第四十四條 車体馬匹及器具ハ常ニ清潔ニスヘシ

第五章 乘載ノ制限

第四十五條 乘客ノ定員ハ左ノ制限ニ超ユルヲ得ス

但十年未滿ノモノハ二人ヲ以テ一人ト看做シ三年未滿ノモノハ定員外トス

- 一 一頭牽ハ六人以下
- 二 二頭牽ハ十人以下

第四十六條 車中ニ荷物ヲ積載スルトキハ拾五貫目ヲ以テ一人ノ定量トシ其割合ニテ乘客ノ數ヲ減スヘシ

但拾五貫目以内ト雖トモ合セテ曲尺二尺立方以上ニ至ル毎ニ乘客一人ノ數ヲ減スヘシ  
 第四十七條 左ニ記載シタルモノハ乘載スヘカラス  
 但第一項第三項ヲ除ク外馬車一臺ヲ借切看護人ヲ附シ又ハ相當ノ取締ヲ爲シ他人ヲ乘載セサルトキハ此限ニアラス

- 一 虎列刺、鴈堂扶斯、赤痢、實布の利亞發疹室扶斯、痘瘡ノ六種傳染病及疥癬癩病其他乘客ニ於テ厭忌スヘキ病狀アルモノ
- 二 瘋癲者暴行者亂醉者及乞食体ノ者
- 三 汚穢物其他惡臭ヲ發シ又ハ汚染ノ虞アル物品
- 四 火藥其他劇發物等危險ノ虞アル物品
- 五 獸類

第六章 賃錢及駐車場

第四十八條 賃錢額ハ組合ニ於テ之ヲ定メ所轄警察署又ハ分署ニ届出テ認可ヲ受ケ車内及駐車場并立場ノ見易キ所ニ揭示スヘシ

第四十九條 何等ノ名義ヲ以テスルモ乘客ニ對シ定額外ノ金錢ヲ請求スヘカラス  
 第五十條 駐車場ハ組合ニ於テ道路敷地外ニ之ヲ設ケ所轄警察署又ハ分署ニ届出テ認可ヲ受クヘシ

第十三類 警察

第五十一條 休息又ハ客ヲ昇降セシムル路上立場ハ所轄警察署又ハ分署へ願出テ許可ヲ受クヘシ  
 第五十二條 駐車場ノ地盤ハ石煉瓦敷キ又ハ板ヲ敷キ且馬尿溜ヲ設ケ相當ノ構造ヲナスヘシ但少數ノ馬匹ヲ駐ムル場所ニシテ所轄警察署又ハ分署ノ特許ヲ得タルモノハ此限リニアラス  
 第五十三條 駐車場并立場ハ時々掃除シ常ニ清潔ナラシムヘシ  
 第五十四條 駐車場并立場ニハ某駐車場某立場ト各其地名ヲ記シタル標識ヲ設クヘシ  
 第五十五條 駐車場ノ外馬車ヲ置クヘカラス

第七章 營業組合

第五十六條 馬車營業者ハ各警察署又ハ分署所轄毎ニ組合ヲ設ケ其頭取ヲ置クヘシ  
 第五十七條 頭取ハ組合中ヨリ公撰シ所轄警察署又ハ分署ニ届出テ認可ヲ受クヘシ  
 第五十八條 組合ニ於テハ其規約ヲ定メ所轄警察署又ハ分署ニ届出テ認可ヲ受クヘシ  
 但之ヲ變更セントスル時亦同シ  
 第五十九條 頭取ハ其組合中ノ諸事取締ヲ爲シ且左ノ事項ヲ取扱フヘシ  
 一 營業ニ關スル諸規則命令等ヲ營業ニ通知シ又ハ之ヲ遵守セシムル事  
 二 組合營業者ノ營業ニ關スル願届書ニ不都合ナキモノハ之ニ加印シ意見アルモノハ其旨ヲ記シ添申スル事  
 (第三項ハ廿二年縣令廿號ヲ以テ刪除)  
 四 營業者及馭者馬丁ノ名簿ヲ製シ増減アル毎ニ之ヲ加除スル事  
 五 組合ニ關スル費用ヲ取立及之ヲ仕拂フ事  
 六 組合ニ關スル諸費ヲ決算シ之ヲ組合ニ報告スル事  
 七 頭取ノ撰舉ニ關スル事務ヲ取扱フ事  
 右ノ外規約ヲ以テ定メタル事項

第六十條 左ノ資格ニ適合スルモノニアラサレハ頭取タルコトヲ得ス  
 一 年齢二十五年以上ニシテ其所轄内ニ相當ノ家屋若シハ土地ヲ所有スルモノ  
 二 營業ニ關スル諸規則ヲ解讀シ算筆ニ通スル者

第六十一條 前條ノ資格ニ適合スト雖トモ強盜竊又ハ詐欺取財ノ罪ヲ犯シタルモノ及ヒ監視中ノモノハ頭取タルコトヲ得ス  
 第六十二條 所轄警察署又ハ分署ニ於テ頭取ニ不都合ノ所爲アリト認ムルトキハ臨時改撰セシムルコトアルヘシ  
 第六十三條 以下六十六條迄廿三年縣令第二十號ヲ以テ削除  
 第六十七條 營業者ハ組合ニ關スル費用ヲ負擔スヘシ其費額及ヒ割賦方法ハ規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ  
 第六十八條 組合ニ入ラサルモノハ馬車營業ヲ爲スコトヲ許サス

第八章 罰則  
 第六十九條 本則第一條第二條第三條第四條第六條第七條第八條第九條第十條第十七條第十九條第二十三條第二十二條第二十四條第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條第二十九條第三十二條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條第三十八條第四十條第四十一條第四十三條第四十五條第四十六條第四十七條第四十八條第四十九條第五十二條第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條第六十五條第六十六條第六十七條第六十八條第六十九條第七十條第七十一條第七十二條第七十三條第七十四條第七十五條第七十六條第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條第八十三條第八十四條第八十五條第八十六條第八十七條第八十八條第八十九條第九十條第九十一條第九十二條第九十三條第九十四條第九十五條第九十六條第九十七條第九十八條第九十九條第一百條  
 第十條 督促ヲ受ケテ從ハサルモノ若シハ第十八條第三十一條第三十九條第四十二條第五十五條ノ制止ヲ背セサルモノ第三十條ヲ犯シテ妨害ヲ爲シタルモノハ刑法ニ正條アルモノヲ除キ一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス  
 (二十) 荷馬車營業許可ヲ受ルニ不及件 明治廿一年 二月六日  
 縣令第十一號

荷馬車營業ノ義自今警察本部ノ許可ヲ受ルニ及ハス  
 第十三類 警 察  
 百廿三

但從前營業者ニ下付ノ車体検査証及馭者鑑札ハ本月二十九日迄ニ所轄警察署へ返納スヘシ

(廿一) 荷馬車ノ馬丁其荷馬車へ乗ルヲ禁ス 明治廿二年 九月廿一日  
縣令第六十六號

荷馬車ノ馬丁ニシテ其荷馬車ニ乗ルコトヲ禁ス違フモノハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處シ又ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處ス

但牛車ニ乗ルモノモ亦本條ノ例ニ依テ處分ス

(廿二) 營業人力車取締規則 明治廿一年 十二月廿二日  
縣令第五拾四號

明治二十年(十二月)縣令第九拾貳號營業人力車取締規則別冊ノ通改正ス

營業人力車取締規則

第一章 通則

第一條 人力車營業トハ轆子ヲシテ車ヲ輓カシメ及ヒ自ラ輓テ營業スルヲ云フ

第二條 前條ノ營業ヲ爲サントスル者ハ所轄警察署又ハ分署ニ願出テ免許証ヲ受クヘシ

第三條 營業者ハ轆子ノ族籍氏名年齢ヲ記載シ所轄警察署又ハ分署ニ届出テ一人ニ付鑑札一個ヲ受クヘシ

但營業者自ラ車ヲ輓ク者亦本條ニ同シ

第四條 營業ニ使用セントスル車輛ハ所轄警察署又ハ分署ニ届出テ検査証ヲ受クヘシ

第五條 前條ノ外車体ハ尙毎年二回四月ニ於テ検査ヲ受ケ其検査証ニ檢印ヲ受クヘシ

但左ノ場合ニ於テハ定期ニ抱ハラス検査ヲ受クヘシ

- 一 人力車ヲ買受ケ又ハ讓受ケタル時
- 二 車体ヲ改造シタル時

第六條 検査証アル車輛ト雖トモ第十三條ノ制限ニ適セス又ハ車体器具ノ破損若シハ不潔ニ至リタルヲ認ムルトキハ一時検査証ヲ引上ケ其使用ヲ差止ムヘシ

第七條 左ノ場合ニ於テハ所轄警察署又ハ分署ニ届出テ書換又ハ再渡ヲ請フヘシ

- 一 轉居改氏名其他免許証検査証鑑札面ニ異動ヲ生シタル時
- 二 免許証検査証鑑札ヲ遺失毀損シ又ハ其文字不分明ニ至リタル時

第八條 左ノ場合ニ於テハ所轄警察署又ハ分署ニ届出テ免許証検査証又ハ鑑札ヲ返納スヘシ

但營業者失踪逃亡若シハ死去シタルトキハ其相續人等ヨリ本文ノ手續ヲ爲スヘシ

- 一 廢業又ハ廢車シタルトキ
- 二 人力車ヲ賣渡シ又ハ讓渡シタルトキ
- 三 轆子ヲ解備シ又ハ轆子ノ失踪逃亡若シハ死去シタルトキ
- 四 轆子ノ資格ヲ失ヒタルトキ

第九條 免許証検査証鑑札ハ他ニ貸與スルヲ許サス

第十條 車体検査証及賃錢表ハ車ノ蹴込正面ニ釘付スヘシ

第十一條 營業者ハ検査証及鑑札各一個ニ付手数料金貳錢ヲ納ムヘシ

但書換ニ係ルトキハ各其半額トス

第十二條 本則ニ係ル願届書ハ總テ取締ノ加印ヲ受ケ警察署ニ差出スヘキモノニシテ分署所轄ノモノハ分署ヲ經由スヘシ

第十三條 車体ハ堅牢ニシテ其構造及附屬品ハ左ノ制限ニ從フ

- 一 壹人乗ハ横幅内法二尺未滿二人乗ハ二尺以上トス
- 二 車体ハ黒無地漆塗中張ハ草天鷲絨羅紗ノ類ニシテ染色ノ他ヲ汚染セサルモノヲ用フヘシ

第二章 車体ノ構造及附屬品

第十三條 車体ハ堅牢ニシテ其構造及附屬品ハ左ノ制限ニ從フ

- 一 壹人乗ハ横幅内法二尺未滿二人乗ハ二尺以上トス
- 二 車体ハ黒無地漆塗中張ハ草天鷲絨羅紗ノ類ニシテ染色ノ他ヲ汚染セサルモノヲ用フヘシ

第十三類 警察

- 三 車体ニ同キ塗色ノ泥除ヲ備フヘシ
- 四 車体ノ背面中央ニ方一寸ノ楷書ヲ以テ組合名及検査証ノ番號ヲ判明ニ記スヘシ
- 五 「サム引」又ハ桐油製ノ母衣及ヒ前掛ヲ備フヘシ
- 六 不潔ナラサル蒲團ヲ備フヘシ
- 七 組合名及車体ノ番號ヲ記シタル提灯ヲ備ヘ且嚙燭摺附木ヲ用意スヘシ

第三章 輓子ノ資格及服裝

第拾四條 輓子ハ左ノ資格ヲ有スル者ニ限ル

- 一 年齡滿十八年以上ノ男子ニシテ身體強壯ナル者
- 二 其土地ノ路程ヲ略知スル者

第拾五條 前條ノ資格ニ適合スト雖トモ左ノ各項ニ觸ル、モノハ輓子タルヲ許サス

但證札ヲ與ヘタル後ト雖トモ本文ニ觸ル、トキハ其効ヲ失フモノトス

一 強盜強詐偽取財強姦及過失ニアラサル殺傷罪ヲ犯シタル者

二 幼者ヲ略取誘拐スル罪ヲ犯シタル者

三 監視中ノ者

四 本縣管内ニ本籍又ハ寄留籍ヲ定メタル者

第拾六條 輓子ノ着服ハ法被股引又ハ半股引ヲ用ユヘシ

但雨雪ノトキハサム引又ハ桐油製ノ雨具ヲ用ユルヲ得

第四章 輓子就業制限

第拾七條 輓子ハ鑑札ヲ頸帶シ營業人力車取締規則ヲ所持シ警察官又ハ乘客ニ於テ見ンコトヲ求メ

ルトキハ直ニ之ヲ示スヘシ

第拾八條 頰被シ鉢巻其他不体裁ノ形裝ヲ爲スヘカラス

第十九條 路上ニ彷徨シ又ハ佇立スヘカラス

第二十條 乘客ノ承諾ヲ得ス途中ニ於テ載替又ハ猥リニ駐車スヘカラス

第廿一條 駐車場ノ外人力車ヲ置クヘカラス若シ止ヲ得サル事故アルカ或ハ乘客用辨ノ爲メ往來ノ妨

害トナラサル場所ニ一時駐車スルハ妨ケナシ

第廿二條 乘客ノ指定セサル宿泊店飲食店及其他ノ場所ニ輓入ルヘカラス

第廿三條 制止ヲ肯セス出火場其他群集ノ場所ニ輓入ルヘカラス

第廿四條 行人ニ對シ言語動作ヲ以テ乘車ヲ勸メ又ハ侮慢ノ言行ヲ爲スヘカラス

第廿五條 車ヲ並ヘ輓キ又ハ濫リニ疾驅シテ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第廿六條 人力車ノ通行及避讓方ハ左ノ例ニ從フヘシ

一 道路ノ廣狹ニ拘ハラス中央ヲ通過スヘシ

一 牛車馬及歩行者ニ行逢フトキハ左方ニ避ケ軍隊並砲車輜重車ニ對シテハ右方ニ避クヘシ

三 實車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ坂路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ

四 前車徐行シ後車疾行セントスルトキハ後車ヨリ懸ケ聲ヲナシ前車ハ左方ニ避ケ後車ハ右方ヲ通

過スヘシ

五 郵便用消防用ニ供スル車馬澆水車又ハ葬送若クハ老幼不具者等ニ行逢フトキハ便宜避讓スヘシ

第廿七條 二輛以上ノ車ヲ連繫シテ輓クヘカラス若シ二車以上引續キ疾行セントスルトキハ後車ハ前

車ヨリ二間以上ノ距離ヲ取ルヘシ

第廿八條 往來雜沓又ハ狹隘ノ場所及街角橋上ヲ通過スルトキハ除行シテ懸ケ聲ヲ爲スヘシ又街角ニ

於テハ右ハ大廻ヲ爲シ左ハ小廻ヲ爲スヘシ

第廿九條 街角橋上其他往來ノ妨害トナルヘキ場所ニ於テ客ヲ昇降セシムヘカラス

第三拾條 險路及道路橋梁ノ破損等危險ノ虞アル場所ニ於テハ其旨ヲ乘客ニ告ケ降車セシムヘシ

第十三類 警察

第三十一條 夜中燈火ナクシテ車ヲ輓クヘカラス  
第三十二條 乘客降車ノ際ハ其遺留品ナキヤニ注意シ若シ之レアルトキハ直ニ還付スヘシ其主分明ナラサルトキハ速ニ最寄警察署分署又ハ巡查ニ届出ヘシ

第五章 乘載制限

第三十三條 一人乗ニ二人二人乗ニ三人以上ヲ乘載スヘカラス但十年未滿ノモノハ二人ヲ以テ一人ト見做シ三年未滿ノ者ハ定員外トス

第三十四條 左ニ記載シタルモノハ乘載スヘカラス

- 一 虎列刺、腸室扶私、赤痢、質布の利亞、發疹室扶私、痘瘡ノ六種傳染病及疥癬癩病
- 二 汚穢物其他車ヲ汚染シ又ハ惡臭ヲ留ムヘキ物品
- 三 車体外ニ張出スヘキ長大ノ物品

第六章 車賃及駐車場

第三十五條 人力車ノ賃錢ハ組合ニ於テ之ヲ定メ警察署ニ届出テ認可ヲ受ケ取締所ノ証印アル賃錢表ヲ駐車場ノ見易キ所ニ掲出スヘシ

第三十六條 何等ノ名義ヲ以テスルモ乘客ニ對シ定額外ノ金錢ヲ請求スヘカラス

第三十七條 乘客ニ於テ單ニ行先ヲ示シ其道筋ヲ定メサルトキハ最近ノ路程ニ依リ賃錢ヲ計算スヘシ

第三十八條 駐車場ヲ分チテ左ノ二種トス

- 一 公設駐車場(一般營業人ニ於テ駐車スヘキモノヲ云フ)
  - 二 私設駐車場(一人又ハ數人ニテ設立シ其專用ニ屬スルモノヲ云フ)
- 第三十九條 公設駐車場ハ所轄警察署又ハ分署ニ於テ之ヲ定メ標示スヘシ
- 第四拾條 私設駐車場ヲ道路ニ設ケント欲スルトキハ所轄警察署又ハ分署ニ届出テ許可ヲ受クヘシ
- 第四拾一條 客ノ乗用ニ應ジ難キ人力車ハ駐車場ニ置クヘカラス

第四拾二條 公設駐車場ニ於テハ到着順ヲ以テ 整列シ整列ノ順序若クハ圖取ヲ以テ出車スヘシ

但客ノ特ニ指定シタル場合ハ此限りニアラス

第四拾三條 客ヨリ求メアリタルトキハ正當ノ理由ナクシテ出車ヲ拒ムヘカラス

但暴行者及看護人ナキ瘋癩人ハ此ノ限りニアラス

第四十四條 私設駐車場ハ組合取締人ノ烙印ヲ受ケタル標式ヲ設クヘシ

第七章 營業組合

第四十五條 人力車營業者ハ所轄警察署又ハ分署ノ區域ニ從ヒ組合ヲ設ケ其取締一人ヲ置クヘシ

但組合ハ警察署分署ノ認可ヲ經テ聯合スルコトヲ得

第四十六條 組合ニ入ラサルモノハ人力車營業ヲ爲スコトヲ得ス

第四十七條 取締人ハ組合營業者中ヨリ公撰シ所轄警察署又ハ分署ノ認可ヲ受クヘシ

第四十八條 組合ニ於テ其規約ヲ定メ所轄警察署ニ届出テ認可ヲ受クヘシ

第四十九條 組合取締人ニ於テ取扱フヘキ事項左ノ如シ

- 一 營業ニ關スル諸規則命令等ヲ營業者ニ通知シ又ハ之ヲ遵守セシムル事
  - 二 組合營業者ノ營業ニ關スル願届ニ不都合ナキモノハ之ニ加印シ意見アルモノハ其旨ヲ記シ添申スル事
  - 三 前項ノ書類ヲ進達シ又ハ之ヲ組合營業者ニ傳達スル事
  - 四 營業者ノ名簿ヲ製シ増減アルコトニ之ヲ加除スル事
  - 五 組合ニ關スル費用ヲ取立テ之ヲ任拂フ事
  - 六 組合ニ關スル諸費ヲ決算シ之ヲ組合ニ報告スル事
  - 七 取締人ノ撰舉ニ關スル事務ヲ取扱フ事
- 右ノ外規約ヲ以テ定メタル事項

第十三類 警察

第五十條 營業者ハ組合ニ關スル費用ヲ負擔スヘシ其費額及罰賦方法ハ規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第五十一條 左ノ資格ニ適合スル者ニアラサレハ取締人タルコトヲ得ス

一 年齢二十五年以上ノ男子ニシテ組合區域内ニ相當ノ家屋若シハ土地ヲ所有スル者

二 營業上ニ關スル諸規則類ヲ解讀シ算筆ニ通スル者

三 組合營業者ニシテ人力車二輛以上ヲ所有スル者

第五十二條 前條ノ資格ニ適合スト雖トモ強盜又ハ詐欺取財ノ罪ヲ犯シタル者及ヒ監視中ノ者ハ取締人タルコトヲ許サス

第五十三條 所轄警察署ニ於テ取締人ニ不都合ノ所爲アリト認ムルトキハ臨時改撰セシムルコトアルヘシ

第八章 罰則

第五十四條 本則第二條第三條第四條第五條第七條第八條第九條第十條第十三條ノ五項六項七項第十條第十七條第二十條第二十二條第二十三條第二十四條第二十五條第二十七條第二十八條第二十九條第三十條第三十一條第三十二條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條第四十條第四十一條第四十三條ヲ犯シタル者ハ又第十八條第十九條第二十一條ノ制止ヲ背セサル者第二十六條ヲ犯シテ妨害ヲ爲シタル者ハ刑法ニ正條アルモノヲ除キ一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

(廿三) 人力車夫妨害方 明治十年 一月六日

第一區

戶長

丙第貳號

近來人力車夫等道路ノ中央ニ立塞カリ通行ノ妨ケヲ爲ス者有之趣甚不都合ノ至リニ候條向後右等仕業無之様可申達此旨相達候事

(廿四) 諸製造所建設規則 明治廿二年 五月八日 縣令第三十二號

諸製造所建設規則左之通相定メ即日ヨリ施行ス

但明治二十年(五月)縣令第四十七號全第四十九號ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

諸製造所建設規則

- 第一條 職工十人以上ヲ使用スル製造所ヲ建設セントスルモノハ左ノ各項ヲ具シ戶長ノ與印ヲ所轄警察署又ハ分署ヘ願出許可ヲ受クヘシ其變更ヲ爲サントスルトキ亦同シ
- 一 建設地ノ郡町村名及地番
  - 二 製造品ノ種類并職工男女ノ區別及員數
  - 三 建設地及近隣地所并建物ノ摸樣
  - 四 建物ノ坪數及構造ノ摸樣
  - 五 機械構造ノ摸樣
  - 六 第三項以下ノ摸樣ヲ見得ヘキ圖面
- 第二條 前條ノ許可ヲ受ケタル者其建設ヲ竣リ事業ニ着手セントスルトキハ所轄警察署又ハ分署ヘ届出檢査ヲ受クヘシ
- 第三條 警察署分署ハ既ニ許可シタル後ト雖トモ衛生上ノ障害アルカ若シハ危險ノ虞アルコトヲ發見シタルトキハ其改造ヲ命ジ且事業ヲ停止スルコトアルヘシ
- 第四條 製造所ヲ廢止シ又ハ賣買貸借讓與ヲ爲シタルトキハ三日以内ニ所轄警察署又ハ分署ニ届出シ

第十三類 警察



但賣買ノ貸借讓與ノ居書ニハ双方ノ連署ヲ要ス

第五條 製造所ハ凡ソ左ノ各項ヲ標準トシテ建設スヘシ

但在來ノ建物ヲ充用スル場合ニ於テ標準ニ從フノ不便アルモノハ其事由ヲ願書ニ詳具スヘシ

一 火力ヲ用ユル建物ハ他ノ建物及隣地境界ヨリ六尺以上ノ距離ヲ要ス

二 職業場ノ屋上ニハ地盤ヨリ面積凡ソ十分ノ一ニ下ラサル空氣抜キヲ設クヘシ

三 三十人未滿ノ職工ヲ使用スル工場ニハ高サ六尺以上幅五尺以上ノ出入口二ヶ所以上ヲ設ケ其三十人以上ヲ増ス毎ニ同シク一ヶ所ヲ増設スヘシ

四 工場ニハ開閉自在ナル明リ口ヲ設クヘシ

五 工場ノ地盤ハ濕氣ノ侵サ、ル様堅緻ノ構造ヲ爲スヘシ

六 瀉灌場湯沸場其他猛火ヲ發スヘキ場所ハ煉瓦石造又ハ塗込造トシ高サ三丈以上ノ烟突ヲ設クヘシ

但人家稀疎ノ地ニ於テハ烟突ノ高サ此限ニアラス

七 工場ノ厠ハ井戸飲用水路等ヘ接近スヘカラス

其糞尿池ハ漏泄見透ノ憂ナキ様構造スヘシ

八 工場ノ下水溝ハ堅實ノ材料ヲ以テ底面及周圍ヲ築造スヘシ

第六條 本則第一條第二條第四條第五條ニ違背シ又ハ第三條ノ命令ニ從ハサルモノハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

(參看) 氷力ヲ用ユル諸製造所新設ニ關スル伺及指令 明治二十三年六月二日

○五月十五日北巨摩郡長伺

客年五月縣令第三十二號ヲ以テ諸製造所建設規則制定セラレ候處該製造所中ニハ水車力ヲ以テ機關ニ運轉セシムルノ類)有之右ハ氷利ニ關係アルヲ以テ新設ニ係ルモノハ委任條件第十五項ニ依

リ允許ヲ與ヘ而シテ右規則第一條ニ從ヒ所轄警察署ヘ出願セシムヘキ哉

○全月廿一日

何之通

(廿五) 屠獸場取締規則 明治廿一年三月廿九日

縣令第二十二號

屠獸場取締規則左之通相定メ明治十二年甲第七十二號布達屠牛營業并屠牛場取締規則ヲ廢止ス

屠獸場取締規則

第一條 此規則ニ稱スル屠獸場トハ諸人ノ害メニ應シ食料ニ供スル牛馬羊豕ヲ屠殺スル所ヲ云フ

第二條 屠獸場ヲ設置セントスルモノハ左ノ各項ヲ具シ縣廳ヘ願出免許ヲ受クヘシ

一 設置地ノ郡町村名字地番

二 設置地及其近隣ノ摸樣

三 場所構造ノ摸樣

四 第二項第三項ヲ詳明スル繪圖

第三條 縣廳ニ於テ前各項ヲ調査シ衛生上ノ障害アリト認ムルトキハ之ヲ免許セス又既ニ免許シタルモノト雖トモ更ニ衛生上ノ障害アルコトヲ發見スルトキハ其免許ヲ取消スコトアルヘシ

第四條 第二條ニ依リ屠獸場設置ノ免許ヲ得タルモノ工事落成シタルトキハ所轄警察署又ハ分署ニ届出檢査ヲ受クヘシ

檢査ヲ受ケタル上ニ非サレハ屠獸ヲナスコトヲ得ス

第五條 屠獸場ノ摸樣ヲ變更セントスルトキハ縣廳ニ届出認可ヲ受クヘシ變更後警察署又ハ分署ニ届出テ檢査ヲ受ルハ前條第一項ニ同シ

第六條 屠獸場ヲ廢止シ又ハ賣渡讓渡ヲ爲シタルトキハ其都度縣廳ニ届出ヘシ但賣渡讓渡ノ居書ニハ

第十三類 警 察

百四十三

双方ノ連署ヲ要ス

第七條 屠獸場所有人轉居又ハ改氏名ヲ爲シタルトキハ其都度縣廳へ届出へ

第八條 屠獸場ハ左ノ標準ニ從ヒ設置スヘ

- 一 屠獸場ハ國道假定縣道及人民幅濶ノ地ニ接近スヘカラス
- 一 屠獸場ハ人家及飲用水路ヲ距ル六十間以上タルヘ
- 一 屠獸ノ周圍ニハ土手又ハ埴塀ノ類ヲ設クヘ

但山林原野等ニシテ人家及人民幅濶ノ地ヲ遠隔スルモノハ此限ニアラスト雖トモ適宜ノ區畫ヲ立テ置クヘ

第九條 屠獸ノ臘皮骨及ヒ汚穢物ノ類ハ其都度之ヲ取除キ常ニ場内ヲ清潔ナラシムヘ

第十條 屠獸ヲナサントスルトキハ其都度所轄警察署又ハ分署へ届出檢査官吏ノ出張ヲ請フヘ

第十一條 出張檢査官吏ニ於テ病獸ト認ムルトキハ其屠殺ヲ禁シ肉質不良ト認ムルトキハ其食料ニ供スルヲ禁スルコトアルヘ但屠殺及ヒ食料ニ供スルヲ禁シタルモノ、處置ハ出張檢査官吏ノ指揮ニ從フヘ

第十二條 屠殺手数料ハ屠獸ノ種別ニ從ヒ其額ヲ定メ豫テ所轄警察署又ハ分署ノ認可ヲ受クヘ其増減ヲ要スルトキモ亦同

第十三條 屠獸場ニハ免許屠獸場ト大書シタル看板ヲ掲クヘ

第十四條 此規則ニ依リ縣廳へ差出ス書面ハ總テ所轄警察署又ハ分署ヲ經由スヘ

第十五條 免許ヲ受ケスレテ屠獸場ヲ開設シ及此規則第四條第二項第五條第六條第七條第十一條但書

第十二條又ハ第九條第十三條ニ違背シ督促ヲ受ケテ猶從ハサルモノハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附 則

明治十二年甲第七十二號布達屠牛營業并ニ屠牛場取締規則ニ依リ許可ヲ得タル屠牛場ハ本年四月三十日迄ハ本則ニ依リ免許ヲ得タル屠獸場ト同効ヲ有スルモノトス此期限ヲ過キ猶該場ニ於テ屠獸ヲナサントスルモノハ本則第二條ニ準シ更ニ願出免許ヲ受クヘ

(廿六) 牛馬羊豕屠殺ノ件 明治廿一年 三月廿九日

縣令第二十三號

食用ニ供スル牛馬羊豕ハ自用ト販賣トニ拘ハラズ縣廳ノ免許ヲ受ケタル屠獸場外ニ於テ屠殺スルヲ得大違フモノハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

(廿七) 街路取締規則 明治二十年 十二月廿一日

縣令第八拾九號

街路取締規則別冊之通相定メ明治廿一年二月一日ヨリ甲府市ニ施行ス

但本則第七條各項及第八條八項ニ觸ル、モノハ從前許可ヲ得タルモノト雖トモ更ニ允許ヲ受クヘ

(別冊)

街路取締規則

第一章 通 則

第一條 街路ト稱スルハ道敷及ヒ道敷ニ沿フヤル下水并橋梁トス

第二條 本則ハ市街ノ街路ニ適用ス

第三條 街路ノ掃除撤水及溝渠下水ノ浚濬ハ左ノ區別ニ從ヒ負擔スヘ

但負擔人ニ於テ特ニ受負人ヲ定メタルトキハ其旨ヲ所轄警察署ニ届出ヘ

第一項 掃除撤水ハ街路ノ中央ヲ劃リ兩側居住者官署公廨社寺ノ負擔トス片側居住ノ街路ハ其居住者ニ於テ路ノ全部ヲ負擔スヘ

第二項 明家明地ノ地先ハ前項ノ區別ニ從ヒ各地主又ハ管理者ノ負擔トス

第三項 溝渠下水ノ浚濬ハ街路ノ中央ヲ劃リ兩側地主又ハ管理者ノ負擔トス

第十三類 警 察

第四項 橋梁ノ掃除ハ該町村ノ負擔トス  
第四條 本則ニ於テ人民ノ負擔スヘキ義務ヲ怠ルトキハ官ニ於テ執行スルコトアルヘシ  
此場合ニアツテハ其費用ヲ徵收ス

第二章 街路ノ安寧及保存

- 第五條 街路ニ建物軒窗旗掛招牌物干等ヲ設ケ又ハ出スヘカラス
- 第六條 左ノ諸件ニ係ルモノハ允許ヲ受ケス街路ニ出スコトヲ得
  - 但官ニ於テ通行ノ妨害アリト認ムルトキハ取除カシムルコトアルヘシ
  - 一 釣看板ハ地盤ヲ距ル八尺以上ニ限リ二尺以内
  - 二 日除(綿布又ハ麻ノ類)ハ支柱ヲ用ヒス地盤ヲ距ル七尺以上ニ限リ三尺以内
  - 三 掲燈ハ地盤ヲ距ル七尺以上ニ限リ一尺以内
  - 四 軒窗ハ地盤ヲ距ル九尺以上ハ二尺六尺以上ハ一尺以内
- 第七條 左ノ事項ハ其場ノ圖面(道幅及出願物件ノ面積)ヲ添ヘ所轄警察署ヘ願出允許ヲ受クヘシ
  - 一 街路店店發賣張ヲ設クルコト
  - 二 街路ニ樹木ヲ植ヘ又ハ井戸其他下水等ヲ穿堀若クハ修理スルコト
  - 三 街路ニ柵欄支柱ヲ設ケ又ハ齒止石ヲ置クコト
  - 四 街路ニ華表碑表及指道標街燈其他公衆ノ用ニ供スル標識ヲ建設スルコト
  - 五 公共ノ爲メ街路ニ火ノ見消防器具置場及便所ヲ設置スルコト
  - 六 工事ノ爲メ一時街路ニ竹木土石類ヲ置キ或ハ板圍繩張足代ヲ設ケ其他街路ヲ使用スルコト
  - 七 街路ヲ經テ建物ヲ移シ又ハ街路ヲ壅塞スヘキ長大ノ物件ヲ運搬スルコト
  - 八 一時街路ニ市場舞臺(神佛祭典等ノ節)店師及建札ヲ設クルコト

- 九 街路ニ神輿山車又ハ手踊屋臺ヲ出スコト
- 十 神佛送迎ノ爲メ街路ニ飾物ヲ出シ又ハ奉納物ヲ牛車ニテ運搬スルコト
- 十一 工事ノ爲メ一時通行ヲ停止スルコト
- 十二 車馬通行停止ノ榜示アル場所ニ車馬ヲ出入スルコト
- 十三 塲所ヲ定メ露店又ハ屋臺店ヲ出スコト
- 十四 街路ニ沿フタル私有地ニシテ九尺以内ニ便所又ハ塵溜塲ヲ設クルコト
- 第八條 街路ヲ使用シ之ヲ毀損シタル者ハ直ニ原形ニ復スヘシ
- 第九條 宅地ト街路トノ境界ニハ石煉化大板等ヲ以テ溝渠ヲ設ケ且之レニ雨水ヲ流シ込ムヘキ構造ノ覆蓋ヲ爲スヘシ
- 但地形ニ依リ溝渠又ハ覆蓋ヲ要セサルモノハ此限ニ非ス
- 第十條 街路ニ出シタル軒窗ニハ軒繩及ヒ堅繩ヲ設クヘシ其堅繩ハ街路ノ地盤ニ設クルコトヲ得ス  
但檐滴ノ溝渠ニ落ルモノ及堅繩ノ溝渠ニ滌クモノハ本條ノ限リニアラス
- 第十條 街路ニ沿フタル宅地ニシテ奥行九尺以上ノ空地アル場所ハ道敷ノ境界ニ塼塼ヲ設クヘシ  
但市街ノ体裁ヲ損セサルモノハ此限ニアラス
- 第十二條 街路ニ沿フタル塲所ニ竹木ヲ立置クトキハ鐵鎖其他強靱ナル繩索ヲ以テ之ヲ縛束シ又薪炭其他ノ物件ヲ堆積スルモノハ頗ル仆セサル様堅牢ノ裝置ヲ爲スヘシ
- 第十條 街路ニ沿フタル建設物及樹木等崩壞顛仆ノ虞アルモノハ速ニ修理撤却若クハ扶植伐採スヘシ
- 第十條 街路ニ竹木土石類ヲ置キタルトキ又ハ溝渠凹所等ニハ蓋圍若クハ標識ヲ設ケ其危險ヲ防クヘシ
- 第十條 運搬中建物若クハ長大ノ物件ヲ夜中街路ニ停メ置クトキハ路傍ニ片寄セ標識ヲ掲クヘシ

第十三類 警察

- 第拾六條 街路ノ井戸ニシテ通行ノ妨害トナルヘキモノハ地井ニ墜牢ナル蓋ヲ以テ之ヲ覆フヘシ
  - 第拾七條 道路橋梁溝渠下水ヲ毀損壅塞シ街路ノ樹木ヲ伐採シ又ハ街燈ヲ破毀消滅スヘカラス
  - 第拾八條 制札指道標便所及塙壁等ヲ毀棄汚損シ又ハ之レニ樂書貼紙ヲ爲スヘカラス
  - 第拾九條 街路ニ商品薪炭荷車其他ノ物件ヲ排列シ又ハ出シ置クヘカラス
  - 第廿條 街路ニ於テ荷造木挽其他ノ作業ヲ爲スヘカラス
  - 第廿一條 街路ニ於テ火器ヲ弄シ若シハ焚火ヲ爲シ又ハナサシムヘカラス
  - 第廿二條 街路ニ家畜ヲ放置シ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス
  - 第廿三條 街路ニ於テ犬其他ノ獸類ヲ嘯シ又ハ驚逸セシメ若シハ殘虐ニ扱フヘカラス
  - 第廿四條 街路ニ於テ濫リニ放歌シ若シハ高聲ヲ發スヘカラス
  - 第廿五條 街路ニ於テ喧噪シ又ハ偃臥スヘカラス
  - 第廿六條 發狂人ノ看守ヲ怠リ路上ニ徘徊セシムヘカラス
  - 第廿七條 街路ニ於テ看護人ナク五年未滿ノ小兒ヲ遊歩セシメ又ハ遊戯ヲ爲サシムヘカラス
  - 第廿八條 街路ニ於テ紙屑ヲ揚ケ又ハ獨樂羽子手毬等ヲ弄シ若シハ其他ノ遊戯ヲ爲スヘカラス
  - 第廿九條 街路ニ於テ軍談輕業其他人寄セテ爲スヘカラス
  - 第三十條 行商ニ用フル荷車ハ長サ八尺巾三尺屋臺店ハ長サ六尺巾三尺ヲ超過スヘカラス
- 第三章 街路ノ清潔
- 第三十一條 街路ハ常ニ清潔ニ掃除ヲ爲シ塵芥雜草ヲ存スヘカラス
  - 第三十二條 街路ノ積雪ハ午前八時迄ニ掃除スヘシ
  - 但午前八時後日沒迄ハ降歇後掃除スヘシ
  - 第三十三條 掃除シタル雪ハ河川其他妨害ト爲ラサル場所ニ投棄スヘシ

- 第二十四條 炎天及風日ニハ時々街路ニ淨水ヲ撒クヘシ
  - 但冬季ハ風日ト雖トモ午前九時午後二時後ハ水ヲ洒クヘカラス
  - 第二十五條 下水ハ毎年二回(四月十月)ニ浚潔シ若シ塵芥等疏通ヲ壅塞スルトキハ臨時浚潔スヘシ
  - 第二十六條 街路ニ於テ便所ニアラサル場所ニ大小便ヲ爲シ又ハ爲サシムヘカラス
  - 第二十七條 溝渠等ノ汚水又ハ魚鳥其他不潔物ヲ洗滌シタル水ヲ路上ニ洒注スヘカラス
  - 第二十八條 瓦礫塵芥禽獸ノ死屍又ハ汚穢物ヲ街路溝渠等ニ投棄スヘカラス
  - 第二十九條 下水凌ヘ揚ケノ淤泥塵芥等ヲ路上ニ布キ又ハ路傍ニ留置クヘカラス
  - 第四十條 街路ニ於テ敷物壘穀類其他ノ塵芥ヲ掃フヘカラス
  - 第四十一條 街路ニ運搬スル物品ハ墜落漏出又ハ飛散セシムヘカラス
  - 第四十二條 街路ニ臨ミタル屋根物干又ハ窓手摺等ニ纏繞其他見苦敷若シハ危險ナル物品ヲ置クヘカラス
- 第四章 道路通行
- 第四十三條 牛馬及ヒ諸車ハ夜中燈火ナクシテ牽クヘカラス
  - 第四十四條 馬車及牛車ハ幅員二間以内ノ街路ヲ通行スヘカラス但其街路ニ沿フタル家屋ニ出入スルモノハ此限リニアラス
  - 第四十五條 車ハ小兒車ヲ除クノ外其種類ノ如何ヲ問ハズ跡押ノミニテ運轉スヘカラス
  - 第四十六條 末口ノ尖リタル竹木等ヲ運搬スルトキハ其末口ヲ繩束スヘシ
  - 第四十七條 牛馬諸車ハ街路ノ中央ヲ通行スヘシ
  - 第四十八條 牛馬諸車ヲ並ヘ轆キ又ハ濫ニ疾驅シテ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス
  - 第四十九條 車ヲ連繫シテ轆クヘカラス但長大ノ物件ヲ運搬スル爲メ數車連結スルハ此限ニアラス
  - 第五十條 牛馬三頭以上ヲ連繫シテ牽クヘカラス

但賣買等ノ爲メ輸送スル牛馬ハ此限ニ在ラズ

第五十一條 車馬及歩行者行進フトキハ互ラ左ニ避ケ軍隊并砲車輜重車ニ對シテハ右ニ避ケヘシ

第五十二條 實車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ坂路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ

第五十三條 前車徐行シ後車疾行セントスルトキハ後車ヨリ相當ノ合圖ヲ爲シ前車ハ左ニ避ケ後車ハ右ヲ通過スヘシ

第五十四條 郵便用消防用ニ供スル車馬及濯水車又ハ葬送等ニ行進フトキハ便宜避讓スヘシ

第五十五條 往來雜沓又ハ狹隘ノ場所及街角橋上ヲ通行スル車馬ハ徐行スヘシ

第五十六條 車馬街角ヲ通行スルトキハ右ハ大回リチナシ左ハ小回リチナシ爲スヘシ

第五十七條 牛馬諸車其他ノ物件ヲ道路ニ横タヘ通行ノ妨害ヲナスヘカラス

第五十八條 制止ヲ肯ンセシメテ出火場其他雜沓ノ場所ニ牛馬諸車ヲ牽入ルヘカラス

第五十九條 街角橋上其他往來ノ妨害ト爲ルヘキ場所ニ牛馬諸車ヲ駐止スヘカラス

第六十條 街路ニ行立シ又ハ空車ヲ輓テ彷徨シ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第六十一條 諸車及ヒ牛馬ヲ牽キ又ハ繫シコトヲ忍カセシ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第六十二條 街路ノ樹木又ハ街燈等ニ牛馬ヲ繫シヘカラス

第六十三條 本則第五條第七條第九條第十條第十條第十條第二十條第二十二條第二十三條第二十四條第二十六條第二十七條第二十八條第二十九條第三十條第三十一條第三十二條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條第四十條第四十一條第四十二條第四十三條第四十四條第四十五條第四十六條第四十七條第四十八條第四十九條第五十條第五十一條第五十二條第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條第六十五條第六十六條第六十七條第六十八條第六十九條第七十條第七十一條第七十二條第七十三條第七十四條第七十五條第七十六條第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條第八十三條第八十四條第八十五條第八十六條第八十七條第八十八條第八十九條第九十條第九十一條第九十二條第九十三條第九十四條第九十五條第九十六條第九十七條第九十八條第九十九條第一百條

ル者ハ刑法ニ正條アル者ヲ除キ一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上壹圓九拾錢以下ノ科料ニ處ス

(廿八) 道路取締規則 明治廿二年 八月十日 縣令第五拾七號

道路取締規則左ノ通相定メ來ル九月一日ヨリ施行ス

道路取締規則

第一條 道路ト稱スルハ道敷及道敷ニ沿フアル下水并ニ橋梁トス

第二條 本則施行ノ箇所ハ告示ヲ以テ別ニ之ヲ定ム

第三條 道路ノ掃除撤水溝渠下水ノ浚深ハ左ノ區別ニ從ヒ負擔スヘシ

但負擔人ニ於テ特ニ受負人ヲ定メタルトキハ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

第一項 掃除撤水浚深ハ道路ノ中央ヲ劃リ兩側居住者(官署公廨社寺)ノ負擔トス

第二項 片側居住ノ道路ハ其居住者ニ於テ全部ヲ負擔スヘシ

第三項 明家明地ノ地先ハ前項ノ區別ニ從ヒ各地主又ハ管理者ノ負擔トス

第四條 本則ニ於テ人民ノ負擔スヘキ義務ヲ怠ルトキハ官ニ於テ執行スルコトアルヘシ此場合ニアツテハ其費用ヲ徵收ス

第五條 道路ニ建物軒檐旌柱招牌物干等ヲ設ケ又ハ出スヘカラス

第六條 左ノ諸件ニ係ルモノハ免許ヲ受ケス道路ニ出スコトヲ得

但官ニ於テ通行ノ妨害アリト認ムルトキハ取除カシムルコトアルヘシ

一 釣着板ハ地盤ヲ距ル八尺以上ニ限リ二尺以內

二 日除ハ(綿布又ハ麻ノ類)支柱ヲ用キス地盤ヲ距ル七尺以上ニ限リ三尺以內

第十三類 警察



- 六 信州往還中 自中巨摩郡貢川村 至北巨摩郡河原部村
  - 七 駿信往還 自南巨摩郡增穂村 至北巨摩郡鳳來村國境
  - 八 谷村往還 自北都留郡廣里村 至南都留郡谷村
  - 九 沼津往還 自南都留郡谷村 至同郡瑞穂村
- (三十) 墓地埋葬取締細則 明治十八年 二月十九日  
甲第八號
- 明治十七年(十月)太政官第二十五號布達ニ依リ墓地及埋葬取締細則別紙之池之ヲ定ム  
但明治十六年(九月)甲第五拾二號布達ハ自今廢止ス
- 右布達候事

墓地及埋葬取締細則

- 第一條 墓地ハ從前許可シタルモノニ限ル但己ムヲ得サル事狀アリテ之ヲ取廣メ又ハ新設セントスルトキハ更ニ願出テ許可ヲ受クヘシ
- 從前許可シタル墓地ト雖トモ第二條ニ抵觸スルモノハ特ニ埋葬ヲ禁止スルコトアルヘシ
- 第二條 墓地ヲ新設セントスルトキハ縣道相當以上ノ道路及ヒ大川ニ沿ハス人家ヲ隔ルコト凡ソ六拾間以上ニシテ土地高燥欲用水ニ障礙ナキ地ヲ撰ミ且左ノ各項ヲ具シ管轄郡役所ヲ經テ縣廳ニ願出ツヘシ
  - 一 縣道相當以上ノ道路并河川ニ用水人家ノ距離
  - 二 地種地目并反別
  - 三 第一項ノ形樣ヲ見ルヘキ地圖

第三條 墓地ハ種族宗旨ヲ別ラス其町村ニ本籍ヲ有シ若シハ其町村ニ於テ死亡シタルモノ何入ニテモ之ニ葬ルコトヲ得

但從前別段ノ習慣アルモノハ此限ニ非ラス

死刑ニ處セラレタルモノハ墓地ノ一隅ヲ區畫シテ其内ニ埋葬スヘシ

第四條 墓地ノ周圍(墓地ト墓地ニ非ラサ)ニハ樹木ヲ栽ユヘシ墓地ノ内ニハ壹丈以上ノ樹木ヲ栽ヘ又ハ塀牆ヲ設クヘカラス但從前ヨリ現存スルモノハ此限ニアラス

第五條 擴穴ノ深サハ六尺以上タルヘシ若シ土地ニヨリ六尺ニ至リ難キモノ及ヒ火葬ノ遺骨ヲ埋藏スルモノハ格別トス

第六條 火葬場ハ人家及ヒ人民幅濶ノ地ヲ隔ル凡ソ百貳拾間以上ニシテ風上ニ位セサル地ヲ撰ヒ火爐

煙筒ヲ備ヘ臭煙ヲ防クノ裝置ヲナシ且周圍ニ塀牆ヲ設クヘシ但山林原野等ニシテ人家及ヒ人民幅濶

ノ地ニ邊隔ノ場所ナルトキハ必ス此構造ヲ爲サハルモ妨ケナシ

第七條 火葬場ヲ新設セントスルトキハ左ノ各項ヲ具シ管轄郡役所ヲ經テ縣廳ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

一 人家并人民幅濶地ヘノ距離

二 地種并反別

三 第壹項ノ形樣ヲ見ルヘキ地圖并火葬場構造ノ繪圖

第八條 火葬ハ成ルヘシ日沒後之ヲ行フヘシ

第九條 墓地及火葬場ハ清潔ヲ旨トシ掃除修繕ヲ怠ルヘカラス

第十條 墓標ヲ建設セント欲スルモノハ碑文ノ稿本ヲ添ヘ(第一號書式ニ據リ)所轄警察署又ハ分署ニ願出ツヘシ

但死者ノ姓名官位勳爵法號及生死ノ年月日建立者ノ氏名等ヲ記スルニ止マリ誌銘傳贊等ノ碑文ヲ

第十三類 警察

百五十五

刻セサルモノハ許可ヲ受クルノ限ニアラス

第十一條 墓地火葬場ニハ管理者ヲ定メ置キ其氏名ハ所轄警察署又ハ分署ヘ届ケ置クヘシ

第十二條 死屍ヲ埋葬又ハ火葬セントスルトキハ主治醫ノ死亡届書ヲ添ヘ市役所又ハ村役場ニ届出テ

(第二號書式ニ據ル)市長又ハ村長ノ認許證ヲ受クヘシ但左ノ場合ニ於テハ醫師ノ死亡届書ニ代ルニ

檢案書又ハ證書ヲ以テスヘシ

一 醫師ノ治療ヲ受クル猶豫ナシテ死亡シタル者ハ醫師ノ檢案書ヲ添フヘシ

一 妊娠四ヶ月以上ノ死胎ニ係ルトキハ醫師若クハ産婆ノ死産證書ヲ添フヘシ

一 變死ニ係ルトキハ立會醫師ノ檢按書ニ檢視官ノ檢印ヲ乞ヒ之ヲ添フヘシ

一 囚徒ノ死屍ヲ引取埋葬又ハ火葬セントスルモノハ獄醫ノ死亡證書ニ司獄官ノ檢印ヲ乞ヒ之ヲ添

フヘシ

第十三條 市長又ハ村長ハ前條ノ届書若クハ證書檢案書ヲ領收スルニアラサレハ埋葬若クハ火葬ノ認

許證ヲ附與スヘカラス但認許證ハ埋葬火葬届書ニ式ノ如ク朱書シ之ヲ附與スヘシ

第十四條 改葬ヲ爲サントスルトキハ改葬ヲ要スル事由ヲ具シ(第二號書式ニ據ル)所轄警察署(又ハ

分署)ニ願出ツヘシ

第十五條 葬主ハ市長又ハ村長ヨリ附與シタル認許證又ハ警察署(又ハ分署)ヨリ附與シタル許可證ヲ

管理者ニ交付シ而シテ後埋葬火葬又ハ改葬ヲ執行スヘシ

火葬ノ遺骨ヲ埋葬スルトキハ市長又ハ村長ヨリ附與シタル火葬認許證ノ寫ニ火葬場管理者ノ認印ヲ

受ケ墓地管理者ニ交付スヘシ

甲ノ墓地ニ埋葬シタルモノヲ乙ノ墓地ニ改葬スルトキハ甲地所轄警察署(又ハ分署)ノ許可證ヲ甲ノ

墓地管理者ニ交付シ其寫ニ甲ノ墓地管理者ノ認印ヲ受ケ乙ノ墓地管理者ニ交付スヘシ

第十六條 管理者ハ葬主ヨリ領收シタル市長又ハ村長ノ認許證ヲ編纂シ每三ヶ月所轄警察署(又ハ分

署)ノ檢閱ヲ受ケ之ヲ市役所又ハ村役場ヘ差出スヘシ其警察署ヨリ發シタル許可證ハ之ヲ警察署

(又ハ分署)ニ差出スヘシ

第十七條 管理者ハ墓地ノ繪圖及墓籍ヲ製シ置キ其墓籍ニハ左ノ各項ヲ記載スヘシ

一 死者ノ氏名年齢族籍

一 葬主ノ氏名族籍

一 埋葬ノ年月日時

第十八條 第一條第一項第二項第三項第七條第十條第十二條第十三條第十四條第十五條ニ違背シタル

モノ又ハ第四條第九條第十一條第十六條第十七條ニ違背シ督促ノ命令ニ従ハサル者ハ一日以上三日

以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓廿五錢以下ノ科料ニ處ス

附 則

本則第一條從前許可シタル墓地トハ寺院舊境内ニ係ル檀家共葬ノ墓地及一村若クハ一部落共葬ノ墓地

並此規則發行以前新ニ許可ヲ受ケタル共葬墓地ヲ云フ其他從來宅地又ハ田畑畔際及山野等ニ設ケアル

單用若クハ數人共有ノ墓地ニ於テハ埋葬スルヲ許サス

(第一號)

墓標建設願

山梨縣何郡(市)何町幾番地(寄留)

土族平民

何

某

一 墓碑 堅何尺何寸

一 墓碑 横何尺何寸

右ハ私亡 父母子孫 何誰明治何年何月何日何處墓地ニ埋葬致候處今般墓標建設仕度候ニ付別紙碑文ノ稿

本相添此段相願候也

第十三類 警察

右

百五十七



年 月 日

前書之通出願ニ付與印候也

山梨縣何警察署御中

何 某印

百五十八

(第二號) 年 月 日

前書之通出願ニ付與印候也

埋(火)葬届

(市村)長 何 某印

何郡(市)何町村

(第二號) 年 月 日

前書之通出願ニ付與印候也

埋(火)葬届

山梨縣何郡(市)何町幾番地(寄留)

士族平民何誰(父母子孫兄弟姉妹)

何 某

當何年何月幾年幾ヶ月

右ハ何年何月何日何々ノ病症相發シ何月何日何時終ニ死去候ニ付何日何時何處ニ埋(火)葬致度候間認

許証御附與有之度別紙醫師死亡届(檢案)相添此段及御届候也

右 戸主(親戚) 何 某印

年 月 日

前書之通出願ニ付與印候也

右届出之趣ヲ領承シ埋(火)葬ヲ認許ス

何郡(市)何町村 某印

(第三號) 年 月 日

前書之通出願ニ付與印候也

改葬願

(市村)長 何 某印

何郡(市)何町村

山梨縣何郡(市)何町幾番地(寄留)

士族平民 某

何 某

私亡(父母子孫兄弟姉妹)何誰何年何月何日何處墓地ニ(假)埋葬致置候處今般何々(事由詳ナルヲ要ス)ニ依リ何所墓所ニ改葬仕度此段相願候也

年 月 日

前書之通出願ニ付與印候也

山梨縣何警察署(分署)御中

右 何 某印

前書之通出願ニ付與印候也

(參看) 墓地及埋葬取締規則

第廿五號布達

明治十七年十月四日

(市村)長 何 某印

年 月 日

前書之通出願ニ付與印候也

墓地及埋葬取締規則

何郡(市)何町村

第一條 墓地及火葬場ハ管轄廳ヨリ許可シタル區域ニ限ルモノトス

第二條 墓地及火葬場ハ總テ所轄警察ノ取締ヲ受クヘキモノトス

第三條 死體ハ死後二十四時間ヲ經過スルニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲナスコトヲ得ス

但別段ノ規則アルモノハ此限リニアラス

第四條 區長若クハ戸長ノ認許証ヲ得ルニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲナスコトヲ得ス

但改葬ヲナサントスル者ハ所轄警察署ノ許可受テシヘシ

第十三類 警 察

百五十九

第五條 墓地及火葬場ノ管理者ハ區長若クハ戶長ノ認許証ヲ得タル者ニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲナ

サシムヘカラス又警察署ノ認許証ヲ得タル者ニ非サレハ改葬ヲナサシムヘカラス

第六條 葬儀ハ寺堂若クハ家屋構内又ハ墓地若クハ火葬場ニ於テ行フヘシ

第七條 凡ソ碑表ヲ建設セント欲スル者ハ所轄警察署ノ許可ヲ受クヘシ其許可ヲ得シテ建設シタ  
ルモノハ之ヲ取除ケシムヘシ

但墓地外ニ建設スルモノ亦之ニ準ス

第八條 此規則ヲ施行スル方法細則ハ警視總監府知事縣令ニ於テ便宜取設ケ内務卿ニ届出ヘシ  
右布達候事

(卅一) 共葬墓地外ニ於ケル埋葬ヲ禁ス 明治十六年 九月十九日  
甲第五拾貳號

寺院舊境内ニ係ル從前檀家共葬ノ墓地及一村若クハ一部落共葬ノ墓地並今後新ニ許可ヲ受ケ共葬墓地  
ノ外從來宅地又ハ田畑畔際及山野等ニ設ケタル單用若クハ數人共有ノ墓地ニ於テ埋葬儀相成ラス  
右布達候事

(卅二) 銃砲買賣讓與其他願届出方 明治廿一年 十一月十七日  
縣令第五十號

銃砲買賣讓與其他右ニ關スル願届方自今左之通相定ム

但明治十八年(八月)本縣甲第六十七號同年(十月)同第七十六號布達ハ廢止ス

第一 軍用銃ヲ買受ントスルモノハ其住所ノ警察署ヘ願出免手形ヲ受クヘシ

第二 軍用銃ヲ讓與セントスルモノハ(其讓主)双方連署ノ上其讓主所轄警察署ヘ願出ヘシ

第三 軍用銃ノ檢印ヲ要スルモノハ其所轄警察署ヘ願出ヘシ

第四 免許銃ヲ賣渡シ若シハ讓與スルモノハ双方連署ノ上賣主又ハ讓主ノ所轄警察署又ハ分署ヘ届  
出ヘシ

但他府縣ニ係ルモノハ連署ニ及ハス其一方ヨリ届出ヘシ

第五 銃砲(軍用免)所持人ニシテ左ノ場合アルトキハ所轄警察署又ハ分署ヘ届出テヘシ

一 轉居又ハ代替

一 銃砲所持ノ上寄留及復歸

一 銃砲ノ水火盜難

一 廢銃又ハ改造

第六 前各項ノ手續ニ違背シタルモノハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

但刑法及罰則ニ觸ル、モノハ各其明文ニヨリテ處分セラルヘシ

(卅三) 火藥取締細則 明治廿四年 四月六日  
縣令第三十六號

火藥取締細則左之通相定ム

但明治十四年甲第三百二十三號布達明治二十年縣令第八十六號明治二十一年縣令第四十九號ハ本則施  
行ノ日ヨリ廢止ス

火藥取締細則

第一條 火藥取締規則以下規則 第二條ニ依リ火藥類賣買營業鑑札ヲ受ケントスル者ハ其願書ヲ作り所  
轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ差出スヘシ

第二條 煙火製造販賣ノ業ヲ營マントスル者ハ所轄警察官署ニ願出免許ヲ受クヘシ但線香花火手牡丹  
ノ類ヲ販賣スルハ此限ニアラス

第三條 前二條ノ營業ヲ爲サントスル者十六歳未満若シハ白痴瘋癲瘖啞者ナルトキハ後見人ヲ立ツヘ

第十三類 警察

- 第四條 火藥類買賣營業者ニテ規則第二十條ノ停止ヲ受ケタルモノハ一旦廢業ヲナシ更ニ願出ツルモ其停止期限經過ノ後ニアラサルハ免許セス
- 第五條 左ノ場合ニ於テハ煙火製造及販賣營業者ハ所轄警察官署火藥類買賣營業者ハ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出五日以内ニ鑑札又ハ免許証ノ書換再渡若クハ返納ノ手續ヲナスヘシ但死亡ノ場合ニ於テハ相續人ヨリ本文ノ手續ヲナスヘシ
  - 一 轉居改氏名シタルトキ
  - 二 鑑札又ハ免許証ノ遺失毀損若クハ文字不分明ニ至リタルトキ
  - 三 廢業又ハ死亡シタルトキ
- 第六條 祭典祝事其他賑ヒノ爲メ煙火ヲ打掲ケ又ハ發砲セントスル者ハ其日時場所種類整量及事由ヲ記シ所轄警察官署ニ届出認可ヲ受ケヘシ
- 第七條 規則第三條ニ依リ火藥類ノ抛下ケヲ受ケントスル者ハ出願ノ際鑑札ヲ携帯スヘシ
- 第八條 規則第六條ノ官許ハ日出前日没後ニ於テ火藥類ノ賣買運搬荷造等ヲ爲サハル可カラサル事由ヲ詳記シ所轄警察官署ニ願出ツヘシ
- 第九條 火藥類ハ其營業店舖又ハ倉庫火藥若クハ假貯藏所ノ外ニ於テ賣買荷造等ヲ爲スヘカラス
- 第十條 規則第七條及第十二條ノ火藥類買賣届ハ附録書式ニ據ルヘシ
- 第十一條 火藥類買賣營業者廢業シタルトキハ十日以内ニ前條ノ手續ヲ爲シ現在ノ火藥類ハ規則第八條ニ依リ營業者ニ賣渡スヘシ
- 第十二條 規則第十條ニ依リ内務大臣ノ特許ヲ受ケントスル者ハ其事由ヲ記シタル願書ニ通テ作リ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ差出スヘシ
- 第十三條 規則第十三條第二項ニ依リ火藥類ヲ倉庫ニ貯藏セントスルモノハ其種類數量期限等ヲ詳記シタル願書ニ近傍ノ摸樣ヲ知り得ヘキ圖面ヲ添ヘ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ差出スヘシ

- 第十四條 規則第十五條及第二十條ニ依リ火藥庫又ハ假貯藏所ヲ建設若クハ其位置ヲ變更セントスル者ハ其願書ヲ作り近傍四隣火藥庫ハ五十間假貯藏所ハ一百間以内ノ地自己ノ所有ニアラサルトキハ其地主ト連署シ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ差出スヘシ
- 第十五條 火藥庫又ハ假貯藏所ノ建築又ハ其構造變更ノ工事竣リタルトキハ所轄警察官署ニ届出檢査ヲ受ケヘシ
- 第十六條 規則第二十一條ニ依リ煙火製造所ヲ設ケ又ハ其位置ヲ變更セントスル者ハ其届書ニ近傍十間以内ノ摸樣ヲ知り得ヘキ圖面ヲ添ヘ所轄警察官署ノ檢査ヲ受ケヘシ但其距離内ニアル地所自己ノ所有ニアラサルトキハ其地主ト連署スヘシ
- 第十七條 倉庫假貯藏所及煙火製造所ニハ大書シタル標札ヲ掲シヘシ
- 第十八條 左ニ掲グルモノハ倉庫火藥庫假貯藏所又ハ煙火製造所ニ入ラシムヘカラス
  - 一 發火質ノ物品ヲ携帯スル者
  - 二 靴ヲ穿テタル者
- 第十九條 規則ニ依リ警察署ニ爲スヘキ願届ハ分署所轄内ニ於テハ其分署ニ爲スコトヲ得
- 第二十條 本則第二條第十五條第十六條ニ違背シタルモノハ刑法第四百二十五條ニ據リ處分ス
- 第二十一條 本則第五條(第二テ除ク)第六條第九條第十七條ニ違背シタルモノハ一日以上五日以内ノ拘留又ハ貳拾錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス

(附録書式)

明治何年何月火藥類買賣届

買入ノ部

第十三類 警察

品目	數量	買入月日	賣主住所職業	氏名
外國製火藥				
內國製雷管				
外國製何々				
計				

賣捌ノ部

品目	數量	買入月日	買主住所職業	氏名
內國製雷管				
外國製火藥				
計				

現在ノ部

品目	數量	越	高	現	在
外國製火藥					
外國製雷管					
外國製何々					

內國製何々	計

右之通相違無之候也

年 月 日

何 警 察 官 署 御 中

何 市 郡 何 町 村 火 藥 類 買 賣 業 人  
何 ノ 誰 印

(卅四) 有害鳥獸防除規則 明治廿四年  
縣令第七十五號 十月廿六日

有害鳥獸防除規則左之通相定ム

但明治十八年(九月)甲第七十二號布達ハ廢止ス

有害鳥獸防除規則

第一條 鳥獸ノ害ヲ防カン爲メ空砲ヲ發スルヲ威銃トシ有害ノ鳥獸ヲ除カン爲メ實彈ヲ發スルヲ殺銃トス

第二條 威銃又ハ殺銃ヲ行ントスルモノハ左ノ各項ヲ具メタル書面ヲ以テ所轄警察官署ニ願出免許ヲ受クヘシ

一 威銃及殺銃者ノ住所身分職業氏名年齡

二 被害ノ場所及被害ノ情況

三 被害物及有害鳥獸ノ名稱

四 防除ノ期間

但三箇月ヲ超ルヲ得ス

第十三類 警 察

五銃名

- 但和銃玉目四匁八分以下若クハ西洋獵銃ニ限ル
- 第三條 左ニ列記シタルモノハ威殺銃ヲ行フコトヲ許サス
  - 一 十六歳未満
  - 二 瘋癲白痴癡啞者
- 第四條 威殺銃ハ免許外ノ場所ニ於テ之ヲ行フヲ得ス
- 第五條 殺銃ハ左ノ場合ニ於テハ發射スルコトヲ得ス
  - 一 人家道路ニ銃丸ノ達スヘキ恐アルトキ
  - 二 免許外ノ鳥獸
  - 三 日出前日没後
- 但必要ナリトスルトキハ特ニ所轄警察官署ニ届出認可ヲ受シヘシ
- 第六條 殺銃ハ一旦許可シタル後ト雖モ威殺銃ニテ其害ヲ防キ得ルモノト認ムルガ又ハ危險ノ虞アルトキハ射殺ヲ差止ルコトアルヘシ
- 第七條 免狀ハ買賣讓與又ハ貸借ヲ許サス
- 第八條 免狀ハ左ノ場合ニ於テハ七日以内ニ所轄警察官署ニ届出其書換ヲ請フヘシ
  - 一 改氏名轉居ノトキ
  - 二 免狀ヲ毀失シタルトキ
- 第九條 免狀ハ左ノ場合ニ於テハ本人又ハ相續人ヨリ十日以内ニ所轄警察官署ニ返納スヘシ
  - 一 防除期間ヲ經過シタルトキ
  - 二 死亡シタルトキ
  - 三 免許ヲ取消シ又ハ射殺ヲ差止メタルトキ

第十條 威殺銃ヲ行フトキハ必ラス免狀ヲ攜帶スヘシ若シ警察官又ハ巡査ヨリ求めアリタルトキハ之ヲ示スヘシ

第十一條 銃殺シタル鳥獸ハ買賣スルヲ得ス

第十二條 本則ニ違背シ又ハ威殺銃ヲ以テ人ヲ殺傷シ若シシハ人ニ損害ヲ加ヘタルモノハ其病情ニ因リ免許ヲ取消スコトアルヘシ

第十三條 本則ニ違犯シタルモノハ一日以上十日以内ノ拘留又ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附 則

- 一 従前ノ免狀ヲ有スルモノハ來ル三十一日限り所轄警察官署ニ届出免狀ノ書換ヲ請フヘシ
- (卅五) 有害鳥獸威殺銃ノ許可ヲ與ヘシ者届出方ノ事 明治十八年十一月十七日

郡 役 所  
警 察 署

本年(九月)本縣甲第七十二號布達有害鳥獸威殺銃取締規則ニ依リ威殺銃ノ許可ヲ與ヘタルトキハ每一ケ月分取調翌月七日限り別紙雛形ニ倣ヒ届出ツヘシ  
但該規則施行ノ日ヨリ本年十月三十一日迄許可ヲ與ヘタル分ハ本文ニ準シ來ル三十日限り届出ツヘシ  
右相達候事

威殺銃免許人名届離形

明治何年 威「殺」銃免許人名御届  
中何月

第十三類 警 察

許可年 月日	期限 何年月 何日	免許番號	有害鳥 獸名	被害 物名	住所身分 何郡何町村士 族又ハ平民	職業	資格及氏名 被害主 何之誰
○全	○全	○全	○全	○全	○全	○全	○又ハ被害場管理人 何之誰
○全	○全	○全	○全	○全	○全	○全	○何
合計							何人

右及御届候也

年 月 日

山梨縣令宛

何郡(何警察署)長何某

(卅六) 威銃鑑札下付スル者空砲ヲ發スルモノニ限ル件 明治十七年 六月廿五日 乙第四拾九號

郡役所ニ於テ有害ノ鳥獸ヲ除ク爲メ威銃トシテ免許鑑札ヲ下付スル者ハ空砲ヲ發スルモノニ限リ候儀ト可心得此旨相達候事

(卅七) 鳥獸獵免狀ニ關スル届出及返納 明治廿三年 一月廿七日 縣令第貳號

鳥獸獵免狀ヲ受ケ其獵期中族籍姓名ヲ變更シ又ハ住居ヲ移轉シタルトキハ所轄郡市役所ニ届出其他管ヨリ寄留セル者ニシテ本管ニ復歸シ及ヒ管内外ヲ問ハス轉籍若シハ寄留シテ引續キ銃獵スルモノハ甲乙ノ郡市役所ニ警察署ニテ取扱ニ届出該免狀ハ獵期後廿日以内ニ當初受取リタル管廳ニ返納スヘシ但明治十八年(十一月)甲第八十四號布達ハ廢止ス

(卅八) 銃獵期限 明治廿二年 四月九日 縣令第二十五號

自今銃獵免許期限ハ毎年九月十五日ヨリ翌年五月十五日迄テ一期ト定ム但豫テ下渡シ置キタル本期間免狀ハ本月三十日限所轄郡役所へ申出訂正ヲ乞フヘシ (卅九) 畜犬取締規則 明治十九年 二月廿三日 甲第十三號

畜犬取締規則別紙之通之ヲ定ム 右布達候事

(別紙) 畜犬取締規則

第一條 畜犬ニハ必ス畜主ノ住所氏名ヲ明記シタル標札ヲ其頸部ニ繫付スヘシ若シ標札ヲ付セサルモノハ畜主ナキモノトシ何人ニテモ之ヲ撲殺スルヲ得

第二條 畜犬疫病ニ罹リタルトキ若シハ狂亂シテ人ヲ害スルノ恐アルトキハ畜主ニ於テ速ニ之ヲ撲殺スヘシ若シ畜主ニ於テ撲殺シ難キトキハ所轄警察署又ハ巡行ノ巡查ニ届出テ處置ヲ受クヘシ其他性質兇猛ナルモノハ畜主ニ於テ相當ノ取締(鑛鎮ヲ以テ之ヲ禦キ又ハ)ヲ爲スヘシ

第三條 前條ニ違背シタルモノハ違警罪ニ依リ處分セララルヘシ (四十) 富士川漁獵取締 明治廿一年 三月廿三日 縣令第十八號

富士川漁獵取締左之通相定ム

富士川漁獵取締

第一條 富士川ニ於テ漁獵ノ爲メ架テ構設スルヲ許サス 第二條 富士川ニ於テ留テ設ケ漁獵セントスルモノハ其口徑及設置場所ヲ記載シ所轄警察署又ハ分署

第十三類 警察

ニ願出テ許可ヲ受シヘシ

第三條 前條留設置ノ時間ハ黄昏ヨリ黎明迄トシ該漁具構造ノ爲メ水中ニ杭柵ヲ樹テ其他流形ヲ變更スルノ所爲アルヘカラス

第四條 前各條ニ違背シタルモノハ一日以上十日以下ノ拘留又ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第五條 本令ハ本年四月一日ヨリ施行ス

(四十一) 猪鹿等ヲ捕フル爲メ機關銃ヲ用フルヲ禁ス 明治六年 二月

第六十六號

猪鹿又ハ野狐ヲ獲シカ爲メ種々ノ機關銃ヲ設ケ或ハ機關銃ヲ仕掛置夫カ爲メ過テ殺傷ヲ受ケル者往々有之ニ付右條ノ設致候義以來可爲嚴禁旨去壬申十月中相達置候處右觸面ノ趣未相辨者モ有之哉其後モ同條ノ次第ニテ人命損害候義再三有之以テノ外ニ付殊更軍用銃ノ義ハ平常發砲不相成候旨兼テ申渡置候ヲ違背致シ濫リニ取出相用候者モ有之畢竟村役人共シテ方不行届ノ義ニ可有之候條銃砲所持主ハ勿論其他ノ者ニ至ル迄禁令ノ趣及中間猶ホ當分ノ内適宜ノ場所ニ揭示致シ置屹度取締可致事

右之趣無洩可揭示候也

第六十四號 明治六年 八月二日

猪鹿或ハ野狐ヲ獲シカ爲メ機關銃ヲ設ケ置ヨリ過テ殺傷ヲ受ケルモノ度々有之ニ付可爲嚴禁旨去壬申十月中并當年廿六號ヲ以テ及布達候通リノ處其後被仰出ノ次第モ有之深山曠野猛獸往來ノ處ニ於テ設ケル所ノ抗穿者ニテモ一目瞭然ノ望望抹眉索ヲ建サル者ハ其過誤人ヲ危殆ニ陥ルニ義ニ付刑律ノ條ニ係ラサルヲ得ス若シ其疎漏ヨリシテ重キ人命ヲ損傷スルニ至ラハ其罪ノ不輕素ヨリ論テ不俟義ニ付若シ猛獸ノ害除カサルヲ得サル事故アリ己ムヲ得スト雖トモ其往來スル處人跡ヲ絶ツノ地ヲ選ニ標

若等ノ設疎漏ノ儀有之間敷事ニ付區戸長ニ於テ先々ヨリノ布達書ノ趣意ヲモ篤ト説諭シ管内人民ヲテ堅ク相守候様精々注意可致事

右之趣管内無洩相達スル者也

第二百廿四號 明治六年 十月十五日

猪鹿ヲ獲シカ爲メ機關銃ヲ設ケ置候儀ハ嚴禁ノ旨壬申十月并本年第廿六號ヲ以テ相達其後被仰出ノ趣モ有之ニ付猶又第百六十四號ヲ以テ布達致シ置候處先月以來機關銃ノ爲メニ命ヲ害ス者既ニ兩人ニ及ヒ右ハ度々布達ノ趣未々貫徹セス區戸長ノ説諭疎漏ニシテ普ク行届カサルヨリ重キ人命ヲ損害スルニ至リ實以不容易儀ニ付今機關銃取扱候義一切嚴禁候條追々相達候通リ區戸長ニ於テ急度可申聞萬一犯禁ノ者猶有之ハ本人ハ勿論其關係正副戸長ノ越度ニ屬シ嚴重處分可有之候間此旨可相心得事

右之趣管内無洩相達スルモノ也

(四十二) 博奕ニ紛敷所業ヲ禁ス 明治六年 五月十一日

甲第百五號

一博奕其他賭ノ勝負ハ兼テ御禁止ニ有之然ル上ハ右ニ紛敷所業致ス間敷ハ勿論ノ處從來スニコ或ハムサシアナイチト唱ヘ錢木實等ヲ以テ勝負ヲ争フノ類兒童ノ戯ト雖トモ成長ノ後終ニ博奕等好ムノ盪腸ヲリ甚宜シカラサル風俗ニ付向後一切禁止候條父兄ヨリ篤ト可申聞若斯ク者有之ニ於テハ其父兄ノ越度タルヘキ事

(四十三) 講中ト唱ヘ病者ノ祈禱ヲ爲スヲ禁ス 明治六年 五月十五日

第百五號

金昆羅講大嶽山講駒ヶ嶽講題目講杯相唱ヘ多人數仲間ヲ結ヒ病者ノ祈禱等執行ヒ或ハ種々ノ名目ヲ以テ勸化イケン時トシテハ多人數集合シ無益ニ時日ヲ費シ候舊弊有之今日ノ時体ニシテ如此野郎ノ所業ハ有之間敷筋ニ付右ノ類已後一切令禁止候事

第十三類 警 察

甲第八拾六號 明治十四年六月十八日

從前金昆維講訓ヶ嶽講題目講杯ト稱へ多人數仲間ヲ結ヒ病者ノ祈禱等執行候義禁止候旨明治六年五月中相達置候處近來妙法講社ト稱スル信徒同様ノ所爲ヲ以テ唱題シ爲メニ病者醫藥ヲ需メサル等ノ弊有之趣相聞衛生上ノ障害不少ニ付自今病家ニ於テ右等唱題スル義禁止候條此旨布達候事

(四十四) 野守雇入心得方 明治七年二月廿八日

甲第四拾八號

各村雇置候野守之儀ハ其村內耕地養水路ノ見廻作物ノ妨害等防護シ其他一村內ノ雜事使役ニ供スル爲メノ趣意ニテ畢竟尋常ノ各家雇人ノ其雇主ニ對シ其職務ヲ盡スモ全一ニシテ其被雇ノ村方ニ對シタル用向ノ外關係無之等ノ處退々相違候舊來村番人ノ惡習于今不相改動モスレハ他區他村迄モ立入威權ケ間敷名ヲ詮議等ニ托シ惡事ヲ見通シ内濟取計金錢貪取候條ノ惡行有之趣相聞不届ノ事ニ候右様不正ノ者ハ取糾至當ノ處分可有之候得共抱置候村方ニテモ野守ノ職分ヲ誤認致シ候ヨリ前件ノ如キ弊ヲ生メ又一般人民ニ於テモ野守ノ趣意ヲ不相辨役員ノ様相心得候者モ有之旁不都合不少一休人民保護取締ノ義ハ裁判所ニ於テモ逮部ヲ置キ縣廳ニテモ巡邏ノ番人ヲ設ケ惡徒追捕搜索等擔任候事ニテ野守ニ於テ右様不心得ノ所行有之候テハ公ノ權ヲ犯シ候儀ニ相當リ以テノ外ノ事ニ付以來各村正副戸長ニ於テ篤ト人撰ノ上雇入急度取締可致向後猶モ舊習不相改ニ於テハ品ニ寄リ其村正副戸長ノ越度タルヘク候依テ野守雇入心得方別紙ニ相示候條厚ク可相心得事

但野守之義ハ可成相廢シ伍長等ニテ日課ヲ立村內取締ノ方法協議可致事

右之趣管内無相違ル者也

(別紙) 野守雇入心得

一 野守ノ儀ハ一村內ノ雇人ニテ尋常農商其他一家雇人同一般ノ儀ニ付總テ其雇主ニ對シタル事件ノ外他ニ關係爲致尚敷事

一 雇入ノ大要ハ村內耕地ノ礙碍養水路ノ安危等ヲ見廻リ其他林藪或ハ社寺堂宮等ニ隱レ忍フ胡亂ノ者有無等心付或ハ平常村內一般ノ雜事ニ使役スル者ト可心得事

一 村內見廻リ先ニ於テ若盜賊等現ニ惡業有之歟或ハ人家へ忍入等見受候節ハ差押へ不若候得共唯不審ト見認ル迄ニテ現ニ惡業不見届者ヲ捕押ユル事一切不相成是等ハ早々村役へ報知差圖ヲ受シヘク自己ノ存意ヲ以テ差押又ハ他區他村迄モ立入候等ノ儀有之問敷事

但現ニ惡行不見届其近傍村々ヨリ追逐シ來ル歟又ハ布達人相害ニ似寄ノ者或ハ持凶器人ヲ殺傷スルノ類臨時急遽ノ際村役へ届ル暇無之場合等ハ此限ニ非スト雖トモ素ヨリ雇主へ對シ防護スル迄ノ職ト可相心得事

一 耕地ノ妨害ヲナスカ又ハ諸惡行有之者差押方ハ村役ヨリ差圖ノ外他人ノ囑托ヲ受ケテ取計ノ事一切不相成假令輕キ事ニテモ頼ミテ受見通シ又ハ取通シ金錢等貪取ル等ノ義ハ勿論堅ク可相戒事

(四十五) 荷車地車ノ臺木ニ地摺木結附ケ不相成件 明治十三年十二月廿七日

甲第百八十八號

近來諸街道坂路ニ於テ材木薪柴等運搬スル荷車地車ノ臺木へ地摺木ヲ結附ケ路上ヲ推輓スルモノ間々有之右ハ甚シシ道路ヲ損壞シ不都合ニ付爾今地摺木ヲ附シ推輓候義一切不相成候條此旨布達候事

(四十六) 漂流物届出方 明治十四年十月十六日

甲第百四十九號

暴雨洪水ノ爲メ諸河川ニ漂流シタル材木物品等引揚又ハ拾ヒ得タルモノハ明治八年第六十六號公布内國難破船及漂流物取扱規則全十年第十九號公布ニ準據シ處分スヘキモノニ付右漂流木等引揚ケ又ハ拾ヒ得候モノハ取纏メ置速ニ所轄警察署又ハ分署へ届出ツヘシ此旨布達候事

(四十七) 盜難届出方 明治廿二年十月十二日

縣令第七十四號

第十三類 警察



自今盜難ニ罹リ候者ハ其年月日時及被盜品ノ種類員數并見積代價等書面又ハ口頭ヲ以テ迅速最寄警察署分署巡査駐在所若シハ巡行ノ警察官吏ヘ届出ヘシ

(四十八) 格魯兒酸加溜謨等賣買授受届出方

明治廿二年十一月九日

縣令第八拾三號  
醫師藥劑師藥種商製藥者格魯兒酸加溜謨(鹽素酸加溜謨又ハ鹽酸加里)ヲ賣買授受スルトキハ豫メ其斤量及需用ノ目的ヲ明記シ左ノ書式ニ從ヒ賣主授主ノ管轄警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受クヘシ但警察官ハ臨時其現品ヲ檢査スルコトアルヘシ前項ノ手續ニ違反シ賣買授受ヲ爲シタルモノハ壹圓以上壹圓九十五錢以下ノ科料又ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處ス本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

(書式)

格魯兒酸加溜謨

斤量

右ハ(工職用等何々)必要ニ付前書ノ斤量(賣買)(授受)致度御認可被成下度候也

本籍府何郡何町何村何番地

現住地何府何郡何町何村何番地

(買主)(受主) 氏 名 實印

何府何郡何町何村何番地

(賣主)(授主) 氏 名 實印

年 名 全 齡

何警察本分署長宛

(紙濃美ハ又紙半紙用)

(四十九) 舊虛無僧休ヲ爲シ市町村ヲ徘徊スル者禁止 明治二十三年十一月十七日 縣令第七十號

舊虛無僧ノ休ヲ爲シ市町村ヲ徘徊シ金錢ヲ乞フコトヲ禁ス違フ者ハ五十錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料又ハ一日以上五日以下ノ拘留ニ處ス

(五十) 瘋癲病者ヲ鎖鋼セントスルトキ出願方 明治二十年五月廿四日 縣令五拾號

瘋癲病者保護ノ爲メ私宅ニ鎖鋼セントスルトキハ其家屋ノ圖面并ニ室ノ構造書及醫師診斷書ヲ添ヘ親族連署ヲ以テ所轄警察署又ハ分署ニ願出テ認可ヲ受クヘシ

但鎖鋼シタルトキハ其旨所轄警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ

(五十一) 市町村設置ニ係ル水火消防組ノ件 明治廿四年一月廿九日 訓令第三號

市町村ニ於テ設置シタル水火消防組ハ所轄警察官署ノ監督ニ屬シ尙現場ニ於テハ警察官ノ指揮ヲ受クヘシ

但消防組ヲ新設候迄ハ既設ノ消防組ヲ適宜使用スルコトヲ得

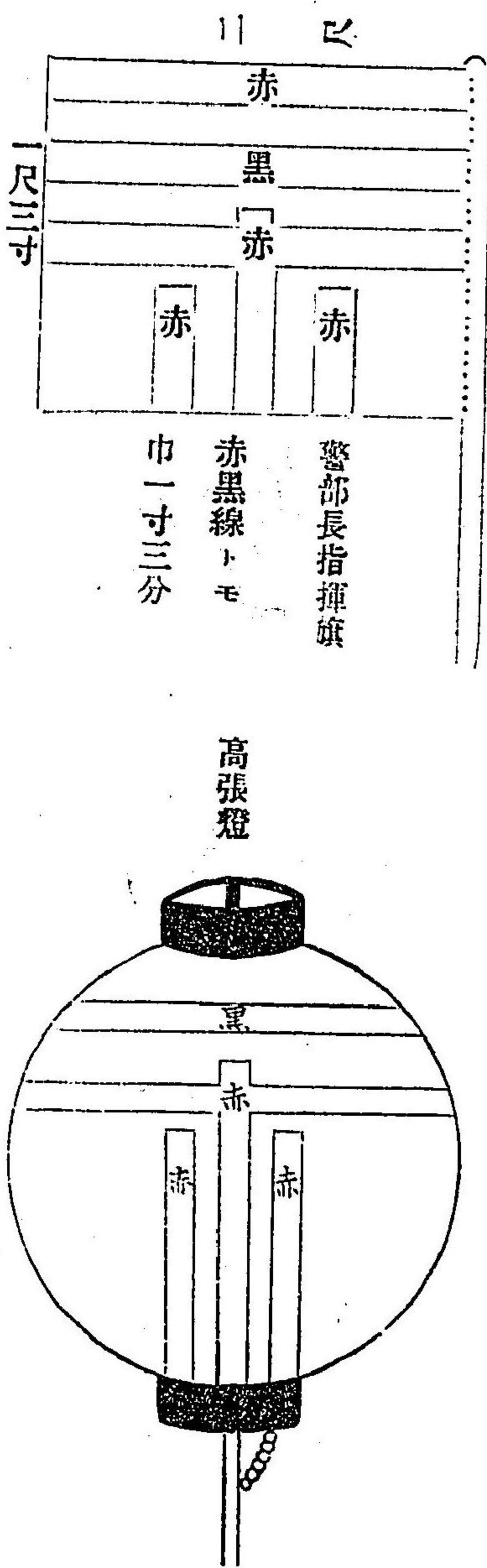
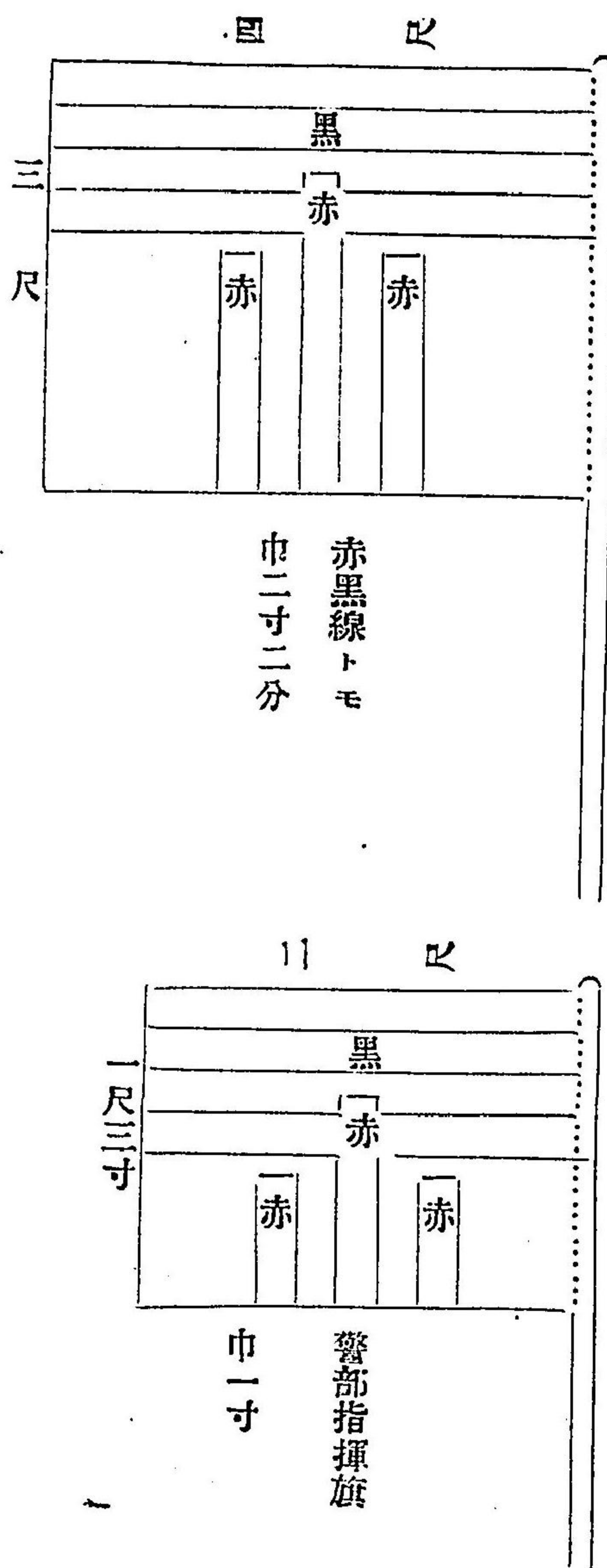
(五十二) 非常出火鐘報方 明治十五年三月二十日 告示第十六號

非常又ハ出火ノ節火ノ見場若シハ學校寺院等ニ於テ大鼓或ハ鐘ヲ以テ報告スルニハ左ノ信號ニ依ルヘシ此旨告示候事

第十三類 警察

- 但明治七年甲第九十六號布達ハ廢止ス
- 第一 市街及ニ接續村落又ハ村內出火ノ節ノ信號
  - 第二 縣廳裁判所監獄署近傍出火ノ節信號
  - 第三 鎮火信號
  - 第四 非常信號

(五十三) 非常ノ場合警察官出張ノトキ用ユヘキ旗提灯ノ件  
 告示第八號  
 明治廿三年 一月廿七日  
 水火災其他非常ニ際シ臨時警察官出張ノ節ハ左圖ノ如キ旗及提灯ヲ用ユ



(五十四) 違警罪即決例ニ據リシル犯人通知方  
 訓令第四十四號  
 明治廿二年 七月十三日

元戸長役場

刑法第四百廿七條第十及明治十九年内務省令第十九號第一條乃至第四條ノ違犯者ヲ違警罪即決例ニ據リ即決シ其裁判確定セントキハ自今警察署又ハ分署ヨリ其都度通知スヘキ筈ニ候條此旨相心得ヘシ  
 (參看) 刑法拔萃

第四百廿七條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上壹圓ニ拾五錢以下ノ科料ニ處ス

十 死亡ノ申告ヲ爲サスニテ埋葬シタル者  
 廢戶主廢嫡其他諸届方  
 明治十九年 九月廿八日  
 内務省令第十九號拔萃

第一條 出產アリタルトキハ十日以内ニ届出ヘシ

第十三類 警察

第四條 廢戶主廢嫡改名復姓身分變換其他願濟ノ上戸籍ニ登記スヘキ事項ハ其許可ノ指令ヲ受領シ

タル月ヨリ十日以内ニ届出ヘシ

(五十五) 菊御紋賣物等ニ畫シテ禁ス 明治十三年 四月十二日

甲第四十九號

菊御紋ヲ賣物等ニ畫キ候義并紛敷品相用候義不相成旨明治元年三月廿八日同四年六月十七日公布ノ趣有之候處近來往々賣品ニ御紋章ヲ畫キ候同キ有之哉ノ旨ヲ以テ取締方其筋ヨリ違ノ趣モ有之候條今後右様ノ義無之様可致此旨相達候事

菊御紋章ノ件 明治元年 三月廿八日

一 禁裡御用或ハ禁裡御料又ハ禁裡御内外ト會符榜示杭標札等ニ畫記シ候義ハ有之間布事ニ候處往々見受候ニ付以來屹度相改御用御料ト而已畫記致シ候様 被仰出候事

但標札ハ姓名相記シ又ハ官名役名等記シ候義不苦候事

一 提燈又ハ陶器其外賣物等ニ御紋ヲ畫キ候事共如何之儀ニ候以來右之類御紋ヲ私ニ附候事急度可禁止旨 被仰出候事

但御用ニ付是迄被免之分モ一應何出可申事

右之通 被仰出候條未々迄不洩様可申達事

○由緒ノ有無ニ不拘皇族ノ外菊御紋ヲ禁ス 明治四年六月 十七日布告

菊御紋禁止ノ義ハ兼テ御布告有之候處猶又向後由緒ノ有無ニ不關皇族ノ外總テ被禁止候尤御紋ニ紛敷品相用候義モ同様不相成候條相改可申事

但從來諸社ノ社頭ニ於テ持來リ候分ハ地方官ニ於テ取調可申出事

(五十六) 用水井戸取設ノ節出願方 明治十一年 三月廿五日

丙第貳拾九號

第一區々長

自今市中用水取設ノ節ハ甲府警察署へ願出候様區内へ可相達此旨相達候事

(五十七) 圖書出版届ノ件 明治十六年 十二月廿二日

甲第六十五號

圖書出版届ノ義ハ調理ノ都合モ有之候ニ付自今其出版期ヨリ廿五日以前當廳へ差出スヘシ右布達候事

(五十八) 新聞雜誌等受賣届出方 明治廿二年 二月廿三日

縣令第三號

明治十九年本縣甲第七號布達左之通改正ス

新聞紙雜誌受賣人届出方

新聞紙發賣所及發賣人ニアラスニテ新聞紙雜誌ノ受賣ヲ爲サントスルモノハ其種類ヲ所轄警察署又ハ分署へ届出ヘシ轉住改氏名及新聞紙雜誌ノ種類ヲ増減シタルトキ亦同シ

(五十九) 山梨縣警察官署名稱及所轄區域 明治廿四年 三月十六日

縣令第三十號

本縣警察官署名稱及所轄區域左表之通改定本年四月一日ヨリ施行ス

但西山梨郡警察署ハ甲府市警察署ニ東八代郡警察署勝沼分署ハ東山梨郡勝沼分署内ニ併置シ中巨瀬郡警察署ハ同郡龍王村四百四拾四番戸ニ設置ス

山梨縣警察區畫

第十三類 警察





- (六十五) 腐敗ノ魚類販賣ヲ禁ス 全上
- (六十六) 甲府市街飲用水路材木等流下スルヲ禁ス 全上
- (六十七) 飲食物ニ覆蓋ヲ爲スヘキ件 全上
- (六十八) 飲食物ニ着色スヘカラザル品種ノ件 全上
- (六十九) 逃亡失踪者届出方 第七類戸籍ノ項ニ就テ看ルヘシ
- (七十) 實印彫刻改刻其他届出方 全上
- (七十一) 種牡牛馬取締規則 第十類農商工ノ目ニ就テ看ルヘシ
- (七十二) 富士川通船營業取締規則 第十一類回漕運輸ノ目ニ就テ看ルヘシ
- (七十三) 道路修繕ノ爲メ通行停止ノトキ所轄警察署ニ處分請求ノ件 第十二類土地土功ノ目ニ就テ看ルヘシ
- (七十四) 俗ニ輕氣球ト稱スルモノヲ放揚スルヲ禁止ノ件 明治廿四年九月廿一日
- 縣令第六十六號
- 自今紙又ハ布類ニテ製シタル袋ノ下端ニ火ヲ點シタル俗ニ輕氣球ト稱スルモノヲ放揚スルコトヲ禁ス
- 違フモノハ金五十錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス
- (七十五) 有益鳥類獵獲禁止 第十類農工商ノ部ニ付テ見ルヘシ

明治廿五年五月卅一日印刷  
 同 年六月一日出版

編纂者  
 發行者

山梨縣甲府市常盤町八番地  
 內藤傳右衛門

印刷者

山梨縣甲府市常盤町七番地  
 內藤泰次郎

